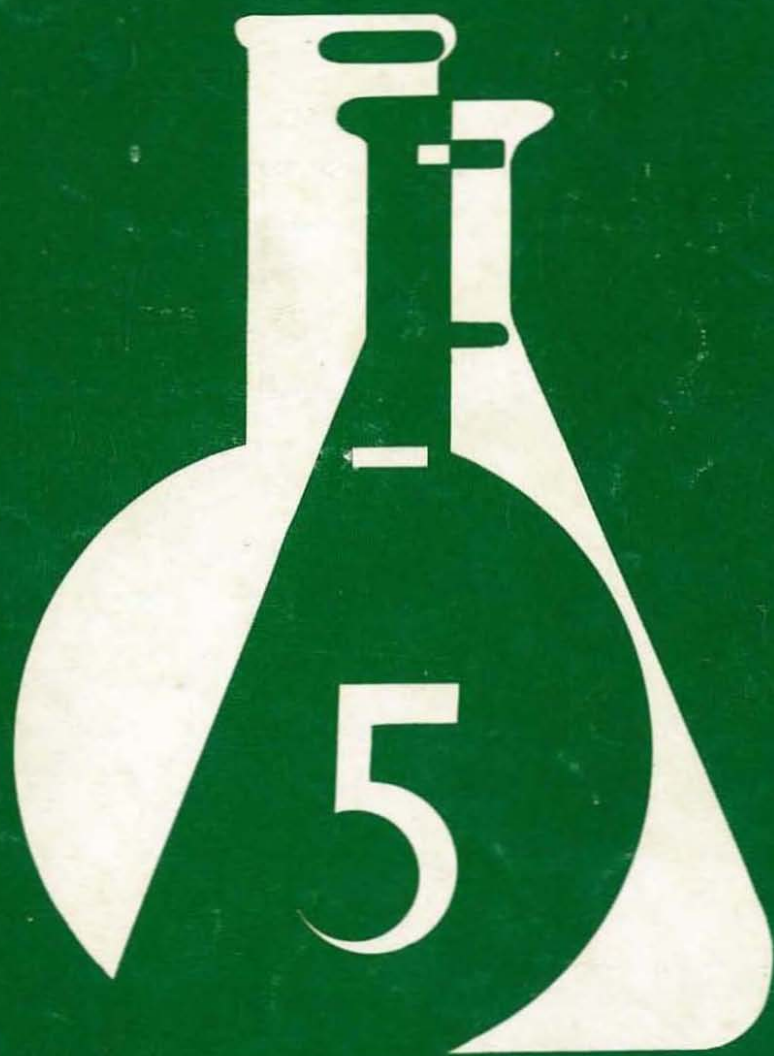


あみこす



東北大学医学部薬学科



卷 頭 言

薬学科発足以来早くも5年。校舎もなければ教授もないところで、種々の苦勞を重ね、切りぬけてきた第1回生は今年の3月、ふくれあがる希望を胸に抱いて社会へ、あるいは更に学校で研究にと、みんなそれぞれの道に巣立ってゆき、第2回生も、もう来春3月には卒業である。

今年はあたらしく日本薬学会 東北支部会が 結成され、第1回の総会が今秋催されたが、我々薬学科は専門課程早くも3年目にしてここに多数の研究発表を行い、ますます発展の一途をたどらんとしていることは喜ばしい限りである。

この様に我々の薬学科の発展が軌道に乗らんとしている時、我々はここに第1回生の意志を継いで薬学科学生の意気を結晶させた「あみこす」第5号を送る次第である。

遠く「あみこす」第1号の巻頭言でのべられた「あみこす」の性格も、2代、3代と編集者代を重ねるにしたがって、その課せられた任務も除々に変化してきたことはたしかであるが、真理と人類の幸福を追求せんとする熱意に溢れる我々学生の意気は不易なるものと確信する。

薬友会規約もより合理的に改正された現在、「あみこす」の薬友会機関紙としての使命を再認識し、今後の薬友会発展、維持のために、また良き伝統をつちかうためにも、大いに意義あるものとなりたいと願う次第である。

編 集 部 一 同



目 次

卷 頭 言	編 集 部.....	1
薬 学 二 十 年	薬品製造学教授 亀 谷 哲 治.....	3
喘 息 塔	薬品作用学教授 小 沢 光.....	4
アメリカ滞在生活を省りみて	薬化学助教授 山 中 宏.....	6
イリノイでの出来事	衛生化学助教授 内 山 充.....	5

〔教室紹介〕

薬 品 作 用 学 教 室	7
衛 生 化 学 教 室	7
薬 化 学 教 室	8
薬 品 分 析 化 学 教 室	9
薬 剂 学 教 室	9
薬 品 製 造 学 教 室	10
生 物 薬 品 化 学 教 室	11

電子状態と癌の化学療法	小 池 克 郎.....	12
紙上の波をみて窒素の立体化学を視うこと	生物薬品学教室助手 近 藤 嘉 和.....	16

我々をとりまく問題	編 集 部.....	17
-----------------	------------	----

教養部時代はどう過ごしたらよいか	編 集 部.....	21
ず い ひ つ		23~33
薬物の心理的効果の問題をめぐって	教養部心理学講師 高 橋 和 年	34
医学祭に参加するにあたって		36
ライトとスイート	教養部英語講師 菅 原 邦 明	36
亡き京田さんを忍ぶ		37
ず い ひ つ		41~58
1961年薬友会中間報告	委 員 長.....	59

東北大学医学部薬学科職員学生名簿	60
------------------------	----

編 集 後 記	65
---------------	----



薬学二十年

亀谷哲治

私が学生生活を送り、その立場をかえてから相当の年月がたってしまった。この題をつけたのは昭和16年に東大薬学科に入学し、薬学を専攻してから、かれこれ20年を経過したからである。これからも恐らく私と学生との関係が続いてゆくものと思われるので、自分のこし方をふり返り、若干の感想をのべて学生編集者の依頼に答えたいと思う。

私が学生との交際を始めたのは大学卒業後2年目に東京薬専の教授として講義したことに始まる。私は中学生になるまでは中学の生物の先生になりたいと考え、中学入試の口答試問では将来の希望をきかれた際、そのよう答えたことをよくおぼえている。その後高校に入る時は医者を目指した。これは私の兄弟に大病して生死の境地をさまよったものが多く、私自身も肋膜炎、腹膜炎、腸なんてんにて中学5年半ばより3年間病氣とたたかう羽目になり、奇跡的に助かったので、医学は人間の苦しみを解く重要なキイと考えたからである。その頃はまだ純粋に若かったのだが、高校末期には自分自身の生きるよろこびとある種の私的条件的ため卒業しても無給で研究しなければならない医学科を敬遠して薬学を志望した。薬学をえらんだのは、化学が好きであったからではなく、医学と何か関係があるだろうというばく然とした気持で、何んの目的もなく偶然のチャンスであった。人間の社会にふみこむ一歩は割合にい加減なもので、それで一生がきまってしまうものであろう。

さて薬学教育と関係のある東薬時代には私も若く、学生がすべて弟のように思われ、自分が兄貴になったようなつもりで、自分の家によんでは議論をたたかわし、あるいは屋台でのみ、文化部長になって共に青春を楽しんだ。その頃既に結婚しており、学生の恋愛相談係の感もあって、酒をのむことを憶えたのもその頃であった。時あたかも敗戦困乱時で、研究はできず、複雑な虚無感も手伝って、若さにきおいたった青年教師であったようだ。その中に恩師のすすめもあって、東京以外に住んだことのない私が生まれて始めて阪大薬学科へゆくことになった。東薬死しても離れずと大言壮語した私もあっけなく大阪へ行ってしまったのは、われながら恥しい次第で、その折は大分文句をいわれた、しかし大阪へゆく決心をしたのも半年を要したことを考えると、人間の進むコースの決定がいかに難しく重要なものであるかがしのばれる。しかし今でも恩師の指導には感謝している。

阪大時代ではここでもまだ若さが残っていた。学生諸君や教職員諸君とともに人生というはおこがましいが、雑論をたたかわして3時、4時まで時を忘れて語り合ったことも多く、ある時にキャンプファイヤーで女子学生と手をにぎって歌い、おどり感激し、またある時は当時はやりの

お好み焼を共についでよくのんだものである。勢いあまって教授会に突入し、たまたま居合せた他学部の先生に、薬学には元気のよい先生がおられると皮肉られたこともあった。今時の若いものはいろいろ昔を忘れて自分を考えるとなさけないが、致し方ないと思う。そういうこともあって、おかげで大阪で家をたてるべく売った家の代金も2年後、やっと大阪で家をたてたいと思った時には何も残らず、自分のだらしなさにあきれたものである。

しかしその後数年をすぎると私は学生諸君とのんだり、話したりするのが嫌になって来た。やはり青年時代はすぎて社会のうらおもてが判り、自信をなくし、年をとって来たのであろう。学生への小生の努力が無駄に思われたこともあろう。何か学生への不信という気持が生まれて来たことは否めない。若い人との共存というあこがれも自信をなくし、孤独の気持が強くなった。時に戦後派といつては怒られるかも知れないが、何か打算的な学生らしいエチケットを知らない人達とつきあうのがおっくうになった。というよりも自己嫌悪で自信をなくしたのかも知れない。

そうこうするうちにイスラエル留学、東北大転動ということになり、現在に至っている。東北大に来てからは、もとの若い時の気持に戻ったような気がする(もっとも肉体的には白髪も多くおとろえたが)たとえ時代の差はあっても学生の気持をできるだけ理解して進んでゆきたいと思う。こんなことはあたり前ではないかといわれるかも知れないが、人生には山あり、谷ありで、そういう気持一つでもいろいろと変るものであろう。やはり学生は深くつきあえばつきあうほど可愛いものである。私は昔のように恋愛などの人生相談係りを開業したいと思う。人生となやみはつきもので、私自身も恐らく死ぬまでそれに苦しむことであらう。しかしもし諸君自身で解決できないことがあったら、遠慮なく拙宅を訪問してほしい。もちろん解決などという大それたことはできないが、何んらかの参考意見を述べるべきことができたら、幸いである。最近私はなやみには時間をかけるということが大事であることを知った。どんな嫌なこと、また難問題があってもじっと我慢していれば解決する。腐敗現象が自然界にとって重要であると同様に、忘却ということは人間にとってはきわめて大切であると思う。「時」ほどなやみにとよよい治療剤はないであらう。私達が社会にいる以上、他人の悪口はつきもの、あまり人のいうことは気にしないことである。

どうも薬学20年という表題と無関係になってしまったが、小生自身、学者らしい学問好きではなく、不良教授の典型のような気がある。人はよく土木業か新聞記者タイプというが、薬学科教授であってみれば、真面目な顔をして講義もしなければならぬ。講義と試験の採点は全く苦痛である。そうであれば大学教授を止めてしまえといわれるかも知れないが、ほかにゆく所もなく致し方ない。薬学という幅の広い分野にもいろいろの考え方があろう。大学

は教育機関であるが、研究という重大使命がある。この研究のやり方についてもいろいろと批判される。やれアカデミックでないとか、やれデータアルバイトであるとか、人は勝手なことをいう。私は何んでもよいと思う。一つのことを真面目にこつこつとやっていたらそれでよいのではないか。人間のすることである以上、不完全不満な点は実に多い、自分のやっていることが、人に認められようとなかろうとそんなことはどうでもよいのではないか。私は勉強しなくても出来る秀才というのは嫌いである。

最後に諸君に希望することがある。諸君とくに4年生の特別実習だけは真剣にやってほしい、将来営業などに進む人は尚更である。どんなに後になってくいても仕方がないであろう。人生最後の学生時代で、最後のチャンスである仕事の出来不出来ではない。がむしゃらに真剣にやり得る最後のチャンスである。私も高校受験勉強時代と大学3年生の特別実習だけは一生懸命やったつもりである（あとはあまり勉強家ではなかったが）。そしてなつかしい思い出であり、その時の心意気が現在の自分を支えているような気がする。スポーツ、酒、マージャン等々結構である。し

かし学生時代には学問らしい何か一つを身につけて卒業してゆくべきだと思う。人間には気嫌のよい時も悪い時もある。人生は長いようで短い。学生を好きになったり、嫌いになったり、そんな風にして私は私なりに生きてゆくような気がする。私の好きな文句の一つを最後にかかげてこの拙文を終ることにする。

明日、命があるか否か
神ならぬ身の知るよしもなし
でも、もし命があったなら
酒をのむことだけは間違いない。
酒に酔っても
歌うな、踊るな、政治を論ずるな
そこで味わうのは
苦い酒だけだ。

10月19日

十和田教室旅行に際し

酸ヶ湯温泉にて

(教授 薬品製造学)

喘息塔

小 沢 光

列車が単調な山陽道を走って岡山をすぎ、20分もすると倉敷へ着く。

倉敷は今でこそ白壁の多いユニークな町として観光ブームの注目するところとなったけれども、昭和15年頃には全くの田舎町であった。

大学を出てまもなくこの町に赴任した私は薄暗いハダカ電灯のついた駅頭におり立ったときは、何かしら涙がでるくらい淋しかった。

しかしこの町には当時異色ある実業家の大原孫三郎氏が住んでいた。倉敷紡績の社長として中国地方第一の財バツであるだけではない、彼は実業家として学問、芸術を愛好する珍しいタイプの人物として有名であった。私財をなげうって大原社会問題研究所、大原農業研究所、大原労働科学研究所、大原美術館、その他病院、天文台等の設立につくしたが、そればかりでなく、多大の育英資金を出して多くの人材を養成することも忘れなかった。わが国で今までこれだけの社会事業に貢献した人物は少いであろうし、今後も恐らく出ないのではなからうか。

これだけのことをするにも、その頃としては実業家の間や軍部からは相当の圧力があつたらしい。

大学をレッドパーズ（その頃はそんな言葉はなかったが…）で追われた森戸辰男や高野岩三郎氏らを迎えてマルキシズムを研究させたことは資本家としては全く信じられぬことであった。これが社会問題研究所の発端で、マルク

スの本ならどこにも負けにくいらいあつたと言う。

また当時の紡績事業はわが国最大の産業であつたが、「女工哀史」にもみられる通り、サクシユ労働であつた。地方から人買いによってつれてこられた女工は、大体4年もすると結核で倒れるのが普通であつた。悪がしこい資本家は3年半のケイ約にしていた。会社が療養費をもちたくなかつたからである。大学の医科を出たばかりの一青年を案内して綿ボコリのモウモウと立ちこめた中で働く紡績の深夜業をみせた大原氏は「これが君のこれからのテーマだよ」と言った。こうして労働科学研究所は若い暉峻義等氏を中心として発足したというが、資本家連中のはげしい反対にあつたという。

またこんな話も伝わっている。さる研究者が洋行したいから金を貸して欲しいと申し入れたところが、即座に「自分の金で行けなければ洋行なんかするな」と断われた。しかし、何日かしてから「洋行するならセン別をやろう」といって、貸して欲しいといった金額の倍額も包んであつたという。万事こんな調子であつたが、外国に行くなら何か面白い土産を買ってこいと注文した。美術館も天文台も土産を集めて作られたものである。

何か変った土産と注文された白面の小児科の医員はオランダのライデンで珍しい物を見つけた。それは喘息塔といて世界に一つしかないというシロモノであつた。テレビ塔のような高い鉄塔を建てて、高層からの新鮮な空気を吸い入れて病室に送るという仕かけであつた。この病室の中に喘息患者を寝かせれば、アレルゲンフライの空気が呼吸出来るので喘息がなおると言う着想であつた。この設計図を買い求めて帰国した医師は早速、同じものを漠大な

費用をもらって作った。そしてオランダの追試をしてみた。その結論は全然効果がないということであった。

その発表をする医師もえらいが、それをさせる大原氏も見上げたものである。その青年医師が後に京都大学の総長となった服部峻次郎博士であった。

多くの人材を出した倉敷の町は薬学でも変わった逸材を生んだ。それはアリナミンの研究で学士院費をもらった松川泰三博士である。

彼は私立薬専を出るとすぐ大原氏の病院の調剤員となった。しかし彼は全然調剤をやらずに、もっぱら合成の勉強をした。それも全くの独学でやったのであった。その心がまあとそれが許されたフン困気とは大原氏の感化の偉大であることを物語るものであろう。

短い期間ではあったが私は大原氏に接触していまだに忘れられない言葉がある。

「日本人は思いつきは決して悪くないが、実行しないから駄目だ。着想は実行によって始めて生きてくる。

失敗を恐れて実行を渋るな。失敗も貴重な体験である。いい研究のためには研究所の一つや二つツブレてもかまわない。研究の成果こそ至上のものである。」

大原孫三郎氏は自らこの精神を貫いた人である。

倉敷の町には今もなお、「ぜん息塔」が高くそびえている。人あるいは無用の長物と評するかも知れないが、しかし、私はこの中に「大原精神」が脈々と波うっているのを感じるのである。

(教授 薬品作用学)

アメリカ滞在生活を省りみて

山 中 宏

「果して間違なく Oyster Bay に到着出来るだろうか？」たどたどしい英語を気にして、こんな馬鹿気たことをまじめに考えながら、飛行機に乗り込んでから約二年の歳月が流れ去らんとして居ます。帰国してからも丁度一年が過ぎました。僅か一年の滞米でしたが、その間私なりにアメリカ式のものの考え方や暮し方について或程度の事を学ぶことが出来ました。又それにも増して色々な得がたい経験を積むことが出来た事を心から有難く思っています。

ニューヨークの近くに滞在して居りますと、よく日本からの旅行者の観光案内をおおせつかることがあります。わづらわしいことに違いありませんが、色々な職業の人と色々な問題について話し合えるのでそんなにつまらない仕事でもありません。その時に経験した事ですが、或る県庁勤めのお役人(A氏としておきます)は私にこう言いました。「二三日前、郊外のスーパーマーケットを視察して来たが商品が沢山あり店内もよく整理されて居るのには感心させられた。然し、買う人が少なくガランとして居る。私は日本に帰ったらアメリカは消費物資が生産過剰になって居ると報告するつもりだ。」所がよく聞いて見ると、A氏は火曜日にスーパーマーケットに、而も午前中に行ったと言うのです。私は一般にアメリカ人は一週一度、それも大抵は金曜日の午後にとまとめて買物をする傾向があること(これは週給労働者の給料が金曜日に出ることと土曜日曜が休みの点から自然とそうなるのですが)を話して、もう一度金曜日の夕方同じマーケットを視察し、結論はそれから出しても良いのではないかと、言ってお別れしました。

似た様な話は沢山ありました。例えばB氏は「アメリカのレストランにはろくなものがない。高いうえにまずいし」と言いましたし、C氏やD氏は交々口を極めて「床屋が

高い、而も乱暴だ。」「汽車が時刻表通り走らない。ひどい時には一時間も二時間もおくれる。日本の汽車は世界に誇るべきものだ。」と語って居りました。夫々の人がかなり細かく観察したつもりで、内心一寸得意だった様でしたがこれにはすこし問題があるのではないのでしょうか。まずB氏の感じですが、日本に居れば私達は大抵誰でも自分の口に合った店とか店構えが小さくても味の良い店、つまりその道の通の行くような店の一つや二つは知って居り、外食する時はそんな所へ行く事が多いでしょう所で外国の而もはじめての町で、そんな店を自分で探すことは困難ですから、どうしても通り一ぺんの食堂に行くことになります。アメリカではキャフテリア(セルフサービスの食堂)が発達して居り、英語をほとんど話さなくても好きなものが自分でえられますから、日本からの旅行者はよくそこへ行きます。B氏はニューヨークの町角のキャフテリアと銀座の一流のレストランを比較して居た訳で、これでは比較される方が可愛想です。床屋はニューヨーク市の附近では1ドル50セント前後、これに25セントのチップを加えると2ドル近くになりますから、円に換算すると恐ろしく高く、この点C氏のお話しに間違ありませんが、一般の所得にくらべると必ずしもそういえません。滞米中私の給料は手取り約400ドルでしたから、床屋代は2/400となり現在私が仙台で払って居る料金より比率は小さくなります。(丁寧な事は日本の方がはるかに丁寧ですが)最後に、D氏の語られた如く、汽車が時刻表通り走らないのも本当です。駅の時刻表も二行になって居り、第一行は時刻表、第二行はその日の予想時刻を書き込むための欄となって居る所が多い位です。でも今日もはや汽車はアメリカの主要交通機関ではなくなって居る事も見落してはならないと思います。長距離は飛行機を、短い所は自動車を利用する人が多いアメリカでは汽車がすこし位ルーズに走っても、そのために迷惑を受ける人もすくなく、又事故も起らない(汽車の運転回数が少ないから)のです。こういった事情を日本における汽車の重要性と考え合せた上で、比較するのが本当では

ないでしょうか。恐らく汽車が時刻表通り走る必要があれば、アメリカの鉄道会社は日本の国鉄と同様に正確に走らせることが出来ると思います。

色々他人の場足を取る様なことを書いて来ましたが、要するにたとえそれが自分の体験した事であってもそれに或意見をつけて発表する場合はよく条件を分析してからにする事が大切だと言いたかったからです。この事は、自分の専門とする分野の学問的報告では誰もがキチンとやって居ることなのですが、その分野から一步外へ出ると、意外におおりにされてしまうものの様です。つまり相当正確な基礎知識がなければ、断片的事実をつなぎ合わせて全体を浮きぼりにするという事は困難な仕事なのです。帰国してからよく「アメリカの市民生活はどんなですか？ ショッピングとか社交とかデイトとかについて話して下さい。」と言われましたが、以上の様な事を考えると社会科学や宗教の事をよく知らない私は断片的なお答えしか出来ませんでした。私なりに答えは出してあってもとても一般論をブツ勇気がなくてそれ以上の事は言えないという訳です。切

角一年間滞在しながら自信を持って人に話せる事があまり多くないことは、情けないことだと言わねばなりません。

今となってつづく反省するのですが、海外で暮してその国をよく理解し多くのものを学び取るためには広い領域での豊富な知識が必要な訳です。この文の最初に私は或程度の事を学び、得がたい経験を積めたと書きましたが、若し私の身につけて居たものが多かつたら、私の滞米生活はもっと実り多いものになって居たことでしょう。留学という誰でも語学だけを準備の中心においてしまいますが、社会科学も芸術に関することも外国人が特に関心を持って居る日本の古典（これは彼等との社交を円滑にするためにも必要です）についても豊富な知識を備えておくことが大切だと思います。

これから海外に出て生活される機会の多いアミコスの読者の方々に、広く深く外国の市民生活を洞察し、貴重な機会をより一層有効に生かせる様な準備をふだんから心掛けられる様お願いして、私の滞米反省の記といたします。

(助教授 薬化学教室)

イリノイでの出来事

内 山 充

イリノイ在住中の出来事について何か書くようにとの編集者からの依頼があったが、アメリカという所は大きい国であるにも拘らず総てが規格化されており、全国の衣食住はもとより人間の考え方迄殆んど均一であるから今更米国生活の紹介でもなからうと思われる。そこで私の在米中イリノイ大学の学生新聞 The Daily Illini に投稿されたコホ教授の論文が因で起った事件でも紹介しようと思う。

レオ・コホ博士は一般教養の生物学の assistant professor であり、勿論契約制で1959年9月より1961年8月迄の2年の契約で勤務していた。実は私はこの事件迄コホ氏を知らなかったし、又 Daily Illini の読者でも無かったので、問題のコホ氏の論文を掲載当日の3月18日に読んだわけでもなかった。私達がこの事件を知ったのは大学の学長室から1960年4月7日付でイリノイ大学全職員に配布された緊急通知書によってであった。それはレオ・コホ博士罷免の通知書であって免職の原因として彼が Daily Illini に投稿した手紙が著るしく非道徳的であることを述べており、それに問題の投稿のリプリントが添えてあった。大学側の態度は一貫して彼の論旨の正否には触れず、ただ要するにこのような非道徳的な文は大学のスタッフとして書くべきではないといったものであった。この44才の博士の職を奪う程背徳的な論文は皮肉にもこのリプリントに原新聞よりもはるかに鮮明に印刷され、Daily Illini の読者でない我々にもあまねく行き渡ったのであり、更にその一部は

遠く日本に迄持ち帰られることになってしまった。

さてその投稿の内容であるが、残念乍らここにそのまま披露することは出来ない。要するに男女学生の交際に関することであり、お互の意志に反してまで本能を抑制することなしに大いに進行させた方がよろしいというような骨子であった（と記憶している）。これはわざわざ学長命令により読まれたのであるから今尚記憶に新しい。尚序で乍ら投稿の題目は“Advice on Sex”であった（と思う）。

これは私の居た一年半の間の唯一の学長室からの緊急通知であり、又唯一の新聞のリプリントである。そしてこれに対して又唯一の学生のデモが起ったのである。ただしスローガンには“コホを救え”というのは見当らず“Sex の自由は欲しないが言論の自由を抑圧するな”というのがすべてであった。我々の考える程彼等にはすべての点において悲壮感が伴っていない。それもその筈コホ氏はその後1960年9月から東部の或る有名大学に職を得たし、又その後の男女学生の交際は相変わらずで、我々日本人の眼には甚だ自由で開放的であるように見えた。更にイリノイ大学はコホ氏を4月17日付で免職にしたにも拘らず8月分迄のサラリーを支払った。例の学長通知には彼の家族を困らせては良くないからと付記してあったのである。

(助教授 衛生化学)

教室近況

▷薬品作用学教室◁

今年度は、人員が小沢教授以下特別実習学生7名を含む計15名とふくれあがったため、福田助教以下薬理、電気生理関係は、医学部法医学教室の二階を借用している。しかし、生化学関係は昨年同様、新館の三階である。教室は二分したが大して不便もないし、秋ともなれば散歩がてらの往復もまんざらではなく、別荘に向う気分である。研究テーマは昨年来のものに加えて生化学方面では uncoupler の研究が新たに取上げられた。これは Thyroxine の酸化リン酸化の uncoupling 効果をみるもので、マウスの脳やラットの肝臓のミトコンドリアを分離して、酸素消費をワールブルグ検圧計ではかったり、リン酸化を調べたりしている。このため、いともしとやかなお嬢さん方の手でマウスの頭蓋骨が、バリバリとはがされて脳が取出され、連日教知れないマウスがワールブルグの露と消え去っていく。又 CoQ の研究の方では、大きな牛のハートからこんなに少ししかとれないとぼやきながらも CoQ の抽出に余念がない。CoQ を抽出して、その酵素的役割を酸化還元電位によってはかり、ヒドラジン類の CoQ の酵素的反応の阻害をみている。又寄生虫の駆虫薬も研究され、牛の肝臓や肺から肝絨、肺虫をピンセントでつまみ出し、ア

▷衛生化学教室◁

秋深いこの頃、一日の実験を終えて暗い家路につく時、ひんやりとした秋風の肌ざわりがなにか過ぎ去った日々を思い起こさせる。

果物屋の店先の明々と電燈にはえた果物をもても、母にむいてもらったあの頃を思い出す。

当教官の仕事の一つは、各種果物にかけられた農薬の検定である。それ故、その季節ともなればぞくぞく持ちこまれた果物を農薬中毒もなんのその、しかしきわめて化学的な判断によって実験に差しかええない限り頂だいしている。もも、すいか、ぶどうは終り、今までナシがさかんに来ていたがそれももう終ったのか、そろそろみかんの恋しい季節になった。

男9人、女6人の割に大所帯の当教室も他に劣らず和気合々として、この10月18・19日には全員の一泊旅行も計画されている。

昼食時には教授以下隅の大部屋に集まり世間話に余念がない。奥井教授の豊かな経験談、見聞談は聞いていて面白

ルキルフェノール類の薬理作用を検討し、いわゆる駆虫薬のスクリーニングテストを行っている。一方生化学的にも肝絨の代謝をしらべている。

薬理関係では、昨年筋弛緩薬研究が新に電気生理と改称し、オッシログラフを備えて張切っている。そしてグアニジン誘導体の骨格筋に対する作用をしらべている。これは有望な幾多の物質の出現によって、急速に発展し、課せられるものは鋭敏な感覚、知と技とである。薬理試験では鎮咳薬、催眠薬、下剤、血圧降下剤などの検定が行われている。従ってその為の動物類は大変なもので、マウスをはじめとしてラット、モルモット、ウサギ、カエルなどが飼われている。時には、ラット、モルモットのお産もあったりで、さながら小動物園といったところである。もっともラット、モルモットは一見虫も殺さぬ様な紳士に撲殺されて気管、腸管を取り出され、マグヌス装置につるされて、種々の薬物を投与され、やれ収縮したの弛緩したのと、その薬理作用を検討されている。鎮咳薬の試験では、気管に穴をあけられて、無理に出したくもない咳をせねばならないし、ウサギは台の上にはりつけにされて血圧を下げられたり、マウスは下痢をさせられたり、ねむらされたりしている。この様に書くといかにも殺伐としたように聞こえるが、実際はその様なのではなく学問一筋である。この動物達迷わず成仏したところをみると、後藤僧の御経が効を奏しているに違いない。

近頃新たに動物の保温箱などが購入された。着々と設備も整い、これからというところである。

いし、為になることも多い。時折興が乗って時間の過ぎるのを忘れることもあるが大抵は一時には皆又実験にとりかかる。

又、御らんの如く若さあふれる奥井先生を筆頭に全員スポーツマンで、それぞれ野球、バレー、テニスに長じている。そろそろ屋外スポーツのシーズンも終りに近づいたが寒くなるに従って又卓球熱がもりあがる事だろう。

この6月に配属された我々5人の四年生も、すっかりその雰囲気にとけ込み、脂質代謝の内山助教、ミクロゾームにおける毒物代謝の黒岩先生、ミトコンドリアにおける酸化還元系に鈴木先生にそれぞれ卒いられ、やさしい、高橋・福土両嬢や、大学院生の百瀬、水柿両先輩のよき指導のもとにいっばしの研究者然とした面構えを持つにいった。

K君は近頃なに故か食道付近の痛みを訴え、好きな煙草もやめているが、相変らずのファイトを持って広範な文献読みと実験を進めている。又Hさんは Ach esterase 阻害に関する実験とかに余念ない。我々にしてみればその果物さえあれば Ach がどうあろうとかまわないのであるが、彼女はいささかの惜し気もなく、それを試料に供してしま

う。ああ、あのうまそうなぶどうに毒薬が隠されているとは
Iさん、Sさんの気の合ったジュエツトは、フンワリと
したハーモニーと豊かなセンスとで聞く耳は快い。

○君も相変らず歌に生き、○に生きて、時折教養を疑が
わせる歌も歌うが、その枯葉などは身にしてみているのか堂

▷薬化学教室◁

完成した新校舎の一階東側、薬学科の玄関番を相つとめ
ますのが薬化学教室である。いつも問題になることである
が、薬化学というのは有機化学部門を分担しているのはい
いとして、薬品製造学とはどのような点で異っているの
であろうか。発生源をさかのぼってみれば大きな流れに合体
してしまいが、少くとも現在二つの教室が存在しているの
には大きな意味があるのに違いない。一つの反応を例にと
って考えてみよう。反応であるから反応物があり、条件が定
まってくる。そして条件を変えていくと様々な変化が生ま
れ、そこに考える段階ができてくる。有用な反応生成物を
できるだけ容易に、収率よく得るにはどのような条件が最
もよいだろうか。反応物を反応生成物とを比較検討し反応物
の表われている性質をさらに追求していくためにはどのよ
うにすればよいか。すなわち前者の考えがより薬品製造学
的であり、後者は薬化学的だといえよう。もちろん一つの
まとまった研究の中の一つの反応をとり出してみれば一つ
一つあてはまらない場合もあろうが、全体の筋道立った考
えの流れには明らかにこのような違いを見出すことができ
る。わかり易く教科書を例にとれば一つの項目について
述べてある。即ち前半の製法的面に対して後半の性質を中
心とした面を取扱うのがこの薬化学教室である。前置が長
くなったので早速教室をのぞいてみよう。それには金曜の
正午が最適である。毎週この刻になると教室の連中が弁当
箱を下げて左右から集まり、教授室に全員顔をそろえる。
中央のいすにどっしりひかえ、全体に気をくばっているの
は、御大加藤教授、側にひかえるは教授とびったり息の合
ったバッテリーを組んで教室の推進力となっている山中助教
授、最近ますます張り切って一日を二日分に使いその急が
しさの中にも嬉しさがこみあげて来て仕方がないといった
北川さん、ぐっと落ち着き円熟味を發揮して来た後藤さん
新進の山本、柴田、林、近藤の諸先輩、教室全体に優しい
雰囲気を作り出す安田さんと、ずらりと顔をそろえる。弁
当も終り、話題も一くぎりつくと、ぐっとひきしまってく
る。そして教室の人たちが、現在行っている事の報告に移
る。全体として前から引き続いてピリジンN-オキサイド
系列の反応を取り扱っているが、現在の中心問題となっ
ているのは、ピリジンN-オキサイド系列の活性メチレン
の反応性と最近事業的にも重要視されるようになって来た
が、まだ体系的にまとまっていないジケテンとピリジンN

に入ったものだ。

以上、教室内の最近の様子を四年生を中心に記してみ
た。研究室のくわしい仕事の内容については前号にももの
つてい事だし、小生などの書き記せることではないので省
略させていただいた。

-オキサイド系列との反応の追求である。この発表によ
って各人の行っていることを系統的にまとめることができ
、多くの人と同じ問題を検討することによって、新しい考
え方、実験の進め方、解決方法などの糸口をつかみ出そう
とすることを大きな目的としたもので、様々の議論が続出
する。今後は方向を変え海外文献の紹介に移る模様である。
特別実習生も今の所説明を追っていくのがやっのだが、い
ずれは本領を發揮せんものと、トレーニングに余念がな
い。毎週各一回 Gattermann の『Die Praxis des Orga
nischers Chemihers』及び Geissman の『Prinsiples
of Organic Chemistry』の輪読会を行っている。始めは
文字を追うので終止していたが、最近議論も活発になり
的を得るようになり、北川先生のしめくくりと共に最大の
効果をあげている。しかしあくまでも実験が中心でその訓
練もびしい。そして常に考えながら進めていく態度が要求
される。特別実習生の場合だと最初の2~3週間は未知試
料による有機定性分析を一せいにやらされ、有機化学の基
本である物質の分離、精製、確認の基本を身をもって体験
する。

教室という環境は個々の個人プレーで成り立っているも
のではない。個々の力の一つにまとめあげそれを数倍にま
で高める原動力が必要である。そういった意味でのスポー
ツのはたす役割は大きい。夏の長い日も暮れんとする頃、
実験で疲労した気持ちを白衣と共にぬぎ捨てて、いっせいに
医学部グラウンドに飛び出し、しばし白球を無心に追い続
ける。全身汗まみれになった体を実験室のシャワーで流し
合うと後にはさっぱりとした充実感が残る。知らず知らず
のうちに全体の気持ちが溶け合う。有機化学という共通の
目的をいなく我々の労働の友情は美しい。実験、討論がそ
れを充実させ、卑しい感情の發展する余地を与えないから
である。その日の収穫をお互いに持ちよって、実験が終
ると悦んで集まり話がはずむ。我々は同じ失敗を二度と繰
返さないようにそれに全体で対抗し、成功には共に喜び合
うのである。勉強というのは本ばかり平面的に読むこと
ではない。それでは得る所が少ない。いかなる場合に面しても
それを正確に見きわめ、適切な考え方ができ行動に移すこ
とができる実力を養う事こそ勉強ではあるまいか。したが
って我々が気持ちよく実験できるような環境は重要である。
全体の融和の中に各個人がそれぞれの持ち味を生かす事
これが薬化学教室の理想とすることである。

▷薬品分析学教室◁

現在核酸に関する仕事は多くの研究室で広くおこなわれているがそれを大きく三つに分けることができると思う。まず第一にヌクレオチド関連物質、又オリゴヌクレオチドの化学的合成の分野、次には OCHOA の酵素によってつくられる単一な塩基組成をもつポリヌクレオチド、天然のリボ核酸、デオキシリボ核酸の物理化学的研究、三番目にはリボ核酸、デオキシリボ核酸の生物化学的研究である。

ヌクレオチドの化学的合成の分野では、TODD, KOHRANA 等を始めとして、種々のりん酸化剤の改良と共に活発におこなわれている。さらに関連誘導体を合成しその生物学的作用なども研究されている。当教室でもこの方面の仕事を行いつつあり、現在ポリミチン塩基の誘導体を種々合成しており、その生物学的作用をみようとしている。

物理化学の面では核酸の一次元的構造と二次元的構造の問題がある。一次元的構造すなわち塩基の配列順序の決定はリボ核酸の場合には原理的には可能である。すなわちタンパク質の場合のように作用特異性の知られている核酸分解酵素を働かせてオリゴヌクレオチドとし、次に過ヨード酸化によって末端から順に塩基を遊離させ、ペーパクロマト、濾紙電気泳動で固定するのである。しかし現在のところ均一な (homogeneous) リボ核酸を分離することが不可能であり、得られるリボ核酸は色々な塩基配列をもつポリヌクレオチドの混合物である。

核酸の二次元的構造は主にデオキシリボ核酸について広く研究されており、その遺伝情報の伝達、複製の問題との

関連において非常に重要な問題と思われる。WATSON-CRICK によって提出されたデオキシリボ核酸の構造はポリヌクレオチド分子が二本ラセン状にからみ合った、いわゆる二重ラセン (double helix) であり、塩基間の水素結合によって一定の二次元的構造を保っている。

細菌 デオキシリボ核酸の熱による変性と その形質転換 (transformation) の働き の消失の問題は P. DUTY 等によって詳しく研究されているが分子生物学 (Molecular Biology) の面で意義深いものと思われる。X線回折、赤外線吸収、紫外線吸収、旋光分散、粘度、その他高分子研究に必要なテクニックが利用される。また種々の金属イオン、低分子化合物と核酸水溶液の相互作用は核酸の高分子電解質としての性質を知ることができる。

当教室では市販酵母リボ核酸を分解し、オリゴヌクレオチドを分離、精製し、その物理化学的性質をしらべようとしている。またヌクレオチドおよび高分子デオキシリボ核酸と種々低分子化合物の相互作用に関する仕事も始めている。

核酸の生化学的面の研究は日進月歩である。リボ核酸の生合成、デオキシリボ核酸の生合成、新しくはデオキシリボ核酸の存在下でリボ核酸の生成があるということ。タンパク合成とリボ核酸との関係、細胞内の酵素(タンパク質)合成の調節機構とデオキシリボ核酸との関係等である。

これら生化学的研究の成果は超遠心分離の発達、ラジオアイソトープ (主として ^{14}C , ^{32}P , ^3H) のトレーサとしての利用によっていると思われる。

当教室ではこの方面の仕事は現在やっていないが近い将来にはアイソトープを用いての核酸の生化学も行うことが考えられる。

以上核酸と当教室の関係を簡単に述べた。

▷薬剤学教室◁

薬剤学は他の学科と比較してかなり実学的傾向の強い学問で広範囲の知識が要求される。それに各種の文献を読む必要から語学力がなくてはならない。当教室でもそのために週二回コロキウムが行われる。月曜は "Emulsion" の輪読会で火曜には交代に各自の研究発表を行っている。現在の教室のテーマを大列すれば、消化制酸剤、軟膏、味の disguising の三つになる。特別実習生もそれぞれの分野に別かれて実験を行っている。各目の研究テーマなど経過 (10月現在) を紹介してみよう。

片桐一第七局から採り上げられたイオン交換樹脂を用いて得られる脱イオン水は蒸留水に比較して比抵抗が高いこと、細菌吸着作用があるという長所と容易に採水出来ることから広く用いられている。しかし実験してみると意外な点、即ち樹脂筒の中の樹脂をうるおす水中の細菌が放置に

よって驚くべき繁殖をすることで蒸留水より優れているはずであるが、水は細菌学的にもっと考慮すべき点があることが分った。細菌数と KMnO_4 消費量の関係、殺菌燈も用いて果して真の純水が得られるかを試みようと思う。

斎藤一皮膚細菌は一過性のものと定住的なものに分けられるが、これらの細菌に対する軟膏基剤の影響はかなり以前から議論されて来た。現在の実験では Price の細菌定量法を用いて手についている細蒸を定量し、合わせてその時皮膚から脱落する角質を kjeldal 法で定量しての両面から各種軟膏基剤の皮膚細菌に及ぼす影響を検討している。

松坂一葉はその苦味、酸味、鹹味などよりのみにくいものがある。このことは特に小児科にとって大きな問題である。外国には局方収載の多くのシロップ剤があるが我国ではあまり研究されていない。そこで我々は Flevor, 粘性物質、甘味料を用い各々の各種の薬物に対する影響を調べその組合せによって製剤の向上をはかることにある。

山内一新しい制酸剤, Dihydro Aluminium Sodium Carbonate の効力を検定している。試験方法は制酸性, 試量過剰の際の上昇PHの測定, 胃模型, 吸着力試験を行っている。また重曹に Mg が入った際, CO₂ の発生がどう変化するかを苦心して装置をつくって測定, 検体は速効性で良い結果を示している。これからは生体実験を行なうと胃に食物をつめこむのに懸念である。

以上の如く身近な問題でも結果が数字やグラフとなかなかかりははっきりと表われて来るので, その点でも興味が出て来て, 実験に更に拍車がかかるわけである。従って全員はり切って研究にいそしんでおり, 日曜も出て来る場合も稀ではない。恐らくこの辺から薬剤学の人はやる時にはみっちりやるというすこぶる当を得た評判が湧き出てくるものと思われるのである。当教室の親分の岡崎教授は人も知

▷薬品製造学教室◁

新館の二階中央部にあってパーナーや真空ポンプなどの音をたてているのが我が薬品製造教室である。

どの教室にも独得の教室の雰囲気があるように, この薬工にも独得の mood をもっている。

第一回生より伝えられた「烈火の如き fight, 石よりもかたい意志と身体, 羽毛よりもやわらかい heart」がそれである。一步我が教室に足をふみ入れた人は, この様な mood を直感するにちがいない。なにも薬工だからといって有機合成ばかりやっているのではない。有機化学は勿論社会学, 経済学, 人文科学, しいては哲学までがこの教室で教育されるのである。特にスポーツ学においては識者の集まりで野球をしらずに入ってきた者は毎日が悲劇に終るに相異なる。野球の「ヤ」の字も知らなかったS君もこの教室に入ってから興味をもち, プロ野球の創立から勉強, 現在では誰が何本ホームランを打ったとか打率がいくらか細々と説明できる様になった位である。教室では「薬工」 tortoises を結成 数回の試合に敗れた事はなかったが「猿も木から落ちる」ではあるまいが教室対抗では決勝までできてしまった。然し實力は薬学科随一である事はうたがいない事実である。といて野球ばかりやっているのではないスポーツで鍛えた強い意志と肉体とをもって連日の研究, 実験にぶつかっていくのである。朝早く登校し実験室に入って当日の実験の準備もし実際に実験にとりかかるのが9時でなければならない。即ち時間厳守が要求され, だらだらした実験は許されない。まして実験中に腰掛にすわって実験をするのはもっての外である。

又実験室に入って気がつくであろうが「懺悔の箱」と称するものをつくってある。いたずらに器具の破損を防ぐのと事故を防ぐために, どんな小さい器具でも注意を払ってあつかうという趣旨によってつくられたもので, 破損し

る人情家で, 我々実習生をよく考えてくれ, 池田助教授もわからない問題は薬剤学のみならず社会学, 一般教養に至るまで懇切丁寧に教えてくれる親切さである。従って教室の空気はすこぶる明かるい。単に勉強面だけでなく, 教室員相互の結びつきも重要視されて週一回懇親会を行っている他, 最近では十和田旅行, 地方色豊かな//いも煮会//などが行われた。これは山形, 福島地方の行事で広瀬川のほとりで舌づつみ打ったが非常に好評だったので, マージャンと共に薬剤学の新名物の一つとなると思われる。更にもう少し PR をさせていただけると現在各社では製剤学に非常に力を入れて来ているので進学にしろ就職にしろ将来性は多いに期待される。願わくは向学心のもえたツファイトある後輩諸君が続々と薬剤学に希望して来ることを望んでいる次第である。

た度に10円玉を入れて懺悔するのである。この様な規則正しい厳格さの中に, 烈火のごとき fight をもやして実験研究に励んでこそ未来の化学者が育っていくのは当然な事だろう。教養部時代サボりに於いては右にでるものもなかったO君が夏休みも献上して実験にとりくみ, 朝早くから実験台にむかっているものも不思議ではない。

さてその様な教室の雰囲気をもりたてていく顔ぶれは愛称//亀さん//で通る御大亀谷教授をはじめ, 外国に出張中の高野助教授, 病気で休養中の野村助手とさびしいが, その中であって近くパパになるという fight まんまんの福本助手, それに研究補助の佐藤, 早坂, 横山さん, 未来の若き化学者を夢みる中野, 柳瀬, 佐藤諸氏, それにたむろしているのが, 今年は以外にすくなかったが特別実習生の小笠原, 渋谷, 矢沢の三君である。

当教室でやっているのはわざわざここでかく事もないが主なテーマは複素環の化合物の合成研究であり, クラリン及び関連化合物の合成, ロツンジン及びベンゾヒノリチン誘導体の合成, イソヒノリン誘導体の合成が主なるものである。これについてはアミコス第3号に精しくのべられている。

実習の外に週三回 POC (Principle of Organic Chem) の輪読会がある。一日の実験が終わってから調べてきた所を発表し, それに対しての質疑討論がくりかえされる。有機化学の苦手な者にとっては苦しい場所であり, 又新しいなものかを吸収しようとする場所でもある。又土曜日にはコロキウムが行われ手に触れた事もない様な独英の論文をわたされ, 必死になって解釈したものを発表する場である。このあとで教授を囲んでいろいろな話題について話合うのも薬工ならではの mood といってよい。又年二回位は教室旅行をし, 今年も十和田方面に行く計画もたてられている。その間には海に山に行き, かたぐるしい実験室からはなれていこいの場所をもとめ新しい英気 (fine spirit) を貯え, 明日への fight の源とするのである。

この様にしてこそ烈火の如き fight と石よりかたい意志と身体、羽毛よりもやわらかい heart がつくられるのである。上から下までの和が調和しかかるい教室の雰囲気を

保っているのも他に類をみないだろう。よく研究、勉強し、厳しい実験にも耐え、又野球に興味をもつ人の来るのを我が教室では望んでいるのである。

▷生薬学教室◁

7月のはじめ、特別実習生の歓迎会をかねた植物採集中、私たちが誇りに思い又頼みにしていた一期生の一人、京田さんを失ってから、どうにかしたい、何とか戻って来てはくれないかと、かなわぬ望みをかけるのみで、実験する気力さえ持たない状態だった。けれどもいつまでも悲しんではいられない。いつまでも涙を流し、実験も手につかないようでは、故人の心にも反するだろう。一日も早く元の状態で実験をはじめることが、京田さんが一番喜んで下さることだと思いなおし、ときたま京田さんの事などを話しながら、今では全員元のように実験に力を入れている。

私たちの教室では、主に植物中の成分を検索する。新物質を単離し、構造決定、薬物学的応用を調べることが、最大の目的である。ある時は野山で採集して来た新鮮な植物を水蒸気蒸留にかけ、又は何ヶ月か風乾して抽出し、又ある時は古いくすりやから求めた生薬を抽出する。あその草とこの草は、ニオイが違う、味が違うと言ってはその成分を細かに分けよう、と小さな事にも神経が働く。

近藤助手と中島さんは薬理学教室の一階に、竹本教授は法医学教室の二階に、そしてヒキノ助教授及び横部助手は薬学科新館の三階に居をすえ、はからずも一階、二階、三階にまたがる大世帯となってしまった。竹本先生は、海藻やキノコの殺虫性酸性アミノ酸に目をつけられ、数々の成分をとり出したことをはじめ、多くのご研究をすすめられている。

「皆がよいと思う方法をとることが一番望ましい」と言われ、どんな小さなことでも聞いて下さる竹本先生のお言葉にあまえて、私たちは自由に器械を使い、のびのびと実験することができる。のびのびとおおらかに、そしてたゆまぬ努力のすえ、10月7日の薬学会東北支部会では、四年生の及川君、杉山さんの研究結果の一部がすでに発表され

たことは、ご承知の通り。

わが教室の最大の特色—それは、気の合った者同志が研究に専心する時、一番よい結果が表われる、という竹本先生のお心を反映して、何といっても一番気の合うのは夫婦、ヒキノ御夫妻、近藤御夫妻と、二組ものカップルがあることだろう。いやその楽しそうなこと。一人でモソモソ実験台に向っているより、はるかに能率をあげているように見受けられる。明朗にしてエネルギーな好青年、横部助手のファイトある実験態度と合わせて、私たちはいやがおうにも実験に熱が入る。

わが教室のもう一つの楽しみは、時たま行なう植物採集である。なにしろ前にする相手はスリルに富んだ天然物、季節を争うものだ。ある植物が必要となれば、全教室員揃ってワッと採集に出かけ、まるで楽しみどころか、死に物狂いに近いことさえある。時として植物より人間の数の方が多いという珍現象も生ずるが……。行く道々新鮮な空気を吸い、土のニオイを嗅ぎ、木々の色、空の色に目を奪われ、そしてクリ、アケビの人体実験を試みる。大きな荷物となった採集植物を汗水流して背負い、元の実験室へと急ぐ、快い疲労感が明日からの英気を養う。

しかし、一つの器械が北四番丁の薬理学教室と、北六番丁薬学科新館の三階との間をエッチラオッチラ往復、今最大の願いは、竹本先生以下、教室全員が一つ屋根の下、キュッとまとまって実験できるようになることだ。そうなれば、設備もますます充実、おちついて、気の合った同志の研究が、もっともっと成果をあげることだろう。

及川、杉山がそれぞれハマボウの成分、ハナヒリノキの成分について一応発表した他、現在四年生が行なっている実験としては、岩動、宮沢は二人とも一連のオケラ属の精油成分の検索、及川はマオウの成分について行なっている他、ガスクロの操作をマスターし、皆の実験に大いに貢献している。杉山は桑根皮の、永谷はホツツジの成分を検索中。

電子状態と癌の化学療法

小池克郎

ここ数年間、癌発生の mechanism が化学的に研究されてきた。発癌物質の分子構造と癌を誘発させる能力との関係がある程度確立された。過去2・3年間に於いてこの研究分野は電子構成と分子の抗癌性 (antitumor activity) との相互関係を確立する問題に迄伸展してきた。一部ではあるが、これらの研究結果を皆さんに紹介しようと思ひ筆をとった。

最も重要な研究は、代謝拮抗物質 (antimetabolites) の分野に於いて得られた。この type の化学療法剤は癌の分野に於いては purines, pyrimidines, folic acid, glutamine などを含んでいる。この問題への approach の方

法やプリン代謝拮抗物質 (The purine antimetabolites) について次に書くこととする。

量子化学による分子軌道法の LCAO 近似式がこれら分子のあらゆる電子の特徴、即ち分子軌道の energy, 電荷の分布, bond orders, freevalence などの計算に用いられている。

(1) 関連化合物 (Reference compounds)。adenine (I), guanine (II), [式1参照]一核酸の構成に入っている二つの基本的プリン塩基。hypoxanthine(III) 一核酸の再合成に於いて大切な鍵となっている。この再合成に於いて inosinic acid から adenylic acid 又は guanylic acid への転換の inhibition として purine 代謝拮抗物質の抗癌性が大きく関係している。図1

(2) 抗癌性を示すもの。これらには 6-mercaptipurine(VI), thioguanine(V), 2,6-diamino purine(IV), 8-azaguanine(VII), 6-methyl purine (VIII), 2-azaadenine (IX), purine (X) がある。これらは実際すべてが根本的なものばかりである。

式 (1)

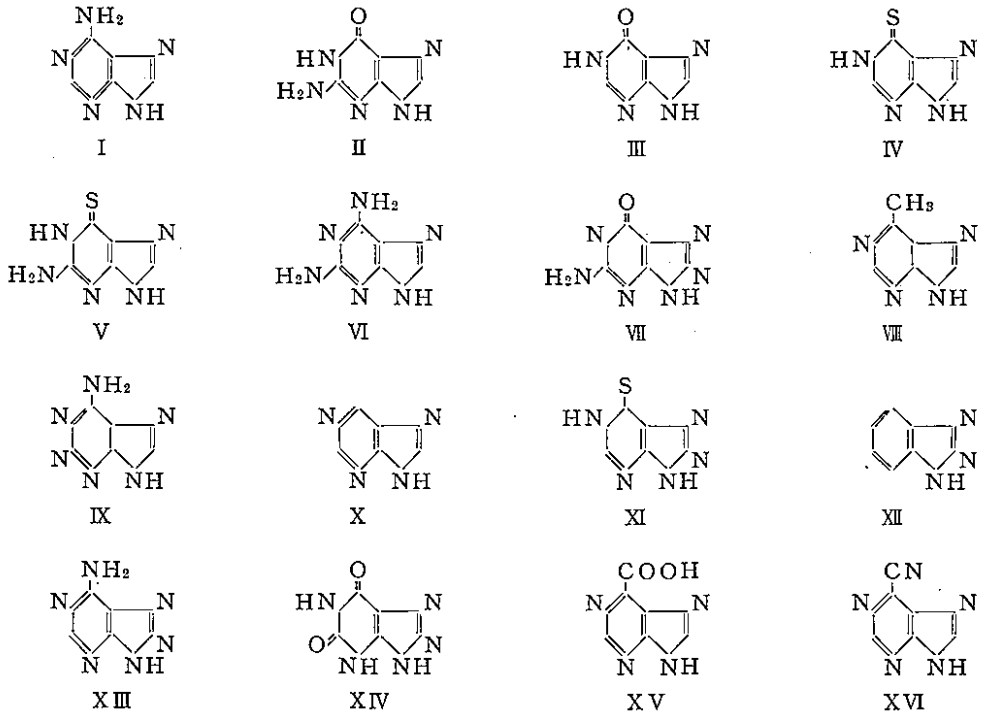
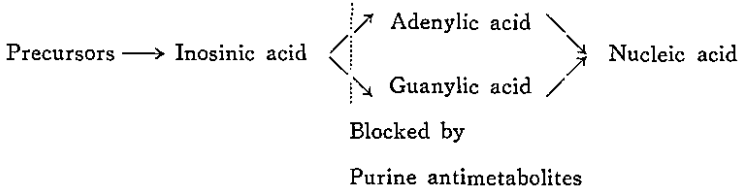


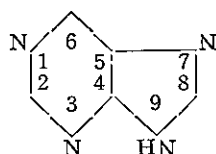
図1 de novo synthesis of nucleic acids.



(3) 前述のものと関係があるが抗癌性のないもの。8-aza-6-mercaptapurine (X I), 8-aza-purine (X II), 8-aza-adenine (X III), 8-azaxanthine (X IV), 6-carboxypurine (X V), 6-cyanopurine (X VI)。その他多くの potential な purine 代謝拮抗物質は抗癌性を少しも示さない。この構造は活性な代謝拮抗物質からは一般的にずっと異っている。もし不活性な化合物が活性な化合物と表面分子構造でほんの少ししか異っていないならば、action の mechanism について重要な知見が得られるだろう。また多くの理論は、ある分子の形状が the natural base の形状と広い範囲にわたって異っている様な場合には抗癌性に欠けるといふ事をかなり確実に推論した。

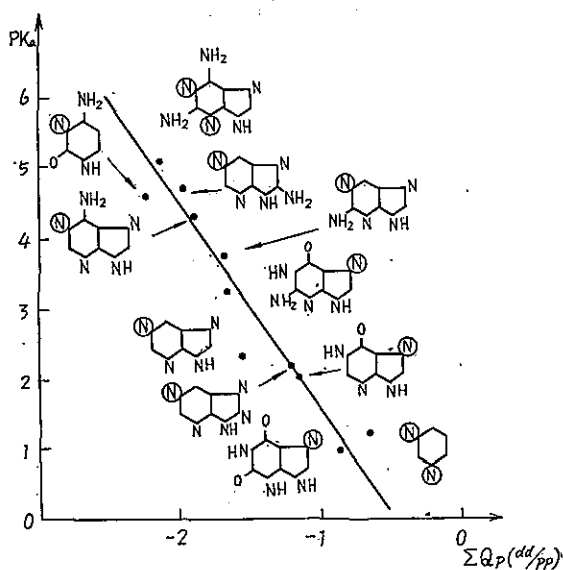
更に詳細な実験によって得られた種々の結果から次の様な結論に至った。即ち、一つのはっきりした相関関係が、electronic level に於いて代謝拮抗物質の構造と抗癌性の間にある。[この関係はプリン骨核の環状窒素にある様で、更に二重性を有している]。図2

図2 プリン骨核の原子の numbering



(1) Hydrogen-bearing N_9 の electrical charge と抗癌性の関係。プリン環の π -電子 pool の共役に於いて、この lone pair の関与故に多くの化合物が規則正しく positive charge を有している。この charge は関連化合物に於いて +0.400e から +0.419e 迄の範囲に、活性な代謝拮抗物質は +0.399e から +0.431e 迄の範囲に、不活性なものは +0.437e から +0.441e 迄の範囲に位置している。一般的法則は [N_9 の positive な規則正しい

図3 Calculated versus experimental basicities in purines and pyrimidines



charge は不活性な代謝拮抗物質に於いては活性なものよりも大きく、活性なものは natural base と同じ程度の大きさを持っている]。この関係は一つの簡単な生化学的解釈をもたらした。即ち N_9 は塩基の metabolic ribosidation の部分であり、ribosides の安定性は、少なくともこの窒素が positive charge であると云う事が分る。活性な代謝拮抗物質の ribosides はこの様に不活性な ribosides より安定でなければならない。実験的に判明したことは、実際次の事柄を示している。即ち potential な purine 拮抗物は一定した ribosides に変化した時のみ抗癌性を有し得る。更に drugs の作用に対する生体の抵抗性の増加が、それらを ribosides にする能力の欠如に関係しているとさえ思われる。

Table 1 塩基性と抗癌性

compound	position of the most basic nitrogen	$\Sigma p \neq d Q_p$ (dd/pp)	Exptl PKa	Antitumor activity
2,6-diamino purine	N_1	-2.21	5.09	+
2-aza-adenine	N_1	-1.96	—	+
Adenine	N_1	-1.91	4.22	} Natural bases
Guanine	N_7	-1.67	3.3	
8-azaadenine	N_1	-1.65	—	—
purine	N_1	-1.52	2.39	+
8-azaguanine	N_7	-1.46	—	+
6-methylpurine	N_1	-1.4	2.6	+
6-mercaptapurine	N_1	-1.35	2.5	+
8-azapurine	N_1	-1.35	2.12	+
6-cyanopurine	N_1	-1.22	0.7	—
8-azaxanthine	N_7	-0.55	—	—

(2) The remaining ring nitrogens の塩基度と抗癌性との関係。残りの hydrogen free ring nitrogens は規則正しく負の charge をおびている。これらの塩基度は直接 proton に対してある引力を及ぼすと考えられる charge にもとづいている。しかし最近の研究に於いては次の様に云われている。即ち, polyaza-compounds では, 塩基度は更に複雑な式によって示されていて,

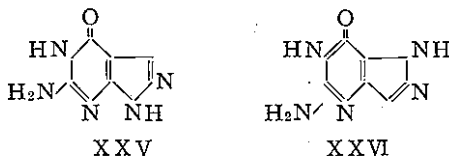
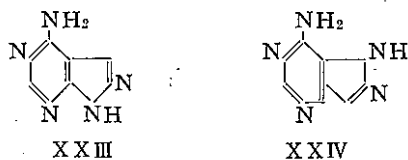
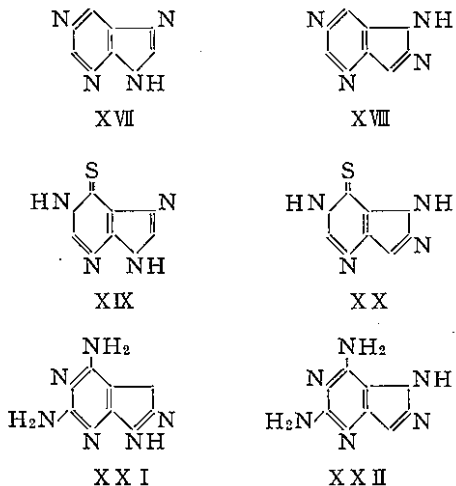
$$B = C^2 + \sum_{p \neq d} Q_p \text{ (dd/pp)}$$

Q_p は窒素原子の規則正しい charge, (dd/pp) は窒素原子の lonepair の electron と原子 P の π -electron との間の Coulombintegral, 合計は環のすべての原子 P について計算される。この方程式は図3からも分る様に関連化合物に於ける相対的塩基度を予言するのに良好な結果を与える。図3では $\sum_{p \neq d} Q_p$ (dd/pp) の量は一連の生化学的に重要な purines や pyrimidines の実験的 PKa の値に対して考えられている。(円印は, 各化合物の最も basic な nitrogen を示している。)

抗癌性と関連して考えると, これらの結果は Table 1 から推論される様に, 抗癌性と塩基度の間にたしかに満足しうる様な相互関係が存在していると考えられる。従って明らかに抗癌性を有する化合物は, 抗癌性を有さないものよりもずっと塩基性である。この相互関係を更に詳しく表わすと, 活性な代謝拮抗物質の塩基度は不活性化化合物のそれよりは natural base に近く, 活性な代謝拮抗物質の最も basic な ring nitrogen は N_1 か N_7 のどちらかでもあると推論される。これは adenine, guanine に於いても, 最も basic な ring nitrogen が N_1, N_7 であるのと一致している。

抗癌性と塩基性との間の関係が重要なことが pyrazol-pyrimidines の抗癌性に関する最近の研究から強い支持を受けた。

式2



pyrazol pyrimidines は imidazole 環に於ける窒素原子の位置のみが異った化合物で prine の異性体である。この二つの基本的な pyrazolpyrimidines 環は (XVII), (XVIII) である。式2。これら多くの誘導体は抗癌性という見地から実験的に研究されて来た。そして研究された化合物は活性な purine の類似体を含んでいた。例えば, 6-mercaptopurine の類似体 (XIX), (XX), 2,6-diamino purine の (XX I), (XX II), adenine の類似体の (X XIII), (X XIV), guanine の (X XV), (X XVI) もまた研究された。約100種もの分子が研究されて, adenine の類似体だけが抗癌性を持つという重要な結果が得られて

いる。

抗癌性と塩基度との関係について現在の知識から直ちに分る様になった。それから研究された結果, すべての pyrazol-pyrimidines に於いて, pyrazolpyrimidine, adenine 類似体を除いて, 最も塩基性な ring nitrogen は3の位置にあり, natural base の adenine や guanine に於けると同様に, 又は活性な "classical" な purine 代謝拮抗物に見られる N_1, N_7 の位置には存在しない事が分った。最も強い塩基性の nitrogen が N_1 であるのは (XVII), (XX V) に於いてのみである。更に, 活性な adenine 類似体の塩基度は adenine の塩基度の近くにあるし, 活性な "classical" な代謝拮抗物質の塩基度位なければならない。一方不活性な (XVII) の塩基度はずっと小さくて, 活性な "classical" な代謝拮抗物質の塩基度の程度よりもずっとはなれている事が分った。(これら二つの化合物の $\sum Q_p$ (dd/pp) の値は各々 $-1.67, -1.23$ である。) この様にして塩基度と抗癌性との間の関係は不活性化多くの化合物から活性な化合物の群を分けるのにすぐれた選択法となっている。ごく最近では pyrazolpyrimidines の塩基度は実験的に決定されてきた。又これによっても, 化合物の塩基度と抗癌性との間に一つの関係があると言う結論に達している。それにもかかわらず, この関係にはある数の例外があった。これは次の様な事実にもとづいている。即ち, 分子表面の最も塩基度の強い nitrogen の位置という点に於いて考えられてきたからである。種々の化合物が抗癌性に欠けている場合には, ごく一般的に pyrazol-

pyrimidines の最も強塩基性を有する nitrogen は N_3 でなければならないし、活性な代謝拮抗物質に於いて最も basic な nitrogen は N_1 になければならない（場合によっては N_7 になければならない。）と言う理論に疑問が生ずるが、この疑問に対してははっきりした解答は未だなされていない。しかしそれにもかかわらず purine 骨核の N_1 は hydrogen bond を通じて DNA の purine—Pyrimidine pair を形成するのに関与している nitrogen である点は注目される。この様にして natural bases (一つの procedure がそれらの抗癌性に関係づけられる可能性がある) の面で核酸へと入り込む potential analogs の能力は、絶対的、相対的な塩基度の値の両方に依っていることが推量されている。 N_7 の重要性に関しては、酵素の中心や金属イオンを有する終局的には複雑な formation に於いて、この位置の関与が考えられている。

結局、pyrazol pyrimidines の系に於いての抗癌性と hydrogen bearing な N_9 との間には関連性がないと言う事が付加される。実験的 data によれば、これら分子群に於いての ribosidation は抗癌性を有するには 必要な条件ではないことを示した。

Submolecular structure と抗癌性の関係に於けるこれらの研究は全く始まったばかりであり、得られた結果から結論することは冒険ではあるが、この関係を我々が更に理解しようとする努力することは、経験的な現在の化学療法面に於いて一つの合理的な化学療法へ向う道であることが期待される。発癌物質の化学的分野に於けるこの理論の成功は、既知のものよりもずっと強力な発癌物質の創造へ導かれた。やがて、この創造が癌の化学療法分野でなされることが期待される。

Electronic biochemistry の分野に於いて現在研究されたものの中で、ここでは書かなかった他の重要な問題と

しては次の様なものがある。即ち、the electronic structure of the energy-rich phosphates, the mechanism of action of hydrolytic enzyme, the mechanism of action of decarboxylating enzymes, 胆汁色素の electronic structure, Porphyrins の electronic structure と生化学的役割等である。

Electronic biochemistry は理論化学の最も興味深く発達したものの一つであり、生の神秘の根本的理解へと向う Submolecular biology への広い入口でもある。

参考文献

1. I. Isenberg and A. Szent-Gyorgyi, Proc. Natl. Acad. Sci. U. S 44, 857 (1958)
2. H. A. Harbury and K. A. Foley, Proc. Natl. Acad. Sci. U. S 44, 857 (1958)
3. R. S. Mulliken, J. Am. Chem. Soc. 72, 600 (1950); 811 (1952)
4. B. Pullman and A. Pullman, Les Theories Electroniques de la Chimie Organique.
5. B. pullman and A. pullman, proc, Natl Acad. Sci. U, S 44, 1197 (1958)
6. A. Pullman and B. Pullman, Bull. soc. chim. France 1958, 766
7. B. pullman and A. pullman, Biochim. et Biophys. Acta 36, 343 (1959)
8. A. Pullman and B. pullman, Bull. soc. chim. France 1958, 766, 973, 1959, 594.
9. T. Nakajima and B. Pullman, Bull. soc. chim. France 1959, 1502.
10. A. Pullman, B. Pullman, and T. Nakajima, Bull. soc. chim. France 1959, 590.
11. A. pullman and B. pullman, Proc. Natl. Acad. Sci. U. S 45, 1572 (1959)
12. G. B. Brown and M. Balis, The Leukemias,
13. R. W. Brockman, H. E. Skipper and J. R. Thomson, Proc. Am. Assoc. Cancer Research 2, 284 (1958)
14. T. Nakajima and A. Pullman, J. chem. phys. 56, 493 (1958)
15. H. E. Skipper, R. R. Robins, J. R. Thomson, C. C. Cheng, R. W. Brockman and M. Schabel, Cancer Research 17, 579 (1957)
16. B. M. Lynch, R. K. Robins, and C. C. Cheng, J. Chem. Soc (1958) 2973.

(4年衛生化学教室)

☆

☆

☆

Table 2

Atom	δ	Bond	η
=N—	0,4	C=N—	1
—N— 	1	C—N— 	0,9
+ =N— 	2	+ C=N— 	1
=O	1,2	C=O	2
—O—	2	C—O—	0,9
=S	0	C=S	0,2
—S—	0	C—S— C—C	0,6 0,1
Carom—Caeiph≡H ₃		C≡H ₃	2
Carom=—0.1			
Caliph=—0.2			

—現在の我々の仕事—

酒を飲むには金がなし、映画を見るには時がなしと言った学を究むるには最高の環境に置かせていただいていますので、アミコスの編集子に請われるままに一文を草することにした。

私が核磁気共鳴 (NMR) に興味をもったのはと言うよりむしろ持たせられたのは大学院に入って間もない頃でした。当時佐々木先輩と二人でギリアムの輪読をやっていましたが、それが一回二時間30頁と言う進みぶり、終ると身心共にフラフラした感じでした。その後いつもの様にグタウスキの例の文献を持ち出して、ケミカルシフトとか、カップリングコンスタントとか聞きなれない単語を並べて私を煙にまいたものでした。その時程敗北感で身をしめつけられたことはありませんでした。

幸い東北大学に職を得て、しかも望むべくもない池上先生に御指導を得てNMRをやる機会が出来たことは何としても狂喜に近いものです。

アミン類、アルカロイドに含まれる窒素のローンペアは周囲の状態により若干異って来ることはよく知られています。例えばブラウン教授はN-アルキルアニリンのO一位に置換基を入れると反応速度恒数が低下すると述べられて

います。これはとりもなほさず、O—位置換基によりローンペアが取り囲まれた状態になるからです。では置換基が全くなくムキ出しのローンペアだけの場合を考えよう。今此ローンペアが何かの都合で少し向きが変えられたらどうだろう (cis-及び trans-quinolizidine の場合がそれ) この変えられ方が少ない場合はもはや我々は化学的にこれを知る手段はありません。

我々はこの少しの違いを知る手だてはないものかと思ひ廻らしまして、ここにNMRを導入した訳です。

その原理と言いますのは、このしらべようとするアミンに酸を加えてやります。酸はプロトンを出しますので、これはアミンのローンペア目がけて飛びついて行きます。ここで我々は一つの仮説を立てました。プロトンがローンペアへ飛びついて行く (これを exchange で表現) 時、ローンペアの垂直方向から行うと言うことです。そうすると広々とした空間につき出しているローンペア程プロトンを受け入れやすくなる訳です。環状アミンの場合、隣近所に水素がニョキニョキと林立しているの、個々のアミンによって窒素のローンペアの邪魔され方が違う訳ですから、これへプロトンが飛びつく度合いをしらべればよい訳です。これがNMRのシフトの差になって表われて来るのです。

我々はこれから進んでローンペアがどれ程傾いているかまで知ることが出来ればと、取らぬ狸の皮算用に余念がありません。

この様に夢想が夢想を生み、そしてそれが現実となった時薄給の身で王者の心境にいたれるのです。

自然の美

妻 神 恵 美 子

「あの風景の美しさはとても口に言い表わせない。」「言語に絶する美しさ」よく人はそんな風に言う。旅をして、大自然の中に身を浸してその意味が理解できた。自然の美しさ、すばらしさを讃える詩、言葉はたくさんある。しかし「ああ松島や松島や」これが本当に自然の美しさに接して心から発した言葉だと思ふ。そしてその美しい自然の景観の上に重要なウェイトを占めているのが水である。水は全て H₂O それなのにその色、その水鏡に映るものはそれぞれ違う。

北海道を旅行して数々のそれぞれ違った美しい水の色をもつ湖をめぐったが、特に印象深く残っているのは、原始的な美をたたえている摩周湖と然別湖である。

一種異様なひきずりこむような神秘さをたたえている摩周湖、岸近くまで原始林の壁、断崖を湖岸に降りる道もなければ注ぎこむ川も又流れ出る川もない。それでいて深さは常に変わらず静かに横たわっている。水の色は真蒼というか何と言うかとにかく言葉では表わせない。数々の伝説

はともかくとしてただアイヌがこの湖に神が住んでいると信じていたことだけは十分うなづかれる。

訪ずれる人も少ない静寂境然別湖、複雑な湖岸線を持ち白樺などの原始林におおわれた周囲の山々の裾が湖岸に迫り、雲のたたずまいや雲の去来にもこの湖は高所にあるため、平地には見られない神秘的な変化があり、早朝或いは夕暮に湖畔を逍遙すると、しばし人を忘れ自然の子にしてくれる。

二つの湖に述べた様に水の色は対岸の美しさである。山や木やそして空や雲に依る。しかしその水の色を真に言葉で或いは絵画で表わすことができないのではないのか。ジェイムス・トムソンも次のようなことを言っている。

「だがだれが自然のように色を塗ることができるだろうか。そのあでやかな創造物の中では想像力も自然のような色合を誇ることができるだろうか。」 (2年)



考えて見よう

我々をとりまく問題

編 集 部

×…本学医学部薬学科は、他大学の薬学科と若干異り、単なる薬剤師の養成のみを目的とするので…×
×…なく、むしろ高度の知識を有する薬学者を養成し、医学と薬学の連繋度を高めるため、その学…×
×…科目のうちに医学関係科目を多数加えた総合的薬学の研究に重点を置かんとするものである…×

上の主旨を掲げて、東北大学医学部に、薬学科が誕生して、早くも5年、既に大学院も設立され、各研究がいよいよ軌道に乗ろうという現在、私達は、ここに私達をとりまく問題を、出来るだけ正しく見つめ、今後の薬学科の発展の小さい礎石となるよう、各方面から検討を試みてみた。

まず始めに、各民間会社及び第一期生として、実社会へ巣立った先輩に対し、その意見を求め、更に学内に於いては、大学院及び学部学生の考えをまとめ、次いでそれを基に検討を進めた。

その1—先輩はどんな分野に進んだのであろうか。

第一期生のうち大学院進学者を除く就職者の約8割は、技術関係（現場及び研究所）につとめ、その大半が研究所で働いている。なかには、会社より大学に派遣され、更に研究に従事している者もある。特に化学工業系への進出が目立ち、これは現在の好景気による化学系学生の不足と、製薬部門への進出によるらしい。これは今年度も同様な傾向が見られる。各会社よりの解答によれば、これが全国的な傾向であるかどうか、直ちに結論し難いが、特に目立つ事は、化学工業系会社でも、営業部門に薬学系出身者が、非常に多く、いわんや製薬会社に於いては、それがきわめて甚しく、数社の集計によれば、研究所、現場の人員構成に対し、営業のそれは、2倍半に近いものである。このような営業部の、薬学出身者の吸収の原因とは、一体なんであろうか。一卒業生は、この事を「薬学系出身者の特徴の一つは、その仕事は、事務、営業、技術系などの何れの仕事でも、やる気さえあれば、一応処理出来るという可能性だと思う」と述べているが、はたして単なる有能性という言葉で片づけられる問題なのであろうか。むしろ逆にいえば「何らの特殊性を持たない」という事になりはしないだろうか。そこで次に特別実習をも含めた、カリキュラムを、広い立場でながめてみた。

その2—カリキュラムの編成はどうなっているか。

当薬学科は4年の6月までで、一般教科を終え、7月から特別実習として、各教室に配属される。この間学生は、何度となく試験に悩まされる事になるのであるが、結局我々には、

その2の1—定期国家試験が待っているのである。実際には、一期生で、殆んど全員に近い者が、資格を取得したものの、いわゆる病院或は開業薬剤師となった者は、皆無であり、現4年生にもその希望者はいない。では何の為に国家試験を受けるのであろうか。これに対し殆んどの方は、「現在それ程必要でなくても、取得しておくに、こうしたことはない」「就職上必要」「受験資格があるのだから受ける」等の意見をよせている。しかも、その大部分が「授業内容にかかわらず、ある程度独力で準備出来る」というのであるから、国家試験を多分に意識した、現在のカリキュラムが至当なものかどうか疑わしくなってくる。

その2の2—そこで薬学科のカリキュラムを同学の他学部のそれと比較してみた。

理学部化学科では、分析、有機2、無機2、物理化学及び放射化学、全部で7科目、工学部応用化学では、それと対照的で、実に教科が多く約20科目、更に実習の科目が14しかもこれらは単位取得に最低の線であり、更にこれらの5割増ほどの全科目の中から、適当に選択出来る仕組みになっている。農芸化学科はこれもまた相当な教科数を有するが、同時に選択教科も、かなりの数にのぼる。いずれにせよ、応用学科たるものは、幅広く、しかも学生に自由に選択出来る機会を与えているのが目立つ。然し我々の薬学科は、その科目数も決して少なくなく（農芸化学と同じ16）しかもそれには一際選択制は認められていない。応用学科としての薬学科であるから当然のことかも知れないが、薬学科学生としては、むしろ「研究第一主義とし、その幅広い基礎にふさわしい、ほり下げた内容のもの」を望んでいる意見が、圧倒的だとあれば、近い将来何とか改善されねばならない問題ではなからうか。又これを単に科目数からだけでなく、その特徴を他の学科と比較すると、単に有機化学という一面を取り上げても、その理論的根拠となる物理化学の方面に、他学科はかなりの力を入れている。又農芸化学科は、その性格が、基礎を生物に置き、ものを化学的に考え天然物から生産物を作ることにあるというがそれに特徴づけられるように、就職者の8割は微生物醸酵関係をやらせられるという。つまりその科全体が、ある一

つの傾向を持っているのが、強みといえば強みなのであろう。これと薬学科の授業内容を比較すると、例えば有機化学に於ける理論的な面（物理化学等）に欠け、しかもその科としての性格（目的を意味しているのではない。目的は医薬を作ることは自明である）があいまいであり、その事は就職した先輩の意見にもうかがえるのである。

その2の3—カリキュラムと就職の関係はどのようなであろうか。

まず、現在勤めている先輩の発言を聞いてみよう。先にもふれたように、基礎理論面の欠如について、ある先輩は、「ミクロの技術なら他学部の者にひけはとらないが、理論面ではダメである」と言い、又「薬学系の者は数学的な取り扱いに欠け、これは社会に出た場合に、他学部のものとの競争に負けてしまう決定的要素のように思われる」というのであるから、如何に彼等がその方面の知識の必要性を痛感しているかがわかる。加えて会社へのアンケートにも「薬学系出身者に望むことは、技術上の理論面の習得である」と言うことから、この辺の事情を推察出来るであろう。又その特徴についても「薬学系出身は他の学部では得られない薬品の生体への反応、解剖、薬品作用学的なことなどを身につけていると、薬学系として認められ尊重されることになる」とも言っているが、まことにもっともなことであり、又当然そうでなくてはならないと思う。はたして薬学科に於いてこれらの問題に対する十分な教育体制が行なわれているだろうか。

以上の様な点からほぼ薬学に於けるカリキュラムの性格のあいまいさが、伺われるのであるが、今後、他学部と共存して学科としての独自性を保っていくには、学問的特徴が当然裏付けされなければならないと思う。現在に於いては有機化学に於ける理論面（例えば物理化学、電子論など）更に有機物の生物活性、或は製剤にからむ一連の生産手段上の理論（化学工学、工業管理など）等の方面の教育も必要だとあれば、いきおい二年間という限られた期間内で教育を行うことが無理なのかも知れない。それなら当然考えられる結果として

その2の4—分科制にするか、終業年限延長制にしたらどうかであろうか。

分科制を主張する意見の代表されるものとして「結局は限られた時間内で広く深く知識を求めることは困難であるから分科制に踏み切って一分野の知識を深く身につけたい」と述べている。しかし薬学というものが有機化学、生化学を通して最終的には、薬品を生み出す事に結びつくと考えれば、むしろそういった各分野のギャップを埋め統合していかねばならないのであるから、分科制はむしろ逆コースとなる恐れはありはしまいか。というのは現在の講座制のもとでは、それらの学問上の統合が、殆んど行われず、ただその分野のみに深く突込んでいくことになりかねないからである。しかも分科制はそれに拍車をかける結果になる

かも知れない。延長制については、3年の学生に賛成者が多く4年生は反対者が多いという興味ある対照が見られ、これは少なからず特別実習に入ることが、その考え方の契機になると思われる。しかしこの反対意見とて必ずしも現在の内容で満足したものでなく、殆んどは専門課程の延長を望み、それが教養部短縮の形で実現されることを望んでいる。しかし教養部へのくい込みを認めない意見もあり、教養部はそれなりの使命があるはずで、一般教養を深める期間であるべきだと主張している。もっともな意見ではあるが、一般教養なるものは、何も学部進学と同時に終わってしまうわけではなく、むしろ学部でも当然行われなくてはならないものである。しかも一般教養言々たる性質のものがとかく大学受験後の反動で、暇にまかせて、ただ慢然と過していることが、ありはしないであろうか。又化学の講義一つを例にとってみても、教養部と学部の連絡が、殆んど無いように見受けられ、これらの問題点を解決する一番の近道を、教養部短縮の形で求めるのも当然のことかも知れない。延長制を主張する者は「研究部門へ進出するならマスターコースを出ればよいという考えは、誤っている。元来東北大学は研究者養成を標榜しているのであるから、その主旨にそのような延長制はやむを得ないであろう。」と述べている。又表面的には出なかったが、経済的問題は大きな比重を占めているだろうし、或は社会的問題、例えば仮りに薬学のみが、一年延長したところで、それ相当の待遇で社会が受け入れてくれるかどうかという疑問も生じてくるであろう。この問題については色々現実との矛盾を含み、一つの結論として打出すことは困難である。

その2の5—特別実習について

これこそ、国立大学の最も特徴とすべきところであり、我々学生の一つの憧れであり目的でもある。そこに於いて始めて、薬学者としての研究態度養成のスタートラインにつくわけであり、特別実習の意義は“実験技術と自主的計画検討”を含む総合的訓練にあり、更に同じ研究を通じての“人間的な触れ合い”をも含んでいるわけである。このように特別実習そのものは、我々が将来、一人前の技術者としてやっていくのに欠かせない基礎を作るものなのであるが、実際に特別実習をやってみると色々な問題がないわけではない。その問題の大きな点は、学生実習との間の飛躍にあるようだ。つまり学生実習の何ヶ月かを終え、その間きわめて間口の広いしかも浅い知識しか与えられず、いきなり、きわめて専門的な問題にとり組むわけであるからそこに当然ギャップが生ずることになり、「大学生時代は、むしろもっと基礎的実験を数多くやり、[all round な薬学者として成立つようにしてもらいたい]という意見を生むことにもなる。卒論と就職とは全然無関係ではないが、「学士卒で入社したもので、特別実習のテーマは考慮しない」のが実情であるらしい。これは次の数字が物語っているものと思う。

各部門への人員配置の仕方（修士課程者も含む）

- | | |
|----------------|-----|
| ① 個人の希望による配置決定 | 17% |
| ② 出身学科の特殊性をみて | 45% |
| ③ 卒論の内容によって | 5% |
| ④ 卒業時の成績 | 11% |
| ⑤ その他 | 11% |

編集部注（以上化学工業系会社5社，製薬会社4社の総計による）

又，特別実習期間に入ると講義の欠如などにより学生間の「共通の考える場」というものが失われ，更に更に一人前の研究者ぶって悪い意味での「研究者かぶれ」してしまうなどということが，なきにしもあらずである。確かに与えられたテーマのみに終始して，他の分野を顧みず，次第に柔軟性を失うことがあるとすれば，残念なことである。又ここで考えられることは，特別実習に入ると，その教室の研究に参加するわけであるが，「与えられたテーマについて実験を進めていくうち，学生にとって，新たな疑問と興味ある問題が生ずるのであるが，それを深くほり下げたいと思っても，それが教室の研究方針に合致しなければ，研究の対象外とみなされる」と訴える者がいる。恐らくこういった意見は，特別実習は，その教室の研究に従事することなのか，或は学部の学生として教育を受けるのだろうかという疑問を意味しているのではなからうか。勿論，特別実習は研究を通しての教育だろうが，学部の一年足らずの講義を受け，直ちにきわめて専門色の濃い—いい換えるなら，狭い分野を追求していく—ということは，限られた二年間で all round な薬学技術者を養成するという意味からも問題があるのではなからうか。こんなことから，「特別実習期間は，せめて期間をおいて二つ位の教室に入り，教育を受けたい」とか「この期間にも，遅に二・三回の講義があってもよい」という，意見が生ずるのだろうと思われる。

その3—私達は現在，何を必要としているだろうか。私達は，ここでもう一度当薬学科の創立の主旨を，とくと考えてみよう。実際，社会が薬学というものに，期待しているものは，“よりすぐれた医薬の開発”ということであることは，だれも疑わないであろう。そこにこそ薬学科の使命と目的がある。だが「薬」を生み出すということは，なみ大抵のことではない。それは常に医学の発展と共に歩み，そこには切り離すことの出来ない絆がある。私達はもっとも医学を意識してもよいであろう。だが単にそれだけでは「薬」が生れるものでもなく，やはり，それ以前に薬学科自体のまとまり—換言すればスムーズな横の連絡が，絶対に必要である。最早「薬」というものを，個人プレーで生み出すことは至難である。現在まで，嚴重な予防と治療の綱目を，くぐり抜けて，生きのびて来た，又新たに生長しつつある病根に対し，薬学を志す者は，総力をあげて，立ち向かわねばならない。このことを単にムード的

なものでなく，実際の軌道にのせる為には，如何なることを為せばよいのであろうか。残念なことであるが過去の薬学に於いては，横の結合が殆んどなく，薬学の使命に決定的打撃を与えていた。これからの薬学者は，何とかしてこの点につき，よりよい方向に導かねばならない。誰もが認識しているが，又誰にとっても，むづかしい問題であり，あらためて，ここにもう一度考え直してみる必要がある。この問題については，ともすると，理想的な空論に終わってしまう傾向があるが，出来る限り現在を基として，ながめてみた。まづ最初に考えられることは，各講座には，各々その教室の研究対象をバックとした主義主張があり，それに基づいて各人各々考えることが，異なるから，そこに，最大公約数たる“共通の考える場を持つこと”これが何はさておき，真先に行われなければならないことだろう。具体的には，或る程度共通性を有する講座間の合同ゼミ，特定テーマを各講座より追求する交換ゼミ，又は持ち廻りゼミ等のゼミナール形式をとることや，定期的な各人のテーマを発表することなどで，これは大部分の学生が，努力如何により，その実現性を認めている。又「これらのことが出来ぬ様では，以後の発展は望めそうもない」という意見も最もと思われる。だが東北大学薬学科は，まだ若い。若い時代にこそ夢もみれば，理想も掲げ，それに向って前向きの姿勢をとらねばならない。現実をよくみきわめて，高い理想をいざなうなら，必らず実現される日がやってくるだろう。私達が，最も理想とするところ，それは古い過去の思想にとらわれることなく，或る特定テーマを基盤とした，各講座の共同研究，いい換えるならば，現在の講座制にとらわれず，一つのテーマに対し，生化学的，有機化学的，物理的，その他あらゆる方面から総合的に追求することであろう，その場合にこそ，今までの講座に於いて，深くつっこんだ研究が，始めて意義あるものとして使用され得る。事実，欧米，ソ連では，この system で研究を進めていると聞く。又国内に於いても，理論物理学方面（素粒子論研究グループ）ではこの system が採用されて相当の成果をあげている。現在の薬学を評し，或る卒業生は「現在の場合，狭い知識を持った似たような考え方の人間が集まって，ああでもない，こうでもない」と議論することが多く，違った方向から考えてくる人が少い。薬学の畑で育った人のみでなく，異った分野の人間も入って，討論出来る体制が，望ましい」と意見を寄せている。しかしこままでいかずとも，せめてテーマの進展につれて，関係する教室に自由に入出入りして，指導をあおぎたい，というのは，学生の偽らざる気持ではなからうか。結局のところ共同研究の体制をしくには，それなりの準備が必要で，現在の段階としては，やはりゼミナールあたりから，除々に解決の糸口を造り出すのが最も順当と思われる。ただゼミ，ゼミといったところで，現在の状態は，与えられた仕事に追われ，その余裕がないことは，皆の口にするとところであ

り、又大学院学生のゼミナール中絶によっていかに難しい問題かが推察出来るようが、ある程度 systematic なものによって解決されるのではないだろうか。要するに、殆んど人間が、その必要性というものを認識している。我々にとって最も要求されることは、それに伴う種々の障害を乗り越えて行く、若いエネルギーの集積ではなからうか。

その4—薬学の歴史的背景と今後のあり方

以上とりあげた現在の薬学に於ける、諸々の矛盾—それは過去の薬学の歩んで来た歴史的背景によって裏付けされた宿命であったのかもしれない。「明治の初年に、既に西欧で出来あがっていた職業教育としての薬剤師教育、及びそれに伴う生産の場から販売の場に転じた薬局形態、精密化学工業としての製薬生薬の有効成分研究と表裏の関係にあった、18.9世紀の有機化学等が at random に、完成された形態として、輸入され、何ら組織化されることなく各々の分野が、そのまま受け継がれた薬学の歴史—資本と技術の欠如から、直接生産に結びつかず fine chemistry と称して、象牙の塔にたてこもった、大正初期、そして第一次世界大戦による輸入停止と、その場しのぎの既知薬効物質の合成、生産化、戦後の行程変更のみに終始するパテントくぐりの技術者を、生みだした日本の薬学」（自然15の9参照）我々は、今ここに、日本の薬学の持つ歴史的意味を正しく理解すると共に、今後の学科の独自性というものを、切り開くよう、努力せねばならない。それは単に薬効のある薬をみつけたとか、作ったという事のみでなしに、もっと広い見地から“複雑な生体反応の一つの現れ”としての disease を医す“物質”を研究することにある。そのときにこそ、医師の下にいつも置かれる薬剤師の問題も、就職に際しての民間会社の偏見も、自ずと氷解するであらう。

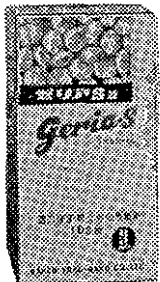
あとがき

以上、当薬学科の発足以来、浅学ながらも私達の考えてきたことを、まとめてみた。私達の考えは、まだほんの入口で、考え至らざる点も多分あるだろうし、文章自体に矛盾を含むものもあろう。又個人の考え方でこのような問題を解決し、順応出来ると主張する人もあるだろうし、事実それをやり抜いて来た者も、なかにはいるだろうが、個人的に努力するのは勿論必要ではあるが、それを、ただ個人的のみやれという態度では、いつまでたっても学問の進歩は、望み得ないし、結局その本人自体、壁につき当ってしまうのではないだろうか。やはり systematic なものとしてこそ、始めて学問として進歩し得ると信ずる。自分の現在の仕事を実行もせず、こんなことを述べて来た私達を、とやかくいう向きもあろうが、実際に教育を受けているのは私達なのであり、その点からいえば、私達の感ずる悩みは、私達にとっては、非常に大きな意義があることを知ってもらいたい。そして私達の持つ悩み—換言すれば、“それに伴う困難さ”の核心は、我々が、そして薬学全体が、正しい方法論を持つことにあると提言して、この拙論を閉じよう。

新発売

むすこにまさる若さと活力

細胞賦活剤コンドロイチン配合!



細胞賦活・総合活力増進剤

ゼリアPS錠

活力増進・動脈硬化・高血圧・脳溢血の予防・肝疾患
各種中毒・二日酔・腰痛・肩こり・疲労の回復などに
科 研 薬 化 工 株 式 有 限 公 司 東 京 都 中 央 区 日 本 橋 本 町 3-1
大 阪 名 古 屋 福 岡 札 幌



30錠 400円
100錠 1,100円



GS10

教養部時代をどう過したらよいか

薬学科学生に対するアンケートから

教養部の目的は広い教養を身につけ、人格の高揚を目指すことであるという。しかし実際に学生は教養部時代をどう過し、どこにその意義を見出しているだろうか。それを知ることは、教養部の今後の在り方を考える上にも大いに興味ある問題だと思う。

そこで編集部ではこの点に問いて、薬学科の学生を対称に種々の面からアンケートを求めて見た。回収率は50%前後だったが、ある程度薬学学生の教養部に対する考え方というものはその中に反映されていたと思う。

以下アンケートの内容から教養部の在り方について検討して行こう。

まず最初に問題になるのは、教養科目というものが一体どの程度の意義を持っているか、ということだと思う。

教養部の学生は学習の目的を「広い教養を身につける」ことに置いている者が最も多く、これを裏書きする様に文科系科目と理科系科目に対する興味が同程度に示されていた。しかし「語学、化学を特に勉強しておきたい」というものが次に多いということは、「もっと専門的な勉強を早く始めたい」「実験をきちんとやる」等と共に学部で備えようとする者が割合多いことを示している。そして学習の反面、教養部のうちに「活発にサークル活動をしたい」とか、「マージャン、ダンス等興味の対象があれば出来るだけ多くのものに手をつけたい」などの意見と数多く見られたが、これらのどの点に重点が置かれるべきだろうか。学部の学生に対する 1 教養部はどうあるべきか。2 教養部でやっておけば良かったと思うこと。3 教養部で収穫があったと思うこと。という3つのアンケートに対する回答から検討して見よう。

1については、イ、学習本位17.2%。ロ、社会学・雑学本位44.8%。ハ、サークル本位13.8%。ニ、その他24.2%という結果が得られた。各々の主な理由は、イでは「先づ勉強しておかなければ駄目」或は「学部における学習の基礎だから」というもの、ロでは「時間的に一番余裕のある時期だから広く浅く何でも一通りやる」というものに代表される。そしてハについては交友関係、それによる人間形成という点が強張され、ニに於いては「何本位ということなく、やり得る範囲で悔いのないようにやるべき」といったものが目立ち、「教養部を短かくすべき」とか「学部を3年にすべき」とか現在の制度について触れたものもあった。

2については「勉強」というのが非常に多く、中でも英会話を含む語学が最も多かった。そして次が有機化学或は化学というものだった。又勉強とほぼ同じ位に見られたのはサークル活動で、これは概してサークル活動に入っていなかった人に多く、または加入していた人でも「もう少し活発にやりたかった」というものである。

最後に3の回答中には特に目立って多いものはなかったが、その中では「親しい友人を得ることが出来た」「雑学のせいで種々の遊びを憶えた」といったものが割に多く、学習に関するものは一つも見られなかった。

以上の結果を見て先ず最初に気付くことは1でロが他のどれよりも上まわっているということである。教養部の重点は社会学・雑学に置くべきということだろうが。しかしながら2について見ると勉強しておけば良かったという者が非常に多いという一見相矛盾した事実を発見する。このことから次の様な解釈がなされよう。即ち、社会学・雑学とはいうものの、あくまでも基本になる科目の勉強は忘れてはならない。但し所謂がり勉強主義にはならず、暇の許す限りいろいろと手を出しておくべきだということであろう。この場合基本になる科目とは語学であり化学であると見られる。このことから、学部に於ける語学及び化学の必要性の大きさがうかがい知れるが、実際には所謂社会学・雑学と呼ばれるものに悔いを残している人は一人も見当らなかったのに反して、前提になるべき勉強に悔いを残している人が多いというのは、どこにその原因を求めるべきだろうか。そして又教養部2年間に学習については何も収穫がなかったという3に見られた事実についても同じことが言えよう。勿論この責任の多くは学生自身にあるだろうから、今後心して改善すべきであろうが、そこには何か制度的な欠陥はないと言えるだろうか。「受験勉強からの解放感を味わいたい」とか「教養部は長すぎる」「専門課程を長くすべき」等の意見と共に大いに考えなければならない問題だと思う。

結局、これまで多くの人達はむしろ学習以外のものに教養部の意義を見出して来たと言えるようだ。その一つは上に見た通りであるが、人格高揚という教養部のもう一つの目的は果されているだろうか。

友達は第二の自己であるように、その人の人格形成というものは交友によって左右されるものが大であると思う。そしてまた、教師或は先輩との接触から得られるものも大

きいだろう。次にこれらの点について見て行こう。

薬学科学学生の交友関係のあるところはアンケートの結果によるとクラス、サークル、下宿・寮の順に多かった。薬学科の他学部に見られない特色の一つは少人数であるということで、そのためお互が身近に接することができることは恵まれたことと言える。しかしこの中のみ閉じ込められては教養部の利点を最大に生かしているとは言えないだろう。他学部の学生と交流するという機会も、この時代を除いては少なくなって来るだろう。その意味でサークル活動が大きな意義を持って来ると思う。薬学科学学生の約8割は何かのサークルに加入し、その満足点として「サークルの雰囲気が良い気軽に楽しめる場所をもつことが出来た」等の他に「多くの人と接触でき、人間関係の勉強になった」といった意見を多く挙げていているということからも明らかだろう。そして前にも見られたように、学部の学生でサークルに入っていなかった人達も多くは今そのことを後悔しているということなどを考え合わせると、自分に適したサークルを見出して積極的にその活動に参加することは有益だと思ふ。

教養部に於ける教師と学生の結びつきという点はどうかだろう。大部分の学生は結びつきはないと答え、その人達全員が何かの形で教官との接触を望んでいた。確かに一週に一度か二度の講義、しかも多くの場合壇上に立つ者と、ノートをとる者の間には何ら意思の疏通は見られず、両者の関係は単に機械的なものに過ぎない現状では、教官と学生の人間の接触は不可能と言える。要するにいかにして接触のチャンスを作るかが問題であろうが、結局学生の例から積極的に働きかけることが必要であって、タナからボタモチ式の消極性は棄て去らねば、この問題は解消しないだろう。コンパ、レクリエーション等に招待するという方法もあろう。そして思い切って先生を訪問する位の勇氣も持ちたいと思う。その点「当っていただけるの積りで近づいて成功した」という一意見は大いに励みになるだろう。

又、上級生と下級生という縦のつながりも現在余りないという意見が多かったが、強い縦の関係というものも薬学科という小学科に於いては望まれることだろう。薬友会という親睦機関もこのために生れたものと言える。薬友会によって行われる様々な行事、或は又来年は医学祭もあるこ

とだし、それら交流の機会に各人が参加すべきだと思う。

最後に学生運動について触れておきたい。

最近学生運動は目立って激しさを加え、昨年の安保問題ではその頂点に達した。これらの運動は東北大学の場合常に川内分校学生自治会が中心となって行われているので、教養部に於いて、誰しもこの問題に関心を持ったことと思う。実際に薬学科の学生はこれをどう消化して来たか、過去勤評問題、安保問題を経験した学部学生に対するアンケートから採って見ると、その7割は直接に学生運動に参加している。そしてこれらの人達に最も多く見られた意見は「学生も国民の一人であるから、政治について考え、行動に移ることは必要であるが、良し悪しを真剣に考えて対処する必要がある」といったもので、その他「運動には賛成だが、全学連幹部など少人数のはね上りは良くない」「学生生活をはみ出さない程度にやるべし」「手段を選ぶべし」などがあつた。一方参加しなかった人達では「授業放棄等の実力行使は良くない」「学生運動より自分の勉強が大切」「今の学生運動は単なるエネルギーの発散的傾向が見られる」などの批判が見られた。

アンケート中に多く見られるように学生も政治に関心を持つことは必要であろう。そしてある問題について学生運動が必要かどうか、その手段が適しているかどうかなどは各人がよく検討した上で決めるべきだと思う。学生運動に限らないが何時でも自己の立場を正当化できる確固たる信念を持って事に当ることこそ重要だろう。むやみに単なるエネルギー発散のために学生運動に走ったり、逆にやたらにこれを毛嫌ひすることは忌むべきである。そして勿論アンケート中にも見られた様に「見えのためや、友達付き合いのための参加」などは決してあってはならないと思う。かえって真の学生運動の発展を妨げることになるだろうから……。

以上種々の面から教養部の在り方について見て来たが、教養部時代をどう過すかは結局その人その人で様々である。そして何をするにしても、あくまで後に悔いを残さないようにやるのが大切であり、そうすれば将来いつかは役立つことがあると思う。教養部を意義深く過す上に、このアンケートが何らかの参考になれば幸だと思ふ。

(編集 部)

後輩諸君へ

中野卓雄

今春薬学科もようやく第1回卒業生を世に送り出し、更にはこの4月に薬学会の東北支部の発足をみ、その本部が本薬学科内に置かれるなど、新しい意味での第一歩を踏み出した。また施設及び研究面でも充実をきたし、揺籃期より成長期への移行をみるに至ったことは、大いに喜ばしいことである。そこで私は第一期生として今迄に経験したことや、印象に残ったことなどを我々のあとに続く後輩諸君のため何らかの意味で参考になれば幸いと思い、老婆心ながら思いつくまま綴ってみることにいたしました。

まず私は教養部の人達に、私のにがい経験から少なくとも語学とフィーザーの有機化学を徹底的にやってもらうことを注文いたしたい。特に語学力の不足はあとになって必ず後悔する。

教養課程のころは時間が余りすぎており、暇で暇でとかく倦怠の渦の中に巻き込まれがちで、何をやるのまぼからしくなり、天を仰いで「ああ、大学とはなんてつまらないところだろう」などと歎息することも度々であると思われるが、全て青春のなせるしわざこんなとき何も考えず大いに遊んだらよい。飲むもの結構であるが、所要所要を締めることを忘れないでほしい。特に自分で考える時間的余裕のあるこの時期は「よく学び、よく遊ぶ」コツを得るのにまたとない機会であると思う。「よく学ぶ」とは私に言わせると、それは「勉強する方法を学び、それに基づいた血となり肉となる本質的なことを体得する」ことであるといいたい。とかく俗にいう「点取り」と解されがちであり、「何勝何敗」などという新語までとび出すにいたっては何となく一抹の寂しさを憶えと共に、それを無意識のうちにみとめさせている現実という圧力に恐しさを感じ、このような絶好の機会を十分にとらえることが出来なかった私は何かと悔いられてならない。とにかく語学はやっておいでほしい。

次いで、私が4年間の在学中特に有意義に感じたことは「特別実習」であった「特別実習」とはどのようなことかという、これは講義終了後、4年になってから各教室に分れ、卒業迄各自専門のテーマと取組み主として実験に慣れることを目的として行なうシステムであるが、これが私の場合いろいろの意味で役立った、例えば実験のみに関して比較してみてもそれ迄の実験よりはるかに真剣味が加わりやる気をおこさせ。その他気がついた点を上げると「研究する上での基礎的なテクニック」に慣れること「長く立っていること」に慣れること及び教室という一つのまとまった小集団の中で、コロキウムというディスカッションの場を通して、家族的な雰囲気はひたれること、また別の面よりみれば春秋の恒例の旅行、その間に行なわれるコン

パなどを通してお互いの意志の疏通の出来ること等数え上げればきりが無いが、とにかく「まず実験に慣れる」という実験化学の基本の上ののっとった良いシステムであると思う。どうか良い意味で大いに利用し、更によいものに成長させてもらいたいと思う。尚教室制を決定するにあたり、私達一・二回生の場合はいくまで学生間の話し合いによって、その調整をはかった。これは他学部にはみられない特色であると思うのでこの伝統は守りたいものと思う。4年になって教室を決定する場合、あれこれとだいたい迷うのではないかと思われるが、その時は我々先輩の意見を聞くのも役あることと思う。

さて4年になると就職・進学の問題が大きくクローズ・アップされてくるが、就職の事はさておき、私はここで大学院のことに関して簡単にふれてみたいと思う。私は今春修士課程に進学したが、恥しいながら大学院使命である「学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めて広く文化の発展に寄与する」という目的にそって全面的に進学しようとしたのではなく、あまりにも浅学であり、あまりにも無知であるため良心の苛責に耐えかね、「実力をつけなくては」という単純なことがその動機の大半を占めていたようなわけである。修士課程の試験は9月に行なわれ、受験科目は英独仏のうち2科目と、講座七科目のうち4科目選択ということになっている。講義としては、7講座の特論が各々Ⅰ、Ⅱと講座外の科目すなわち細菌学特論、有機化学特論、生化学特論、放射化学特論、化学療法剤学特論とゼミナール、課題研究の学科目が置かれ、二年間30単位以上取得すればよいことになっている。30単位にするには講座の科目2、講座外の科目3、とればよいが、ゼミナールと課題研究は必修であるのでもちろん含まれる。以上述べたような講義があるが課題研究が中心となり、特別実習の延長の様なものであるが当然のことながら、社会に出た人達と同様、自覚と責任感が力強く芽生えてくる点が大きな違いであろう。

以上2、3のことについて、紙面の許す限りごく表面的にふれてみた次第であるが、内容の詳細とか裏面的なことについては次回にゆだねることにしよう。お互いに意志の疏通をもっとはかるべきではないだろうか。

(大学院薬品製造)

後輩諸君へ

百瀬和享

これから御話することは特に教養の方々を知っていたきたい事柄を思い出すまま筆を走らせました。教養部の生活は歳月の去るのも早く、また学生生活を最もエンジョイする時期であります。ジャンをおぼえ、トリンケンをたしなみまた思わぬ方向に脱線し、あげくのはてはピーコン

薬物作用に於ける一展望

福島 英明

やむなきに至る頃、週一回の専門課程の講義が始まります。三年になれば場所も北四番丁に移り、八時開始の講義星が出なければ終らない実習と、連日デートの間もない忙しさをまたたく間に卒業式を迎えることになってしまいう様です。こんなわけで四年間もあつという間に過ぎ去ってしまいますが、この卒業後の方向について、はなはだ拙い先輩ではありますが、一言のべさせていただきます。卒業後はよほどのことがないかぎり就職か進学いたすことでしょう。就職となればどの会社にするか、どの研究所にするか、これは生涯にとって最も重要な岐路となりまたここで失敗したら、一生とりかえしのつかない結果を生み出すこととなります。結論を先に申し上げますが、私の考えでは有名会社へ入ったからといって必ずしも充実した生活が送れるかということです。どなたも一度は有名な会社大きな会社などいわゆる世間で評判の良い所に一度は興味を引かれるかもしれませんが、こんな所は飛び込むにははなはだ危険性を併います極端な事として最も悲惨な例を申し上げますと、私の知人に人物学問共に非常にすぐれた人が居りました。彼はそういう自分に自信があったのでしよう。そこでいわゆる超一流会社にコネも何もつかわず唯実力のみで入社した様です。もちろん彼は研究所志望でした。しかし彼のすぐれた才能はまったく無視され、毎日同じ仕事を続ける器械と化したのです。何故こんな仕事にありつかなければならなかったか皆様充分承知のことと思います。こんなわけで、就職というむずかしさは一昔の考え方からいうと全く異なる非常にぜいたくな考えではありますが、生涯を支配する問題でありますので実際に自分はどの職場にありつけるかを十分に握ってから入社を望む心がけたいものです。と申しますのは現在は希望する会社に余程の事情がない限りほとんど就職出来る様です。

就職される方々は薬学という性質の学問を修める上には何か特技というべきものを、しっかり身につけることが大切です。これは四年の後半に特別実習がありますので、そこで身につけることができるでしょう。同期生で抗生物質に非常に詳しい人が居りました。事実彼は川内時代から抗生物質関係の仕事をしている研究室に足をはこび、また専門課程に入っても実習が終ってから毎夜遅くまで仕事をしました。こんなわけでもちろん彼は某製薬会社の抗生物質関係の研究室に入り、今では入社半年であります。欠くことのできない研究員となり将来も大いに期待されて居ります。彼は多分同期生中では最も恵まれた人でしょう。これから卒業される皆様は学生生活中に何か一つ特技とでも言うべきものを身につける様お願いします。その時は何の役にもたたず無駄だと思ってしまうでしょうが、教授が良く「自分でやったことでそのときはつまらない様なことでも、将来必ず役に立つ」と口ぐせの様にして居ります。

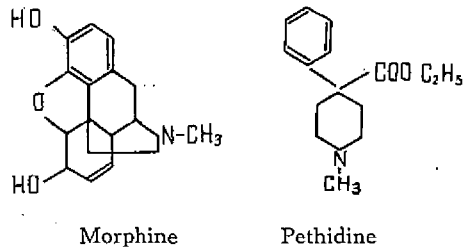
(大学院衛生化学)

× × ×

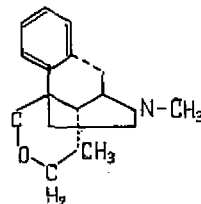
薬の作用に関して「構造の似たものは作用も似ている」ということが成り立つ反面、「構造が少し異なると全く逆の作用が現われる」という場合も多く知られている。特に強い抗菌作用を有する Sulfa 剤が、細菌の必須代謝物質である PABA (P-Amino benzoi acid) と構造が類似し、その作用を阻害することにより抗菌作用を現わすのであるという考えが出てきて以来、その様な関係が多く薬物に於いても見い出され、又、有益な薬物も合成されている。例えば Vitamin K と Dicumarol の関係や、最近ではバルビタール中毒に特異的に拮抗する Bemegride 等である。

一方、薬物を key と見なし、「key and lock」との関係における「lock」としての薬物の receptor と言うものを生体内に仮定して、例えば上述の Sulfa 剤と PABA の場合、その receptor に於いて、互に拮抗すると言う考えが行われている。特に receptor としての研究が進んでいるのは、Ach (Acetylcholine) の receptor としての chE (cholineesterase) であり、最近特に発展のいちじるしい生化学的手法を用いてかなり深く研究され、その成果として現在、中毒事件が多くクローズアップされている。パラチオン等の農薬、有機リン製剤の解毒薬としての PAM が創製されている。

さらに Morphine と Pethidine を次の様に平面に並べ



ても、なぜ同じ強力な鎮痛作用を現わすか推定出来ないが、Pethidine の構造を次の様に書き改めると、かなりの類似性が見られる。



この様な関係は女性ホルモンの Estradiol と Stilbestol

との間でも見出されている。又最近では鎮痛剤の立体構造より、鎮痛作用に対する立体的な receptor も仮定されている。これに関して Morphine の l-体の方が d-体よりも効力が数倍強いという報告も現われている。この様な事実は l-Ephedrine が d-体より、かなり効力が強いという様に多くの例が知られている。

以上、述べてきた様に、構造と活性の相互関係ということが、薬学の中の薬理学としての薬品作用学に於いて強く打ち出されている以上、構造上よりの類似化合物が合成され、より効果のある薬物の発見に力がそそがれるであろうか、今後特に立体的な面からの追求が強くなされるであろうと思われる。従って、ただ単に平面的にのみ化学構造を理解するだけでなく、立体化学的にも考えてみる様にすれば、今後大いに役立つものと思う。

又、一応 receptor と酵素とは別のものと考えられているが、今後ますます酵素的な面よりの薬物の作用ということが研究されるであろうから、生化学的方面もよく勉強していれば大いに役立つと思う。

以上、薬品作用学教室に来て、今までにもっと勉強しておけばよかったと思ったことを記す。(大学院薬品作用)

佐久間 慧子

星のモラル ニーチェ

星の軌道に予定されたお前には、
星よ、暗黒は何かかわりがあるか。

この時劫を貫いて、浄らかに進んでゆけ！
お前は時の不幸を離れ、遠くあらねばならぬ！

最も遙かなる世界に、お前の輝きはある。
同情は、お前に対する罪であるはずだ！

ただひとつの命令がお前には当嵌る、純粋であれと！

雑 感

右 近 左 吉

ポーリングが蛋白質の α -ヘリックス構造を考えついたのは生化学者とのコーヒーを飲み乍らの談笑からだと言ふ。これ程でなくても、例えばダーウィンが「種の起源」の構想を得たのはマルサスの「人口論」に負うところがあったと彼自身述べている。このように他人の示唆から、自己の思想なりアイデアを育てて大きな仕事に完成するには、それなりの学識や努力あるいは才能がなくては出来ないにしても大きな推進力を与えてくれる事は確かである。かつて、高名のS教授が「専門のことだけにしか関心のない専門家は偉大な専門家にはなりにくのではないか。素人の発言に耳を傾けられないようだったら、その専門家の頭脳は弾力を失っている。」と言う意味のことを述べられたが、これも自分の専門をより深くより客観的ならしめるためにはやはり人とのフランクな意見のやりとりの必要性を説かれたものと思う。いたずらに他人の批判を恐れたり、また秘密主義に陥いるのはその人個人の領域を狭めるばかりでなく、大きく言えば学問へブレーキを与えるような結果となる。

不可解なるものそれは人間である

妻 神 恵美子

人間の生命は永遠に流れる時の一瞬にすぎない。その短い生命を延ばす医薬療法の発見と、その生命を縮める核兵器の製作が人間自身によって同時に行われている。何という矛盾！

画期的改良がなされた

☆ Toyo 新製品 ☆

角型重量式フラクションコレクター

記録型濾紙光電濃度計

遠心ペーパークロマトグラフィー

マグネチックスターラー

【新 版 型 録 進 呈】

東洋科学(株) 仙台出張所

仙台市北二番丁 125

TEL ③3859 ⑥0926



“香り”

酒井 格 一

たった一輪の花、その芳香が私に潤を与え、心の栄養剤ともなってくれる。「香りなんて、別に何の役に立つものでもない」という人もいるけれど、しかし、香りを感じる喜びなんて、他の何ものからも得ることが出来ないのではないだろうか？。下宿住いの誰れも尋ねて来ない部屋に香りのいい花を置いたりしているのは、来客用に、応接間へ花を飾ったりするのはちがって、人のことじゃない。まず自分がそれによって喜びを感じたり、いい気持ちになりたい、というのが本当のところであろう。さらに香水をつけるのも、人にいい匂いだと思わせ様というより自分の好みの香りが、目のさめている間、自分の身の囲りにありたいという状態からだと思う。

普通、良い“香り”をつけるものと言えば、まず香水が挙げられるが、この香水というものは子供は別として成人は動物の生殖腺から分泌された香り、又はこれに近似の匂い立ちのする香りのものを好むようだ。私はよく女性に香水の好みを尋ねる事がありますが、必ずず思い思いに white Rose とか violet だとか、或いは Bonquet だとか花、或いは花束の名を挙げて性的な“香り”など嫌いです。と答えるのが普通ですが、しかし、考えて見ると本当に彼女等はバラの匂いや、スマイレの匂いを知っているのかと疑いたくなって来るのです。と言うのは、彼女等はそれ等の香水の中に配合された Amber (マッコウ鯨の病的産物)とか Musk(ジャコウ鹿の牡の分泌物)とか civet (シベット猫の分泌物)とか castoreum (海狸の肝門と生殖器の間にある小囊を乾燥させたもの)の性的な匂いに引きつけられているわけだからです。もっとも普通の店で売っている安物の香水には、この様なものは使われず、例えば、バラの時はゲラニオール、ロジノール、ジャスミンの時は酢酸ベンジル、スマイレの時のヨノーン、鈴蘭の時のヒドロキシシロネラール等という合成香料を用いているわけで、これらのものは動物性のものより“香り”は良くなく、いわゆる安物の“香り”がします。

ところで、この香水は、その持っているニオイから特有の雰囲気をかもし出すことが出来るもので、今、流行のムード、それを作るために欠かせないものであります。それ故使用方法の如何によってはムードに弱い人間(女性もそうでしょうが、ここでは男性)を誘引するのに役立つらしいのです。私の友達であるM君なんか、その一人で、彼は三度目の初恋に破れてから、すっかり女嫌いになってしまい、会うたびに、“女はウソつきだから、その言っている事の反対のことで信用出来ない”と口癖の様に言っ

たものだが、ついに四度目の初恋に落ちてしまった。なんでも彼は“彼女の持つムード、それに引きつけられたのさ。”と説明してくれたが、多分、その女性も“香り、というものを上手に使い、彼を陥落させてしまったのだろう。

それなら、ことは簡単、誰れでも香りの良い化粧品を頭から振りかければ良いだろう。と言うヤツがいるかもしれないが、ちょっとまってくれ、香りというものは科学であると共に一つの芸術であり、絵画や、音楽と比べ得べき芸術の一つであることを忘れてはいけない。上手に自分の持味とハーモニーさせる事が大切で、もしそれが出来ないと“なんとヤボな人だろう。”と言われ、いかに美人であろうと、価値は半減し、強いては教養まで疑がわれますから御注意のほどを……。

さて、話しは少し変わりますが、普通、女の人を訪問する時、男はよく花を持って行きますけれど、これは何か別のもを持って行くより香りのある花のほうが、真情のあるやり方、心に何か訴えるもののある人、といった感じを相手に与えるためでしょう。口に出して言えない心の思い、言葉で表現出来ない微妙な感情、それを“香り”で相手に訴えることが出来るのですから、なるほど“香り”とは便利なものですね。

しかし、化学を学ぶ者、薬学を学ぶ者として、この“香り”も少し注意して嗅いで見ると同じ芳香を放つ花も、時として、同じ“香り”とは感じられないことがあります。勿論、普通の健康状態の時と、病気の時とは香りが少し異って感じられますが、ちょっと言葉で表現し難いのですが、ともかく病気になるると嗅覚が鋭敏になる様に思われます。今、遠例を上げることが出来ませんが、例えば普通健康人がなんとも感じないソーセージとかカニの料理に対してこれは少し古いと判定を下す時は、病気のひどい時であり、実際にリトマス試験紙をごく微かに青変させるアルカリ側の匂いを健康人は微酸性の料理の匂いと区別出来ないのを発見して思わず自然の妙に驚ろかされるのです。

この様に考えて来ると“香り”、(香料)は各種の化粧品に着香や、酒薬品の矯味、矯臭のため感香されることは現在行なわれているけれども、今後、きつと、病気の早期発見に対する香りの好みの変化の調査、或いは、ノイローゼ精神病の治療、ストレス除去、等の目的のため香料が積極的役割を果す時代が来るかも知れないと思います。

(大学院薬剤)



分子生物学に期待するもの

山本紀一

20世紀後半は生命現象解明の時代と言われるが、最近よく耳にする『分子生物学』の登場こそは真に象徴的である。この名前は実際には古くから使われていたらしいが、最近この名前を一般的にしたものは、1959年の Journal of Molecular Biology (E, Academic Press.) の発刊に続いて、昨年他界した蛋白質化学の権威 Kurt Felix 教授が名付け親となった A Cymposium on Molecular Biology (A, Chicago univ. press.) で、彼はこの本の中で分子生物学を「分子のレベルで、生命現象を支配する基本法則を解明する学問。」として定義した。彼は又「近代的生化学の発展によって、生命に関する多くの化学的過程が明らかになったが、その一番重要な成果の一つは、動物、植物、細菌、ウイルスの間の混沌とした差異が分子レベルでは消失してしまい、生命に関する統一の見解を可能にした点である。」と言ひ、又「間もなく心理学者や哲学者までも参加して思考や記憶の問題を、神経組織の分子とか化学反応とかの言葉で考察する様になるだろう。」とも述べている。

実際、今までの科学はあまりにも非生物的でありすぎた。それらは抽象的であり、しかも数学的言葉で簡単明瞭に、しかも優雅に説明出来る概念がある。同時にそれは、幾何学的な調和を併っている。これに反して「生き物」に関する科学は一向に進歩しなかった。生き物は簡単な概念で言い表すことは出来ない。生物全体を、又部分部分として、更に環境との種々の関係に於て、同時に理解する方法と言うものを我々は持ち合わせていない。それには種々の科学が必要である。ありとあらゆる方法が用いられねばならぬ。しかもそれらの科学の一つ一つは、各々その方法

に制限された範囲のものしか知る事が出来ない。如何に生理学や生化学が発達したところで、それらは依然、生理学であり生化学でしかなく、真に生き物を知る事にはなり得ない。生命現象の基本的理解を目指す場合はなおさらのことである。ところが、この生命現象の基本的理解を、分子のレベルまで引き下げた分子生物学こそは、分子と言う一線上に、生理学者、組織学者、生物学者、生化学者、物理学者らが互に相まみえ、我々の祖先が最も苦手とした生命現象の解明に、急速に肉迫しつつある。特に、遺伝や自己増殖の担い手である核酸の研究は、分子生物学の突破口となったばかりでなく、その後の爆発的發展を促した。我が国に昨年発足した、分子生物学研究グループ(現在、京大ウィルス研と名大理学部生物学教室にその中心がある。)も、当処の目的として、重要でかつ早急に成果の規待出来る。遺伝、増殖現象の研究を、その活動方針と為している。この外に分子生物学の問題として、筋肉の分子構造とその機能、神経制御、エネルギー転換、蛋白質の問題等がある。蛋白質は常識的には生命体に重要であるが、その生物学的意義は、酵素との説もあるが今だに明らかでなく、核酸に比して遙かに未知の分野である。又臨床医学に於ても分子レベルで疾病をみる立場から Molecular Disease が取上げられ、ウィルスや癌、免疫問題の有力な手段になりつつある。更に、いづれの日にか、Felix 教授の予言通り、思考、意識、記憶を含めた神経生理の秘密があばかれる日こそ、人類が人間を知るときであり、人類が人間を支配できる日、となるであろう。

過去に於いて、人間はまづ第一に、生きなければならなかった。加うるに、人間は元来簡単なものを好む。あらゆる複雑な現象を数学的に体系づけようとする傾向が、天文学を始めとして物理学や化学を素晴しく発展させたが、人々は返ってその見事な進歩に魅惑されて、如何に生命現象が宇宙の運行のように正確でかつ遙かに不可能な法則に従

御通学は

スマートな背広で

学生様割引

東北大学指定

大丸服装店

仙台市東一番丁 東北大学正間前

TEL ③ 3365

株式会社 徳田製作所
倉田高級耐火物製造所 } 代理店
五福電機工業株式会社
シリユニット高熱工業株式会社

柴田化学器械工業株式会社特約店

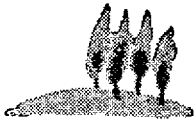
理化学器械・磁製耐火物及
石英製品・分析用硝子器具

有限
会社

星理化学器械店

仙台市肴町73番地

電話 (2) 6822番
(3) 4523番



亡友

柳瀬良文

- あのむし暑い屋下り
川の水はうす青くよどんで
一瞬にして君の生を奪った
黄昏の田舎道を黒い車が帰って行く
自動車はきしみ、ふるえ
皆んなの目には異様な光がある
- 片頬にシニカルな微笑をうかべ
あまりにも素直な君ではある
あの潑刺とした精神は
強靱な力は一体どうしたというのだろうか
過去を想わず明日を知らない
唯、現実の一点を凝視する
君は本当に逝ったのだろうか？
いったのだ
いってしまったのだ
- この一葉の写真を見ると
君元気に頼しそうで
道端に腰を下して絵を書いている
向こうの方に川が流れ、街がかすんでいる
君の手許をのぞき込む人達もいる
こんな時どんなに楽しいことだったろうか
それなのに
今、君は亡く
冷い風丈が吹いている
- 静かな夜である
かすかに虫の音がする
語り合った健気な友がいないのだ
短かかった友の生命を思うとき
何か寂しく、鬼気せまり
深夜に遠吠えする声がひびく

(大学院薬品製造)

うものであるかと言うことを見逃していた。しかも、その間に物質の科学は恐るべき近代文明を創りあげてしまった。生命と言うことを知らない人間の頭で創り出された文明—それは人間が創った文明でありながら、人間の体力にも精神にも適していない。科学は、何らの計画無しに、天才の精神や好奇心の赴くままに発達し、常に「最小の費用と最大の生産」と「最小の労力と最大の効果」と言う原則に基づいてのみつくして来た。現在、環境の大革命は我々に非常に深い影響を与えている。最早、我々は、その進歩について行くことは出来ないし、正しい操作も出来ず、絶えず愚かな行為をくり返し、その文明が進めば進む程、退化して行く。この近代文明の敗残者、廢人の出てくるのをくい止めるには、今や、生命現象を正しく理解すること以外に道はない。近代文明が、自然的なものを一掃してしまった今日では、あらゆる科学の中で最も必要なものが、生命の科学—即ち分子生物学であると言っても決して過言ではないだろう。

「生命に関する無知が人間の知識の特徴である」と言うベルグソンの言葉は、急速に塗り変えられつつある。又塗り変えるように努力することが、我々20世紀後半の人類に

課せられた最大の課題なのではないだろうか？。

(4年薬品作用)



ヒマン症

東京都文京区向岡弥生町三
石原製薬株式会社

ビスラットは、
甲状腺ホルモン、ヨードア
ミノ酸をはじめ新陳代謝に
必要な5つのビタミン、肝
臓薬等全部で12種類の薬効
をもつヒマン症の総合治療
薬です。

京田守弘君の死後に思うこと

草野源次郎

人間の行動や社会のできごとは、水面にあらわれる波のようなものだ。その下にうずまく底流があり、地勢がある。ためにその波にはある種の特徴がある。海や河のその習性を知るのは案外簡単であるが、人間の行動や社会のできごとをみて、その習性を見抜くことは難かしい。しかしそれを見抜き、地勢なり底流なりを知ろうとする努力は、常に払われなければならない。

5月2日の朝京田君が血相を変えて教室に入って来た。今日教授会がある。その席で第二期工事完了後の教室配分が最終決定される。しかも今の今まで新校舎に入れると思っていたのに、生薬は医学科の校舎に残ることになる。という。そんなばかならんと本当にそうだ。4月12日の教授会で内定され、今日が最終決定だという。4月12日なら竹本教授は九州へ学会で行っていたときだ。その席でそんな話が出るなんていう非常識が通用するわけないじゃないかと思ったが、事実はそうで、打つ手は一つ、竹本教授に談判することになった。先生はいわれた。医科の校舎は水の出がわるい。火も危い。しかし水はポンプを仕付ければよくなる。残ることにしよう。生薬が残れば、他の教授達もそれに感謝し、ポンプを仕付ける位のこと、一番先にやってくれるよ。このとき京田君は即座に先生の観方に反対した。ポンプ優先という証文をとるんですか。そうでもない限り、既成事実をつくられて、前の口約束などは反古にされます。証文をとらないのでしたら、新校舎は絶対に譲らないで下さい。彼のその反論を聞きながら、僕はそうまでしなくともと思うと同時に、彼が前に何かこれと類似のことで打撃を受けたのだからかと考えた。

彼は生薬学を専攻したが、生化学に魅力を感じていた。生薬学専攻にふみきった去年9月は、とるものが手につかずといった感じだった。あんなに行き詰ってしまった彼を見たことがなかった。彼は夏休み中にいろいろの人に会ってアドバイスを受け、自分の進路について考え、決定した直後だったためあって打撃は大きかった。話は特別実習の教室配分のときまで逆のぼる。第一回の志望調査では生薬がなく薬工19人という具合だった。その調整は難行したが、教授会からの次のごとき意向によりこの片寄は幾分是正された。すなわち、就職は特別実習で選んだ教室には関係しない。大学院の特別実習とは関係しない。別の方がむしろ好ましい。京田君は生薬を選んだ。ところが夏休みを終えて来ると大学院と特別実習とは関係しないということは反古になっていた。彼の希望していた教室はほぼ内定という事実に出逢った。彼はいろいろやってみたが、前

の約束は反古となり、既成事実には勝てなかった。生薬をやりながら、生化学もやるというところに希望を見出し、立直った。しかし、このことは世の中の運行を支配するのは、それまでの既成事実で、そのために約束ごとなんかどれほど反古にされていくんだということを身にしみて感じさせられるだろう。それがあの彼にしては別人のような断固とした反論を生んだのだろう。

しかし全体の秩序とは無関係なばらばらの既成事実によって運行されていく社会は低級だ。各人がひねこびれた妥協からではなく、彼の意に従ってなす行為が全体の秩序とその発展に役立っていく社会が理想だ。それまでいくには各人の誠意と意志の交流とが大切だ。京田君が大学院生のゼミを考えたのもそこにあった。その彼は今いない。彼が生前、神経質すぎると思える程憤慨したことの一つは、全体の問題として誠意をもって解決すべきときに、わしは知らんかといって傍観者の立場に立ってしまう生き方に対してだった。そしてその卑劣な生き方を見抜けない社会は対し歯がゆく思っていた。その生き方の犠牲者になりつぱなしのまま彼は死んでしまった。

「自分が一番大切だ」ということはよくいわれる。いう人によってニュアンスはあるが、僕は次の如く解釈する。最後に頼れるのは自分だけなのだから、他人にかまわず、自分の生活第一にして生活設計を立てなければならない。更に、生存競争の激しい現代である。他人にかまわず、先んじて他人を制さなければならない。しかしこういった考えが一般化していくのは、現代社会に我々を支える強烈な念がないこと、更に各人が現代社会の枠を越えて考えようとしなないことによるものと思う。念いとはわれわれに真の生き甲斐を感じさせるものだ。われわれはその念に従って生きるとき充実感に満される。ところが現代は小市民的な安易な念いが氾濫している。そしてそこから生れる空虚さはスポーツや娯楽を耽溺することによってごまかしている。また「他人を押しのかけても自分だけは」という考えは人間の本能でなく社会環境によってつくられたものであることは社会学的に証明されている。節度が身につくことが前提だが、必要なものがすべて与えられ、社会の発展と幸福に役立つ行為が最上のものと評価され、各人が自分の才能をのばすことにのみ熱中していればよい社会、そういう理想境がくれば、誰も自分が一番大切だなどという自己護身に窮々することはないだろう。

われわれは今講座制の枠の中でくらししている。それはよいものも持っているが、自己護身と結びつく手のつけられないものになる。新しい社会を開拓する意欲がなくなると、またその自信がなくなると、更には講座制の枠の内でもうまく立ちまわり、それを利用した方がよいという計算が成立すると、悲しい生活設計ができ上ってくる。セクト主義、不誠意、正義感の喪失、掛引き等がそれである。映画「武器なき闘い」を観ては、またある人に接してその感動

から二晩も三晩も眠れなかったといっていた京田君が反抗せずにはいらなかったのは、このような社会に対してであった。今こそ、われわれは講座制の構造を分析し、その欠点を知り、それに陥らないように用心しなければならない。そのためには、一見つまらないように見えるできごとでも、見落さずに注意して、それがあきてくる背景を考えなければならない。その努力を続けていくことの大小にまどわされず、根の深いものと浅いものとを直感的に見分けることができるようになる。現象に圧倒されずに、底流を知り、おもしろくない底流はなくさなければならない。すべての人が生かされ、気持よく働けることにしたいものである。

(大学院生薬)

仙台の友に 高石勝夫

A君一

お手紙ありがとう。相変らずの奮闘振り目に見える様です。さて、たまにはお前の苦勞話や会社へ入った感想など書いて寄こせとのことですが、営業部に属して、いわゆるブローカー稼業を始めてから5ヶ月目、まだ西も東もわからずの毎日ですので、近況をお知らせして返事に代えたいと思います。東京に居る連中は機会あるごとに集まって居ますが、夫々の会社の特徴が出ている様ですね。しかし研究室に入っている連中が多く、純粹に営業に居るのはボクぐらいでしょうか？ところで営業たるものの正体を掴むには至っていませんが、病院回りを通して種々の人々と面会して話をしなければならず仲々むずかしいことですね。特に医師が社会的にもまた学問的にもかなり高い水準にある人々なので尚更です。そこで医師と話をするにはまず知識が必要であるとされ、薬の知識は勿論のこと苦手のドイツ語から医学用語解説などまで、会社の先輩の話では学生時代

の何倍もの勉強が要求されるということです。そして話術の巧みさは先天的要素もさることながら、多くはその知識に裏付けされるものだと思います。従って先天的要素にも余り恵まれていなさそうなボクなどはさしずめ、まず勉強ということになるのですがそれが、相変らずなんです。「営業部での勉強ってどんな事だい」って君はきっと尋ねるにちがひありません。まあ会社での勉強の一端でもお話ししましょうか。それについても思い出されるのは京田君の死です。というのは彼の死の原因が副腎の萎縮に基くショック死であったというからです。ちょうどその頃（現在もですが）ボクは副腎皮質ホルモンについて教育されていました。君も既に御承知の様に副腎皮質ホルモン（時にこの場合グルココルチコイド）には15種の薬理作用があり、生命維持作用、抗ショック作用、抗アレルギー作用、抗炎症作用は特に薬としても利用される作用なのです。副腎が萎縮しているということは副腎機能の低下即ち副腎皮質ホルモンの分泌も悪かったのでしょうか。従ってストレスに対しての対抗、防禦力が弱かったのではないのでしょうか。そしてこんなことも生前には全然自覚症状もなかったのですから皮肉です。もっとも副腎皮質機能検査には副腎皮質の分泌するグルココルチコイドの好酸球減少作用を利用した Thorn's test という方法もあるにはあるのですが、健康人ではやらないのが普通なのでしょうね。こんな風に副腎皮質ホルモンの初級から教育され、知識は拡大されるのです。今ここに全部にふれることは出来ませんが、機会がありましたらお話ししたいと思います。

入社してまだ半年、苦勞話といわれてもお話するほどのものはないし、たまに行われる試験が頭痛のタネです。などいったらお笑いでしょう。そんなこんなでまだお話する様な話は持合せていないというのが現状なのです。不悪、健康を祈ります。
(塩野義製薬株式会社営業部)

Seherimes

日独薬品

肝炎・胆嚢炎・胆道炎
胆石症・黄疸・消化不良に

フェリカール

20球 ¥350・50球 ¥700・250球 ¥2,800



特別実習に入って5ヶ月近くなる。実験が日毎に忙しくなり面白味を増してくるのは愉快なことではあるが反面、自分の生活が妙に単調に思われて非常に淋しく思う時がある。あの教養部時代のように自由に好きなことを考え、実行し、読み度い本を読むことが最近ずい分少なくなってしまった。思想問題に至っては一時のマルクスかぶれが懐しく思われる位、小市民的な考え方をするようになってきて時折、他学部の中と議論を戦わす時、自分の思考の浅薄さに情なさを感じる時がある。

勿論、人より多くの知識があるからとか、人より多く本を読んでいるからといって、その人間の人格が高いということはいえないが、人格を形成する一段階にある自分にはあらゆる方面から知識を吸収し、がむしゃらにさまざまな話題について考え討論しあうことこそ今後の人生に於いてプラスするものと思っている。朝から晩まで実験生活をくりかえしていると何か化学のことしか考えていない様に思われて、ややもすると自分が学生であることすら忘れてしまうような錯覚におちるときがある。世の中の事象に対して傍観的な態度を取るのには実にやさしく又楽なことではあるが、再び又自分がそれに対して何らかの些細な手を打つ時がくるだろうと思ひながら毎日コルペンを振り回しているのである。

☆ ☆

『アミコス』のような雑誌があるから俺のようなものにも何か一筆書いてくれと頼みがくる。人に原稿を依頼する時にはわからない悩みが、この時初めて身にしみて感じられる。友の母が亡くなられた時、可哀相だ。さぞつらかるうとは思っても身に迫った仕事に追われたときは、一時な

りとも他人事として忘れていられる。しかし自分の母親が大病を患い医者より余命いくばくもないと宣告されて、初めて友の苦しさ、辛さ、というものが腹わたに込みわたってくる。そして自分の体験を通して初めて、友がその苦しみを脱却し新たなる目標に向かって邁進しようと努力しているのを見るにつけ、その心根というものが傍から見ると程平凡なことではないということに気付くのである。他人事としておこったあらゆる事象を自分のものとして把握することはできるようで仲々できない。自分がその事象の中心にまきこまれて初めてそのことの重大性が認識できるのである。そしてこんな簡単なことが日頃わかっているようでわからないというのが現実なのではあるまいか。

他人の身になって物事を考えそれを実行することはたしかに崇高な行為である。しかし自分がそれをまだ為し得ていない現在ではそのことをまだ実感として把握することができない。凡人の凡人たるゆえんなのであろう。

☆ ☆

学生生活もあと数ヶ月、長い人生の殆りにもあたるこの学生生活を終わろうとする今は新しいこれからの生活を知らないだけに感慨も又ひとしおである。同じ教室をでた先輩が学会その他の用で時々教室に見えられて「学生生活はよかった。大いにやり度いことをやっておけ」といわれても、そういうものなのかと思う位でこれといっ手を打とうとしない。そのくせ自分が社会に入って後輩にあった時まずいう言葉は「やり度いこともやれず残念だった。君は大いにやっておき給え」なのであろうと思う

わかっていながら十二分に力を尽していないのは一体何に起因するのか。中途半端な思索に迷って手がでないためなのか。或いは物の見方の転換期にきているためなのか。

☆ ☆

人からいわれなくても悔のない学生生活を送れる人もあれば、そうでない人もいる。これが世の中の合理性というものとなればおかしなものである。(4年 薬化学)

理化学機械器具

各種顕微鏡販売

西 商 会

仙台市霊屋丁79
電話 (2)0395番

若 林 薬 局

本店 荒町小学校向い
TEL ㊤ 3233
支店 東一広瀬通り角
TEL ㊤ 6035

工場実習をやって

庄 司 堅 次 郎

来春、化学工業会社である新日本窒素に入社することになり、会社側が夏休みの2~3週間、就職内定者を対称に工場実習を催すことになったので早速私も参加を申し込んだ。7月20日より8月5日迄熊本県の水俣工場がその実習地となった。この工場は、硫酸、塩化ビニール、DOP、酢酸、カーバイド etc、種々の有機無機薬品を製産し、従業員3,500人を要するこの会社の主力工場である。

薬学出身者は製薬会社へという固定したコースに広い意味で疑問をいだいていたし、かねがね私は化学工業の「現場」という所に一種の魅力を感じていたので、好機到来とばかり喜んで行くことにした。

全国15の大学から集まった学生が28名、北は北海道大学から南は鹿児島大学に至るまでそのにぎやかなこといったらならない。そのうち、60%が工学部の化学系、20%が理学部の化学、残りが農芸化学、機械、電気、文理学部などの出身でもちろん薬学は私の外はいない。

工場のおえら方の訓辞があつて第一日目は終り（つまらないし、ねむい）

第二日目は、広い工場を引っぱりまわされて現場の見学（熱くてまいった）

第三日目より各自専門により3.4名が一グループとなつて各種のテーマにわかれて実習に入った。

私達（協同実験者は千葉、京都、熊本大学から出た三君であった）のテーマは『酢酸低沸分中における各成分の定性ならびに定量』という機器分析をやることになった。

ガスクロ、ポドビル、赤外、紫外等の機器を駆使しカルフィットシャー法による水分の定量、滴定による酢酸の定量

を行い不純物として6種の有機物を定性定量し得た。このサンプルは同工場で製産している酢酸の廃液であつた。

私達は頭と腕が良かったせいか、第一番目に1週間でその含有率を算出することが出来、後の1週間はのんびり工場を見学したり、昼寝したり図書館で卒論の勉強をすることになった。

私は丁度薬化の特別実習で誘導体を作つての有機分析をやつたばかりであつたし、今度は機器分析と思つたまま機械をいじらせてもらったので、大いに有機分析に関してためになった。

日本の最南端の化学工場の一つであるのに以外に東北大学出身者が多いのに驚いた。技術部長、同次長、可塑剤課長、カーバイド課長と主脳陣に新しい先輩を加えて10数名がおられたことは非常に心強いものを感じた。その大先輩達が我々（来年度は応化、理化、農化、薬学の4人が内定者）のために歓迎会を開いてくれ、親しく談笑することが出来たし、その後工場内でもなにかと面倒をみていただいた。

ある先輩は化学工業は自転車の様なものでたえず新しいことをやって動いていないと倒れるものだといつておられた。或時は損を承知で企業する場合があつたりするし、たえず他の会社の企業に注意しすばやくキャッチしたらその会社を出し抜いて、製品を市場により早くより安く送らねば会社がなり立たない。まさに戦国時代の感じがした。

外国から苦心してパテントを買い、プラントを輸入しても完成しない内にそれより良い方法が発見されるというほど技術革新の波は荒い。

今までの化学工業は一品目を何万トン製造し商売したけれどこれからは小刻に百トン単位で経営の多画化をはかるという傾向にあるそうだ。そこに我々の様な有機化学に堪能な者(?)が活躍できる時代がやってきたと言えると思う

耐性ブドウ球菌に！

米国メルク社提携

CATHOMYCIN

※キャソマイシン
CAPSULES

基準名結晶ノボピオツンナトリウムカプセル

適 応 性

葡萄球菌感染症：敗血症、髄膜炎（脳膜炎）、心内膜炎、産褥熱、化膿性腎盂炎、蜂巣織炎、よう（カルブンケル）、疔（フルンケル）、乳腺炎、耳下腺炎、肺膿瘍、膿胸、脳膿瘍、乳癌突起炎、中耳炎、化膿性関節炎、膿癬疹、皮膚感染症、眼化膿症等。
変形菌による尿路感染症：尿道炎、膀胱炎、腎盂炎等。

Meiji

明治製薬株式会社

或時図書館で昼寝をしていたら、先輩がやってきて自分の作った工場を見せるから一緒にこないかとさそわれた。縦横に走っているパイプをくぐる様にして重合タンクや真空蒸留塔、精溜塔を登ったり、降りたりした。先輩はほこらしげにこの工場は始め 2 億 500 万円の予算だったのを 2 億万で完成させ、8 ヶ月の建設期間を 5 ヶ月で仕上げた。そして従来 30 名の従業員が必要だったのをオートメ化して 3 名で間に合う。それもただメーターを見ているだけだと説明してくれた。さらに「君がこの水俣工場にきてくれたらこの工場で働かろう」という現場につれていってもらった。その工場もその先輩が作ったものであった。ケテンと水から酢酸をつくる所であるが、優に 30m はあろう大きな精溜塔が 2 本立っていた。アセトン熱分解する釜も三疊敷位の部屋位はあった。すべてがおどろくばかりに大きいので原理は我々が実験室で組む装置と同じであっても、ややもするとまったく別の現象の様な錯覚におちいった。

「君が来たら新しい誘導体を作ることになるから、化学工学は常識として知っておくべきだ。月産百トンも作ればどんなものでも売れるから安心だ」とあっさり言われたのには又驚ろいた。

自分の頭で考えた反応が自分の腕で作った工場で製造しえたらどんなにすばらしいことだろう。真に男子の本懐だ

思うことなど

今江真理

懸念されていた女子の就職が、秋迄にほとんど内定したことは、毎年例から推して暮から来春にかけてとの見方が強かっただけに嬉しいことである。思い返してみても、この一年程「女であること」を痛感したことはおそらくなかった様に思う。「おめでとう」と言う同じ言葉の中に、男の人にあげせる底ぬけに明るいひびきとは一寸違った、お互にいたわりあう何かがこめられているのを感じる。

同じ教育過程を同じ様にやってきながら結果的にむかえられたものは差別された求人と待遇であったことに直面して、改めて自分の立場を考えざるを得ない。大学に入ること自体が、いわゆる女の生き方から言って相当のハンディとなることは予想してのことだっただけに、その道を選んだからには、実験、教室活動を含む全てに対して誠実で真剣であろうとすることに於いて、女である前に一個の学生でありたいとした。白衣を着た時には、甘やかされようとは決して思わないかわり、割り切った対等な見方以外のもが入ってほしくなかった。けれども一方、どこまでもそれが通用することではないと言う考えも同時に持っていたと言ったら矛盾になるだろうか。求人対象からはずされ、受験資格すら与えられない事実と直面したときはじめ

ろうとその先輩が一瞬神様の様にも思われた。

「彼も人の子、我も人の子」と私は自分自身にその時言いきかせた。

去年入社した東大薬学出身の方と話しする機会があった。彼は衛生学教室で農薬を卒論のテーマにした人で奥井先生や、内山先生とは同じ教室だったと語っておられた。現在は猫を使って水俣病の研究をやっておられるがその内に合成の方に移るらしい。

「薬学出身で化学工業をやっていますか」ときいた所「応化とか薬科とかは単なるレッテルであって、その気になれば何でもやれるし、入ってから勉強しても充分間に合う。島遠いの人でも一年もすると、その工場ではなくてならない人物になっているから出身にこだわることは全くない」と強気に語っておられた。そして、

「薬学出身者もどしどし化学工業にとびこんで、その持味を生すべきだ」ともいわれた。

我々薬学生は常にミクロの物を取り扱っているせい気持までミクロになっている傾向にあるのは何としても残念なことだと思う。

今の世はアイデアの時代だと言われる。我々も薬学という地盤のアイデアを持って方々に勇飛しようじやないか。

(4年 薬化学)

に感じられた忿懣は、一歩はなれて客観性をとりもどしてみると、いかにも空虚で持っていく所のないものであるかにやがて気づくのである。

卒業後の仕事なり研究に対して自分がどれだけの心がまえをもってあたろうとしているか問うてみる。よしんばそれには何か答えられたとしても、はたしてどれだけの持続性を確信できるかに至ってはあいまいにならざるを得ない。本質的なことをぬきにして、このことだけを考えてすら、余りに露骨ともみえる現実を冷静に受け入れなければならない。それでもなお割り切れないものが残るとしてもそれは別な問題にもどっていくと思う。

屋上に出ると雨にうたれたあとの石だたみがひんやりとして実に気がいい。つい先頃迄はそうとも思わなかった周囲の景色が、何かひどく美しい、大切なものの様に感じられる。そしてもうまもなくそれらは「懐しい」と言う言葉で思い出すことになるのだろう。

さまざまのことが、実にさまざまの形で過ぎていくことだ。白衣を着た時と脱いだときの切りかえのきく者でありたいとしながら、着ながらにして脱いでいたり、ともすれば白衣を着てばかり過ぎてしまった様である。

クラスの誰かが言ったことだが「その時々のことはその時々以外になし得なかったこととして考えたい」と私も思いたい。

(4年 薬作)

断片

薬物の心理的効果の問題をめぐって

高橋和年

いままでも犯罪心理学研究の途上で、多くの覚せい剤嗜癖者や麻薬の常用者などとの面接の機会があったが、それらの経験を通して、薬物の心理的効果というものは、それを使用する人間のパーソナリティや生活史の特質との関連を無視しては、具体的に捉ええないのではないかと考えるようになった。いま覚せい剤（化学名フェニール・イソプロピルメチルアミン）の場合を、過去に取り扱ったことのある二・三のケースをあげて述べてみよう。

K少年（昭和29年調査時19才）は、無力で積極性の乏しい弱い性格の持主で、かなり自己不確実、抑うつ的な傾向があり、対人関係においても従属的、同調的であった。彼と覚せい剤（ヒロポン）との最初の出あいは、昭和25年末当時朝鮮動乱によるいわゆる「金へんブーム」の影響で多忙を極めていた某古鉄商に住込み店員となった時である。古鉄商某は、仙台でかなり顔を売った復員者上りの遊び人で、正業のかたわら覚せい剤の密売をし、また多数不良の徒輩を集めてトバクを開帳していた。ここに住込み店員となったK少年にも、それまでに「金へん」を中心にした非行歴があり、そのために古鉄商某とも関係がついたのである。

さて「金へん」の買入れや整理で連日夜おそくまで作業をしていた彼に、某は「眠くならないクスリだ」といって覚せい剤をすすめた。おそらく、少年の正常な身体的限界を越えて労働を強化しようとする意図が某にあったのだろう。しかし、彼にとってヒロポンの効果はすばらしかった。目が冴えて眠くなくなり、抑うつ的な根本気分が吹き払われて爽快・発揚的となり、一種の世界変化感がおこりなんとなく自分の行動に自信が湧いてきて、その結果対人関係においてもずっと積極的に振舞えるようになった。要するに、彼の消極的、自己不確実、抑うつ的な性格が、薬物効果によって「補償」されたのである。このような補償的効果のため、彼は急速にヒロポン嗜癖に傾斜し、注射量も次第に殖えていった。かくして、覚せい剤によって造り出された「覚せいと緊張」のうちに、毎日深夜まで労働し、その後も眠くならないままに街を徘徊し、あるいは某方において連日開帳されるバクチを観戦したり、またときにはこれに参加するようになった。

しかし、昭和26年4月以降、朝鮮動乱による「金へん」ブームは頭打となり、間もなく相場が反落傾向に逆転するや、そのあおりを受けて古鉄商某はたちまち落目となり、その頃からかつては自ら少年にすすめた覚せい剤の使用を「度がすぎる」として制限しようとした。しかしすでに抜きがたい嗜癖の段階にまでヒロポンの常用が進んでいた少

年には、この制限は受け入れ難く、某の没落がはっきりしてきた5月には、少年の方から見切りをつけて飛び出してしまった。それから約2ヶ月、「ポンの谷間」のなかで、完全な浮浪生活が続く。夜は建築現場の空屋にゴロ寝し、昼はG Iの乗るリntaxのあと押しをしてポン代をかせいだ。当時進駐軍キャンプ附近の坂のたもとに屯して、リntaxのあと押しをし、G Iやリntax屋から、なにがしの駄賃にありつく浮浪者や小遣かせぎのチンピラの一団があった。少年はこの群に身を投じたのである。この仕事は彼にとって身体的にも精神的にも、かなりきついものであった。ただポンによって補償された状態においてのみ耐えることができたのだといってよい。

K少年がヒロポンを打ちながらリntaxのあと押しをしていた丁度その頃、彼の小学時代の同級生S少年は、ヒロポンを打ちつつリntaxのペダルを踏んでいた。

S少年（K少年と同年令）は、小学校時代から運動が得意で活発であり、よく人の意表に出ておどけることによつて級の人気をあつめ、積極的・行動的なガキ大将であった。K少年の消極的で弱く、孤独に流れやすいのと対照的である。S少年と覚せい剤との結びつきは、昭和24年の秋睡眠をギセイにして花札トバクにふけり出した頃にはじまる。小学校高学年から中学時代にかけての家財持出、窃盗などの非行歴をへて中学3年の秋、S少年は、非行を通じ顔なじみであった某の仲介で、G I相手のリntax屋をはじめた。やつと15才を迎えただけであったにも拘らず、すでに骨太く肉逞ましい彼は、よくこの重労働に堪えることができたのである。リntax商売は、たいてい正午にはじまり深夜におよぶ。その間進駐軍キャンプと市の盛場の間を重いG Iを乗せて往復し続ける。仕事は辛いが稼ぎは大きい。多い日は一日3,000円を越えた。仕事が辛いだけに一日の仕事を終えた時の解放感も強い。緊張解消は屋台店での「一杯」からはじまる。気の合ったリntax仲間と夜明近くまで飲み、飯を詰めこんで帰宅すればもう朝に近い。激時間の睡眠ののち、たいてい彼はリntax屋某宅に現われる。正午になってリntaxを動かしはじめるまでここでアソブためである。屋台酒と飯ぐらいでは一日の稼ぎは使いきれない。その金を使うためにでもある。アソビはきまって花札だった。重労働のあとで夜明まで飲み、少し眠って同じ日の午前数時間も「アソビなければならぬ」彼の生活が、彼を覚せい剤に強く結びつけた。「おむくならないクスリだ」といわれて、彼はそれにとびついていった。打ってみると「体がフワッと浮き上るようでよい感じだった」という。フェニール・イソプロピルメチルアミンのもたらす覚せい効果の一種の気分爽快をそう彼が表現したものと解される。覚せい剤のもう一つの彼にとっての重要な効果は、重いG Iを乗せてリntaxを走らせる際の充実した力の湧出感である。ペダルを踏み一步一步にグット力がこもる感じだ。このようにして彼は次第に

打っては稼ぎ、稼いで打つ危険な悪循環の中に入っていた。



覚せい剤にかぎらず、麻薬やアルコールのような薬物にあっても、それらへの嗜癖の問題は、心理学的にはなほだ興味深い。一人の人間が何故そのような薬物嗜癖に傾斜していくのであるか、またそれは人それぞれにどのような心理的効果をもつのであるか、それらを彼のパーソナリティや生活史の特質と関連させて捉え意味づけていくとき、心理学の新しい問題領域が開ける。そしてそのような領域は、今日ほとんど未開拓なのである。

(教養部心理学講師)

医学祭に参加するにあたって

畑	中	千	年
飯	塚	義	夫
津	田	宣	直

来年度、即ち昭和37年度の最大の行事はなんといっても3年毎に開かれる医学祭であろう。

我が薬学科も創設以来2度目の参加を迎えるわけである。初参加の時は、第1回生が3年に進学したそうそう、専門的知識も持たず校舎もない、設備もない、人もいないという全くのなないすくしの状態でそれこそ「無から有を生ず」という哲学的言葉を地で行くような状況のもとかくも盛大に実施したという態度とファイトには第2回目を担当する我々としては大いに学び、見習い、今後への試練としたいものである。それにひきかえ現在の我々は、当時なんかとは比すべきもなく、あらゆる点に於て恵まれており、そういう点からも是非単に失敗の対立語としての成功でなくもっと広い意味での成功を期待し、信じたものである。

経験のない我々が医学祭を準備、運営していくにあたって、第一に問題となるのは、当事者である我々学生に参加態度である。即ち我々は、自己を如何に積極的に医学祭に参加させるかということである。終日、実験に勉学に忙がしい日々を送っており、私的仕事だけで沢山だといいたくなる。しかし我々が、学問の追求を基盤としている大学という小社会において勿論それ等を愚そかにすることは出来ない。が、それと同時にあるいはそれ以上にそれらから得るものが多大にあることは誰もが否定できない明白なる事実である。現代のように、文明、社会が加速度的に発達、進歩し、物質的生活が合理的になればなる程、人間関係並びに自己そのものは増々非合理的になってくるような時代にあつては、集団の中の一員としての認識は、自己喪失によって消去され、人間はあまりにも他律的になりかねないのである。それ故、我々は自己の無限なる可能性を強く期

待し、なるべく多くの可能性を自己から、真摯なる態度で引出そうと努力することによって、成長、発展しうるように思われる。まさに医学祭は、参加しようによっては自己の認識に、確立に、ささやかながらもプラスなるであろう。運動会で仮装行列に優勝した。金をかけたこともその大きな原因であるが、衣裳、プラカードその他の装備のすみずみまで丹念に手が入っていた。即ちこれだけ各人が参加したことが大なる原因であったように思われる。薬学科は医学科にくらべて人数が少ない、それだけ負担が各人にかかってくるというハンデいを克服して、立派な医学祭を行うには我々ができるだけ医学祭を自分のこととして考えかついかほど協力するかにかかっている。我々は、各人の自発的、積極的参加をお互に期待しよう。第二に教養部の問題がある。今までの医学祭には、医学科、薬学科とも教養部は全然無関係であった。薬学科としては——たとえ教養部が動員されたとしても160名、一応七講座が全部参加する予定であるから、一講座を約20名が担当することになる。人員の点から、学部と教養部との交流を円滑にするという点からも、学部と教養部は、その間に横たわる物理的・心理的条件をのりきり、一致協力して薬学科全体として参加したいと思う。第3の問題として医学科との関係があげられる。同じ医学部内といっても、究極において対象とするものが人間そのものであるという以外その過程においては、あまりにも性格を異にするのに我々は、少なからず当惑しているのである。それ故、我々は医学祭の運営にあたっては積極的に協力し、テーマその他の展示物では協力可能なものは出来るだけ協力してゆきたい。その他会場の問題、各教室がいかほど協力してくれるか、附属機器の使用の問題等がある。展示物はなるべく視聴覚に直接訴え、抽象的なものはなるべく避けたいという観点からも、機器の使用に関しては当局側の誠実な考慮を願いたいものである。その他医学祭の目的である。市民を啓蒙し、医学、薬学の知識を普及するという大義名分的目的の他に、我々としては創設まもない薬学科、特に薬学という地味ながらも秘めたる力を有す学問の性格を、認識、理解してもらうためにもある程度のPRが考えられる。(3年)

和洋書籍・雑誌

文具・洋品・雑貨

東一番丁  丸善

ライトとスイート

菅原邦明

ジョセフ・ライトは1855年ヨークシャーの石切工の子として生れ、1901年、オクスフォード大学の比較言語学の教授に就任、1924年退職と同時に名誉教授の称号を受け、1930年、その輝かしい学者としての生涯を閉じた。75才と言え、天寿を完うしたと言える。

家が貧しかった為、幼少から製紙工場その他に勤めて家計を扶けた。15才で初めて文字を独習、聖書に親しみ、天路歷程を愛読した。やがて数学と語学に興味をもち、熱心な自学によって、3年後には、夜学の私塾を開くまでになった。1876年、刻苦して貯めた40ポンドをもって、ハイデルベルク大学に11週留学、数学と独語を専習した。帰英後、小学校教師となり、各地に歴任後、再度渡独、ハイデルベルク大学に4年留学ギリシャ語の音韻の研究で博士号を獲たが、なお大学に留まり、インドヨーロッパ語比較言語学、ゲルマン語比較文法、古代英語を攻究した。1888年帰英し、オクスフォード大学講師に推され、1901年、竟に、正教授に昇進し、比較言語学を講じた。その間1914年大戦が勃発するや、オクスフォードの欠員となった種々の講義をすすんで引受け、学園のため、日夜尽瘁した。

ライトは、生来真摯、質素、寛容、勤勉の諸美德を具え接触するすべての人に敬愛され、又教師としては、自己の独学の体験を活用して卓抜な技倆を謳われた。

8才年下のエリザベス夫人は、ライトの曾ての教え子であり、結婚後、夫妻共著の言語学、文法に関する著作は、可成りの数にのぼる。貧家から身をおこしたのであるが、天成の美質と異常な努力に依って、学者としての最高の地位を得、家庭生活にも恵まれ、又多くの門弟に慕われたライトは幸福な一生を送った人と言われるであろう。

彼の成功を祝う人は多かつたが、それを僥倖と思った人は無かったに違いない。日本にも、生前のライトを識っている数人の学者が居り、いづれも木訥、雄大な印象をうけたことでは、一致している。訪問客には、極めて親切であり、少年時代の労働を偲ばせる、毛むじらで団扇のように大きな手でグイと握手されると、ボクサーかプロレスラーと握手しているような気がする。あるいは片時も口辺から離れることのない愛用のパイプ、巨大な体軀、底力のあるゆっくりした口調等は、総じて北極熊を想わせる、と言うのである。

ヘンリー・スイートは、1855年ロンドンの富裕な弁護士の子として生れ、1864年ドイツ留学、ハイデルベルク大学でゲルマン語学その他を研究し、帰国後、古代英語と音声学に断然頭角を現わした。スイートは、イギリスの大学に近代語学の独立学科を設けたいと言う希望を抱き、この抱負の実現に好都合な、オクスフォード大学教授の椅子を待

望したが、前後二回共に銓衡に洩れ、1901年わずかに、音声学講師の地位を与えられたにすぎなかった。10才年少のライトが同年に正教授に任ぜられている。

ことを考えると、これに対する不満が後年彼に“Bitter Sweet”の異名を得しめたことも、うなづけるであろう。しかしスイートは、これがためにかえって発奮し、壮年時代の鋭気をもって、専攻学に精進することが出来た。

1912年その天才に対しては余りにも不遇な地位のまま、67才で去った。死後膨大なノート類の中に、彼独自の新造語で綴られた一冊が発見された。内容は、生前の数人の論敵に対する呪詛に近い悪罵、痛烈な皮肉で終始しているものであった。

この2人の学者は略同時代に生れ、2人とも20世紀に入ってから亡くなっているが、ライトが亡くなってからでも既に30年経過している。学者の生命、業績の偉大さは、後世に及ぼした影響力に依って測られるものとするならば、この2人の評価はどうなるであろうか。

ライトの著わした古代英語の諸作は、スイートの著に及ばず、又中世英語の文法に関する著作はジョルダンの文法が現われてから、最早時代遅れとなっている。総じてライトの著作の特徴は、懇切丁寧さであり、従来の諸説の集大成であり、事実即して正確であるが、天才的、独創的なところはみられない。

今後更に研究が進むにつれて、益々その信據性の侵蝕される可能性が強いのである。滴々たる不平の裡に世を去ったスイートの著には、到るところ独創と天才のひらめきが見られる。古代英語の稿本は、今日猶十分に信據性を有する正確さを保ち、高度の理論と鋭敏な耳によって得た深い造詣は、その音声学の数多の著述となって実を結んでおり、一般音声学に及ぼした影響力は測り知られないものがある。最古英語稿本において、最も原初の英語の相をあきらかにし、大著新英作文典二巻は極めて科学的で、イエスベルセン・ポーツマ・カームを有する今日でさえ、いささかもその価値を失っていない。又古英語辞典は、形こそ小さいが龐大なボスワースを遙かに凌駕している。英語学の真の建設者と謂われるのも、もつともである。彼の流れを汲んだ者の中からイエスベルセンなる現代最高の英文法家が現われたのも当然であろう。

ライトは、その木訥、親切、温かい抱擁力によって、つまりその豊かな人情味によって生前から多くの人に慕われたのであった。スイートはその天才と狷介不羈の為、人は寄りつかず、当然すぎる地位すら与えられないままに歿し死後その著述により、世界の英語学徒の拠るべき権威として、多くの尊敬を集めている。ライトは生前既に有名であり幸福であったが、歿してからはその学名はスイートに遠く及ばない。これらを想うと私は複雑な感慨を覚えるのである。私もし50年早く生れていたとすれば、どちらを先生として敬慕しただろうと考えてみたりする。やはりライトであろう。

(教養部 英語講師)

亡き京田さんを偲ぶ

日下部東一郎、敏子両氏は故京田守弘氏の御両親である。編集部では京田氏の研究、生活両面の態度が小さい頃の御両親様の教育に深い関係があるのではないかと考え、科達の今後の生活の指針にも思い御寄稿を依頼したところ快く御引受下された。茲に故京田守弘氏の御冥福を祈ると共に御両親様に心から哀悼の意を表します。

川内の大きな杉の木

日下部 東一郎

そうです。彼はよく感じてくれたと思います。だから今更何も書くことはないんです。それで今書くことは、それは、みんなつまらないんですけれどおゆるし下さい。川内の記念講堂の工事現場に私は居たのですが、その丘での話、ここに彼のスケッチした「川内の大きな杉の木」があるとしましょう。私達（守弘と私）は草の上に横になって下宿に送って来たといつて彼がハイザックから出した家の柿を食べながら話したのです。よく晴れた日曜の午後です。

私は仰臥して話し続けました。守弘は足を伸ばした姿で何かをスケッチしながら聞いています。絵の話から始めました。彼の憤った語気で反問してきたのを今も忘れ得ません。それは素人といったことについてです。「素人とは何だ」と言うような言葉で反撃して来た彼の語氣に、私はハッとなりました。「おいでなさったな」と不期待ながら、時をさまざま私の信条のようなことを話しましたが、それをだまって聞いてくれたことは、それから後も、彼が亡くなってからも思い出す度に何だかしみりするのです。

してやることの少なかった私は何につけ彼が黙って聞いてくれていた姿を思うとただすまなかったと言う以外に何もいえないのです。川内の大きな杉の木というのは、彼の遺したスケッチブックの自筆の目次にはあってもその絵はみつきりありませんでしたが、そのとき私達の話が終った時に見せてくれました。寝ころんでいた傍の杉の木です。何でもなしの杉の木、でも私達が倚って寝ころんだ何でもある木と後で因縁つけられますが、彼のスケッチの絵をみてひそかに驚かされました。何でもなく画としてまとまっていただけなのですけれど、それは画というものと、画の生活と言うことの話をしていたので、何でもなしの杉の木のいのちの生活を、よそながら彼の生活した一つの体験表現なのでしょう。「打ち込んでやれば木とでも話が出来ようになる」と言うような話で、私がかって遇った果樹園の老人の話や、私の体験やを話したのですが、そんなことで

は、彼の教室の現実面で、希望を打ちくだかれてか、失意の姿を推察して親心のはげましを加えて話したのです。

スベンヘディンの沙漠探検の話をして、冒険と、目的遂行の意志、意力、努力忍耐の昂揚、それは永遠の人類への信頼と愛が導いてくれるんで、あせらずに自然を師として信頼と愛に導かれて打込みなさい、打ち込んで行けば自然が話しかけてくれる。別に何かはなばなしのテーマを見つけてかかろうとそれを探しにあせるのは見苦しい、謙虚に自然を師として打込む生活をしなさいよ、失意の時も絶望せず自然と共にする生活態度なんだ。これは画の話で、セザンヌの森の画を見て感じたことなんだが、いつ筆をおいてもそのまま画になっていなければいい画ではないので、まだ未完成だから見せられないというのでは素人の絵なんだ。それはその人が画の生活をしていないからなので当然のことなんだ。素人と玄人と言うのはそれなんだ。素人は絵の生活をしていないから未完成のときは見せられないと言う時があるんだ。勿論素人には画の生活は出来ない、画の生活って私はこう思うんだが、一時間や空間を超越した生活なんだ。ハッハッ、アブストラクトもわかるだろう。社会人にはとても出来ないしすることでもないが、時にちよっとやって見てもいいが、その理解はしたほうがいい、いつ死ぬかわからない、いつでも見せられる生活をするのが玄人なんじゃないかな。画人であろうとなかろうとね。

わが家の血には創造力はある。が、野心がない。野心は余り感心しないけど人並に少しは冒険心はあった方がよいと思う。冒険心には遂行する勇氣と忍耐力がともなわねばならぬ。それはスベンヘディンの探検記から教えられるよ。成果の栄光はお預けにしておいてもまず勇氣、それから忍耐力が得られればいつも元気に行けるよ。

私達はそれから街に出てミルクを飲んだ。仙台のミルクは濃くてそして安くて満足だった。

開放弦

まだほんとの赤ん坊の頃、長イスに寝かされている時にギターの開放弦を聞かせたことしばしば、そのつどおとなしく眠っていたような姿を思い出します。やがて這い這いから立ちの頃、ギターの置いてあるところにおばあちゃ

んの手を引っぱってギターに押しつけてやるのです。まだ口がきけないのでギターを鳴らせと促しているのです。みんな笑いました。

小学一年の頃、おかしな歌をうたって皆を笑わせました。彼は意味は知らないのですがメロディーだけなのです。どこで覚えたの？ときくと、ラジオで、とすましているのです。正確なメロディーでした、2年で疎開して郷里に半年おりましたが、親類の女学生のお姉さんがピアノの前で彼を慰めようと、何を弾いてあげましょうか好きなのを言ってごらん、と言われたのに即座にハイドンのサブライズソナタと云って面喰わせたのは、子供の友で読んだハイドンのあの宮中でのピククリ音を自分も一度きいて見たいと思っていたからということだったそうです。

先年北海道に営林署のアルバイトに行ったときの日記の一節に、山でラップ草と言うのを教わって、それを切って昼食休みの丘の上で教わったようにうた口を切って吹いてみたらうまく行って、イタリアン奇想曲の最初の勇壮なメロディーが広野に拡がり行く気分を楽しんだ情景は想像するだけでもほほえましい姿です。

ウグイスの口笛

阿佐ヶ谷の家から石神井公園までは歩いて1時間位の田舎道です。2才の頃です。途中で睡くなって歩く元気がなくなりました。だっこしているうちに眠りかけました。むずがり坊だったので子守唄でも言うところでしたが口笛でウグイスの鳴声を真似ました。ホーホケキョをきいて「コッコ鳴いた」と言ってお安心したように寝入りましたが何だか幼い者をだましたようなすまない気持です。その時も劇にあるカッコの真似鳴の場面を思い出しながらでしたが、物心のつかない幼ない子がウグイスの声ですなおに寝入って、音の世界にそのまま親しく成長したと思えば私も救われます。あの口笛はそのまま何も知らずに他界したのです。ラップ草で吹いた彼のメロディーはあの世で今度は私がきかせてもらいましょう。

ロビンソンの研石

ある日、買って与えたコンパスの脚が折れているのを窓辺の彼の前に見つけて、ひどくしかりつけたのをその後もすまなく思いつづけています。それは小学生には勿体ないけれど普通の子供用のブンマワシは粗雑で、どんなに子供が熱心でも、道具が悪くては立派な円は描けないので可哀そうだからと、コンパスを与えたのです。多分コンパスの脚の針を他の用途に、こじる用途にでも使ったのかと邪推したのでした。そばに居た彼の兄の「折れてんだ」の助け舟もきかず、「道具を大切に使わないようではもう何も買ってやらない、道具を大切に使えば手はどんな立派なものでも作ることが出来るものなのだ」とあまり言いすぎたのをくやんでいます。ロビンソンクルーソーの漂流記は寓

話であっても、彼が難破船から島に運び揚げる荷物の順位計画の第一番目のものが研石であったのは、道具をいつも役立つような状態しておくことが人生の創造生活の第一的要事との考えかと感心していた私の思いすぎの叱言だったのですが、それを黙ってきいていたあの時の姿も忘れられません。大きくなってから物を粗末にしたようなことは全くみられませんでしたが、時々創造的な片鱗をのぞかせたのを思い合えると、無言のうちによく事を理解してくれたのでしょうか。

鱈の裏と表

大雨のあった翌朝のことです。座の端にある溝にきれいな水が流れている中に一匹の太ったドジョーが流れ泳いでいるのを掬って庭の池に放そうとしている時、それを窓に倚って見ていた彼が、食べる食べると言っていて泣きながら盛んに制止するのです。まだ自分で箸も持てないこんな子が生きているドジョーの姿から食欲を催すとはあきれて心に赤信号を揚げる必要を感じました。尤も口に入れられた肴に骨があると上手に滑め出して決して口中のもの全部を吐出すようなことをしないので前々から肴好きだとは思っていましたが、少し大きくなってから彼の兄が食膳で鱈の白い方の片身だけを食べて裏を残しているのを見て「その半身を食べてやろう、裏の方が肉も厚くアブラがあっとうまいよ」と言ったのには驚きました。あらためてみんなはその通り鱈の裏表には肉厚の差のあることを知られました。何年か経った或る日、知人の女子大生の娘さんが来て児童心理のあるテーマで彼を試料(?)にさせてくれと「モッチャンどう言う時が一番楽しいですか」の間に答えて「お箸を持っている時」と答えて笑わせましたが、それは、何から食べようかなと考えている時が一番楽しいんだそうでした。仙台で仲間達によく変なものを食わせたそうですが、思い当ることです。

ニワトリと猫

レグホンのひなを育てました。アカチンと言う名前のがいました。彼が目印にひなの頭にマーキュロをつけてそう名付けたのです。アカチンはよく卵を生むようになりました。もう一羽の方は足のうらにおできが出来て治療してやっただけですが、一ヶ月位しても治らずとうとう或夜、とままり木からパタッと落ちて落命しました。翌朝早く栗の木の下に葬る時「早く埋めないとお父さんが食べると言うといけないから」と言っていたようです。

つたい歩きの間家で黒い金目の仔猫を飼っていました。その頃うちにねずみが出て困っていたので、ほんとに猫は誰も嫌いだったのですが、その後その仔猫はもういなくなって、歩けるようになった頃の或る日、石膏細工の象牙色造りの動物玩具やの店頭で私はライオンを買わせようとしたのですがどうしてもまねき猫を握ってはなしません。店のお

ばさんが、あんなにほしがるのだから、それにしておあげなさい。と言うのでそれにしましたが、どんなに猫がすきだったのか、その猫ちゃんは、入浴の度毎に洗ってもらってとうとう鼻がなくなりました。それでも長い間はなさず遊んでもらいました。小学四年生頃にほんとの仔猫を飼いました。オスだといわれて貰って来たのですがメスでした。お母さんになって毎年2度づつ仔猫を産みました。みな育てました。病気になればよく世話をしました。死ぬのもありました。卵を産ませるためにニワトリにホルモンを注射したり、大きくなった猫が病気で死にかかったのに強心剤の注射を打ったりしました。家の他の者は無關心なのに、彼だけがどうしてあんなに猫好きだったのでしょうか。仙台に行くようになってからは残された猫に対して彼が早く帰って来るのを待つようになりました。もう今は猫が死に絶えて何年かになります、彼の遺骨を家に安遷した翌日から2、3日の間見知らぬよその猫がうちに入って来て泊っていました。何だか気のせいかな不思議に思いました。そのうち猫のことも忘れられ別に何のこともありません。彼が手伝って移植したクルミの二代目の木が珍しく初実を沢山つけ、これも熟して落ちました。久し振りにその外皮の汁でローケツ染を試み、そのうち彼の供養のしるしにもと考えている或る日、可愛らしい小犬が庭に来ました。それが自然に住みつき、今日で半月近くになります。昨日から家の人の前に寝ころんで腹を見せるようになりましたが、この姿は彼の幼時その友達の一人がその頃彼に教えていた「握手を求めている」それです。家もだんだん静かに賑やかになりそうです。

その後

目下 敏子

10月12日。しばらくぐずついた空が久しぶりに晴れあがった朝でした。あすは守弘の百ヶ日になりますので、今日はその前日の心ばかりのおまつりをして彼と共に語りたくて考えておりましたら、すばらしい朝で、仙台ではこの日運動会が催されると聞いておりましたので、彼もやはり大学のグラウンドで走っていることでしょうかとうれしくなりました。快晴を幸い彼のまだ残っている衣類を彼の部屋いっぱいひろげて一枚一枚、買った時、着せた時の会話をなつかしく思いながら整理いたしました。いつも帰仙したあとの衣類の整理と同じ気持で一枚ずつ箱に重ねて容れました。来年の夏にすぐ着られるように。実は私は自分でも彼のものを整理するときに涙が出るのではないかと危惧しておりましたが、青空のもとであたたかい陽ざしのためか悲しくなりません。来年の夏に彼が帰った時にすぐ着せてやれるように、彼との再会の折をたのしむ気持で一日がかりでいたしました。大学に帰ってしまったのです。いや少し長い旅行に出たのだ、そして旅先から便りをよこさな

いこんどの旅行なのだと思えてなりません。そしていつか、いえ近い中に必ずかえってくる旅行に出たと思えませんが。いま仙台で走っているのだと思ったり、また仙台でもお友達が思い出して下さるだろうと考えたり、一日中彼のことを思い出してすごしました。翌日渋谷まで出かける電車で次の駅から何気なく私の隣に立った人がありました。はじめ混んでいたのに黒いものを着ている人だけ思っていました。ふとみるとうすい黒の半袖セーターで袴と前たてにあかい線がくっきり出たのを着ているお嬢さんだったのでほんとうにおどろきました。彼が帰って来たのかと思いましたが、それから新宿までそのセーターばかりながめて、のりかえもその人の行く方ばかりながめて、うっかりのりおくれで、私の乗る電車は目の前をその赤い線の袴だけを見せて走りました。彼はまた行ってしまいました。何か昨日の運動会と思ひ合わせて、私に姿を見せてくれたようでなつかしく思いました。

最近まで一度も彼の夢を見なかったのですが、遭作展から帰って2・3日して、丁度お彼岸になってから、美しい陽ざしの中で腕を組んで、にこにこ笑っている彼の顔をあざやかにみました。多分あの世に安住している彼の現在の姿をみせてくれたのでしょうか。短い生涯でしたが、みなさんからいろいろと身にあまるおほめの言葉で悼んでいただき、私としては「ほんとうによくやってくれたわね」と肩をたたいてやりたい思いでいっぱいです。

今春卒業記念に彼と二人余良に赴き薬師寺さんに三晩もとめて頂いて奈良時代そのままのおごそかな花会式に参列しました。ひる、夜、夜中と一日三回二時間にわたる式です。夜は灯明の光だけなので、経本をかって頂いても私にはとてもよめないのですが、彼は身からきいてわかるらしく二回目からは坊さんたちとともに大声に誦していました。その中の「南無平等利益無辺界」は殊に気に入ったらしく奈良から知友への便りのおわりに必らず書いておりました。昨日薬師寺橋本官長さんにその便りをお目にかけたら、「これは辞世ですな」と仰しやして下さいました。いまとなっては彼の心をうけつぐことが残された私のつとめであり、また彼への供養にもなるかと考えている日々でございます。



北上の夜の紅茶

—忘れ得ぬ京田守弘との二人行—

村 田 正 弘

事件の日以来三月の日が流れた。その日から僕を激しく襲って来た悲しみと運命の残酷さに対する怒り、僕は自分に抵抗しなかった。深夜一人声をあげて泣いたし、一月前の草稿は京田、京田……と書いたまま涙でくしゃくしゃになったまま投げ出しあてる。然し今、僕はようやく亡き京田の意志の何分の一でも実現するため最善の努力を尽そうと決意した。京田と僕の友情をいささかでも傷つけようとするならば何人といえども許さない。何故なら僕等の友情こそ人々の善意を信じ、真実を貫き、不正を憎み、この研究と教育の場に小さい努力を積み重ねようとした絶対不可侵の基盤に立っているからだ。僕は今ここに在りし日の京田の一面を静かに語りたい。それは御母様のいわれたように聖書の「一粒の麦が地に落ちて死ななければ一粒のままもし死んだら豊かに実を結ぶ」(ヨハネ伝12.24)の通り京田を後につづく薬学科の若い諸君の胸に蘇らせたい僕の切ない願いからである。

あみこす一号を編集していた57年末の頃である。教養の時代で部屋もなくもっぱら花京院の彼の下宿を使った。夜やるのでいつも11時半の終列車に乗るため凍りついた道を歩いて帰ったものだ。旧い家の八畳なのでひどく寒い、彼は暖房にラジウスを使っていたが暖まらない。考えた末部屋の中に温室用ビニールでテントをはった。夏みかんを買ってきたが、皮がビタミンCの豊庫だというのに捨てるのは勿体ないといってマーマレードを作った。渋味をぬくため一回ゆでこぼすのがいいが、ビタミンの破壊温度を考えて沸とうさせてはいけなと理論的計算の上素晴らしいマーマレードを御馳走してくれた。ラジウスの音でつい激論がこうしても気付かず声がだんだん高くなる。次の朝小母さんに謝るのに弱ったそうである。今はこの家もとりにわしになってしまった。

彼はよく山へ登った。西朋登高会(都立西高杖山岳部O B)に属して北アの剣や穂高にもいったが近年はむしろ近くの山々を気のむくまま歩いた方が多い。奥秩父にいったときの創作風の記録をよむと彼の山を歩くという一つのテーマに対しての真げんな気持がよくわかる。僕達が三年生の59年の夏、彼を含めて5人で三陸海岸を10日間徒歩旅行した。30キロのキスリングを担いで炎天下をもくもくと歩いていく、彼の姿が目に見え。そして心から愉快そうであった彼の顔。盛岡の駅で解散したが、僕と京田は目の前の岩手山の美しい姿をみるとどうしてもそのまま帰りたくなかった。10日間の徒歩旅行はさすがにこたえているし、そ

の日岩泉から数時間バスと汽車にゆられて来たところであった。大きなザックはとも担げそうもないのでサブザックだけで夕方柳沢口から正面夜間登山を試みた。一気に登る気だったが残念なことに足がいうことをきかない。口惜しいが若い女の子にまで抜かれる、八合目で12時をまわったろうか、二人とも全く動けない位疲れてビバークすることにした。考えてみると晩飯も食べてないが、食欲どころか飯を炊く気力もない。京田は「危いな、飯を炊こう」と水場を探したが思うように動けない。しばらくして彼は熱い紅茶をわかしてくれた。あんなにありがたかったことはない。少し温まってシートにくるまって首だけ出して満月に近い北上盆地の夜景を足下に仮眠した。次の日頂上に立った。滞り網張口に降りたが相変わらずひどい疲労で前日の朝の半ば糸をひく飯盒の飯を水ですすりながらの悪コンディションだった。休日では多い、早く行かないとバスは満員で乗れなくなりますます親切に教えてくれる人があっても、足が動かずバスもいってしまった。仕方なく焼けつくような道を礫石まで歩き通した。僕の重いキャラバンをかわってはいってくれた。「いわて」(彼の遺骨が東京に帰った汽車と同じで僕は感無量だった)で仙台に帰ったとき二人で三つのザックをタクシーで僕の下宿まで運んだ。「泊っていけよ」と誘ったら彼もその気になって風呂へ入って次の日の昼まで眠りつづけた。彼が泊っていったのはこれが最初で最後である。「紅茶をわかしているとき僕も何度眠りかけたかわからない」京田がボツリといったとき僕も思い出してざくりとした。有名になってしまったが北上の夜景をもう一度ゆっくり眺めたいね— 二人は7月20日岩手から八幡平への縦走に出発する予定だった。

(大学院薬品分析)

就職試験に失敗して

山 内 郁

雪の降る一女高での入学試験場で、私の前の机に居た長靴をはいたO君を見てからもう四年にもなろうとしている。丁度男女同数のいる私達のクラスも、いろいろな事件にぶっかかりお互に成長してきたことと思う。私はこの様な形体の男女共学を経てきたことを嬉しく思う。

卒業を半年後にひかえて、私はT社の入社試験を受けた。女子の求人募集がまだ皆無だった頃であるので、割合大きな製薬会社の試験をうけることができた。幸福にひたって、是非合格したいと思った。一緒に受けたMさんも同じ気持であったことと思う。もしどちらか一人でも合格すれば、女子の多い私達の科の後輩のためにも道がひらけることを思うと胸のふくらむ思いだった。筆記試験、二度の面接試験、身体検査が、一日のうちにあっという間に終わってしまった。

不幸にも、休みも終りの日に受け取ったのは不採用の通知だった。Mさんも不採用であった。落ちたという事は、どんな場合でも気分の悪いものである。もう二度と試験を受けたくないと思ったのも無理からぬことである。少くとも成績優秀なるMさんだけでも合格している筈であった。自信を失っている私達が聞いたのは、正確なことはわかるよしもないが、東京在住を第一条件としたということである。私達は偶然にも地方の大学に在学していたために、はじめから不採用の候補にあがっていたのではないかという疑いもわいてくる。

多くの女性が悩み、私達薬学科の女子も当面して考えていることは、進学には男女の差別はなくとも就職の際は区別されているということである。会社側でもはっきり女子は採りたくないと言っているし、採用しても給料に大きな差ができる。二期生の女子も大部分就職がきまり、製薬会社その他の会社に行ける人も数としては多いのかもしれない。又、給料も男子とそれ程差がない所もあるだろう。しかしそういう所もどこかに穴がある様である。男子が不足の為に女子に採用したとか、昇給率や待遇に差が出てくるとかである。その他にも女子には種々の制約がついてくる。私の場合も女子寮がない為、安い給料で下宿なり自炊なりをするのは、苦しいだろうという理由で女子を敬遠する。そしてわずかに自宅通勤可能者のみを望むのである。ほとんどの会社は女子寮を持たない。持とうとさえしない様である。成績が悪く落とされたというのだったら気分もすっきりする。が、採用する見込みもなく試されていたのかと思うと悲しい。筆記試験もなくさっと採用される男子がねたましくさえ思える。

頭腦的に、また能力からみて女子は劣るところがあるかもしれない。しかし男性以上の人も居る筈である。このクラスにも入社試験に男性をぬいてトップの成績だったという人もあるという話である。そういう人達をも、はじめから差をつけなくて欲しいものである。

なるほど女子の仕事能率はおちるかもしれない。そして結婚してやめる人もまだ多い。家庭と職を二つかけることは苦勞が多いかもしれない。特に子供を育てる時は時間にとられがちである。女子もそのことにあまえてはいけませんが、その際能率のおちることは必然のことと考えられないものか。ある新聞の投書で読んだのだが、その時に1・2年仕事をやめてまた復帰できる職場があったらよいと思う。子供が大きくなればいくらかでも働けることである。そうすれば短期間の就職に投資するのはおいしいという考えもなくなる。また女子でなくてはできない仕事もある。結婚しても働きたいという女性が増えている昨今である。会社側でもそういう人達を受け入れる体制ができつつあるのが、自然の理ではないか。現在の条件下でも、負担が重くなるにも増して女性が職場に出たいという理由は、自立しているという気分である。この4年間の共学にもそういうことをつちかかってきた。教室内では、はなはだしい男女の差にぶっかかり苦しんだということはないと思う。この様に対等にすごしてきた4年間で貴重に思えてくる。この独立心をこれからもずっと保持してゆきたいものである。

この失敗をこれからもくり返すのかと思うと残念である。受け入れ方に個人の差はあっても、同じことを学ぼうとしてきた私達である。後の人は自信を持ってすすんで多くの機会にぶつかってほしいものである。

(4年 薬剤学)

理化学器械・ガラス器具及量器
化学磁器・各種耐化物
実験諸材料・各種器械製作修理

有限会社 大島商会

仙台市東九番丁115
電話 ⑥ 4 6 2 8

無料宿泊所

斎藤英治

金をかけずしかも楽しく旅をするのに一番工夫の仕所はやはり泊る場所の選び方であろう。思い出すまま印象的な泊場について書いて見よう。

公民館—九州最南端佐多岬。亜熱帯植物の茂る平和な土地であるが交通の便が無いので訪れる人は少い。交渉してこの村の公民館にとめてもらった。しばらくすると村の子供達が沢山集まって来て、我々のなすことやることをまばたき一つせず見ている。そして口々に「アカダイカ」というが我々は意味が分らず、悪代官だの赤大根だの名解釈させたが、結局お前はだれかという意味だったらしい、生活は貧しく娯楽も殆んど無いらしい。

待合室—和歌山県潮ノ岬。バンガローは有料なので岬の突端の昨年作ったばかりというガラス強りの豪華な展望室に泊る決心をして交渉した。苦心の末夜になったら泊って良いという許可をとる。本州の最南端なので東京—大阪間の汽船は全部この側を通過する。波は大部荒く風もあるが、夜になると四方のガラスを通して汽船やいかをとる漁火が無数に暗い海に輝いて、実に美しい光景であった。一つ二万円という椅子と三つ四つ組合せてベッドを作り美しい夜景を見ながら寝る。まさに高級ホテル以上のデラックスな気分になる別天地だった。

テント—張る場所さえあれば良いのだから手軽に利用されるが、浴室つきテントとなると楽しい。さいはての知床半島に北海道唯一の高山ラウス岳がある。このふもとに岩尾別温泉がある。勿論バスの便はなく歩く他はない。温泉とは聞えが良いが河原に畳一枚より小さい位の穴があるだけで、熱い時には河原の水でうめるといふ野天の無人温泉で板の割目から熱い湯が出たり河原の水がしみ出たり、

全く血のめぐりの悪い人にはもってこいである。やたらにかきまわすと板についている藻がぷかぷか浮いて感じがわるい。あまり近くにテントを張ったので、地元の人が温泉に来た時には目のやり場に困った。

旅館—という所は泊めるのが商売だけにめったにロハでは泊れないがうまくすると三食つきで無料の場合もある。宮城県登米町の北上川堤防の草原で野宿をきめて星などを仰ぎつつ北上夜曲なども歌ってうるさい蚊の襲撃に耐していたら、ライトを持ったおじさんが興味深そうに寄って来て、俺の家は旅館だから寝られるという。全然金がないと言うと、それでも良いというのでついて行ったら非常にもてなしてくれた。その娘さんがまた美人で親切だったので気に入った。後で聞くとところによると町評判の美人とのこと。今さらながらあの時のうすぎたない自分の服装を思い浮かべ汗をかいてしまう。

無人小屋—宮崎県の青島といえは有名だが、そのずっと南に幸島がある。住民はたった二人で青島ほどの派手さはないが、一つ魅力がある。というのはここには猿が数10匹群棲しているのだ。ここには京大生物科の人が使ったという小屋があり、そこに泊ることにする。炊事の用意に一人だけ残って他は米をときに行っていると彼の悲鳴が小屋から聞えた。急いで行って見るとサルが小屋の重い戸をあげて入って来て、それをてっきり我々と思ったと言う。しかしさっきの声は悲鳴でなく猿を追い出すための声だと弁明することしきり。その夜は屋根の割目からサルの目がきらりと光ったり、窓からのぞかれたり、どっちが人かわからなかった。

アイヌ人の家—北海道屈斜路湖。泊る所を探していると湖のほとりに大きなあばら屋があった。丁度主人がいたので頼んで泊めてもらう。ところがその主人大変なアル中で夜になってからだれかとめるといったなどからむ仕末。再び頼みに茶の間に行ったら甘ったるい臭気や壁の赤黒い

持続性のグルクロン酸誘導体

グロナミン

(25g. 100g. 500g)

グロナミンは、グルクロン酸のカルボン酸を酸アミド化したグルクロン酸アミドで成分、甘味のある飲みやすい粉末です。

吸収がよく、排泄が遅く、血中濃度を長時間持続するので、慢性の肝疾患をはじめ、皮膚炎、中毒症など…長期にわたって治療を必要とする疾病にグロナミンはうってつけです。

東京日本橋本町 中外製薬株式会社



中外製薬

しみなどで、すっかり気味が悪くなる。結局外気の流通する土間に寝させてもらったが、隣りには目つきの鋭いアイヌ人が3・4人寝ていたりついに同行の女性の一人が泣き出す始末。滅び行く民族アイヌ人の一断面。

民生寮一要素するに浮浪者に無料で泊所を提供して更正させようとの目的で建った寮である。静岡県金倉町。無料宿泊所という看板があったのでびつくと一度警察に行って許可を受けると言われる。警察に行ったら人相風態を細く書きこまれて指紋までとられる。ようやく許可されてくつろぎ風呂に入れてもらうと「このごろの浮浪者は全く信用が出来ない。などと僕に聞えよがせに話しているので気分も害したが、夕食も恵んでもらって文句は言えないと我慢する。同居人は東京で失職して浜松に帰るといふ土工風の男であった。

学校一悲しき島、天草。どこも泊る所がないので学校に交渉に行くと、校長先生に頼めと言われて、近くの先生宅を訪ねる。先生丁度昼風呂の真最中。玄関の僕と風呂場の校長先生との間に珍妙な会話が続く。ようやくねばって許可された。但し板ばりの講堂であった。夜宿直の先生がどこかで飲んで来たらしく我々が講堂に寝ているのでびっくりしたらしい。後でこの島には娯楽がなくせめて飲むぐらいが関の山だと嘆く。あまり酔っているので相手にしな

かったらすぐ引込んで行った。

野宿一雨が降らねば一番良い快適な泊場である。礼文島の西沿岸。少し早くついたので海で遊んだがすぐに泳ぎたくなり泳ぐ。水はあまり青く澄んでいて冷いのですぐやめる。キャンプファイヤーをやり食事をしたらすぐ寝るところがそこは蟻の巢で火で刺激されてシュラフにありが入って来る。かみつかれると本当にいたくて弱った。

民家一家族ぐるみで土地自慢の料理で歓迎してくれる民家程和やかな時はない。初冬の飯豊連峯。主尾根に行かぬ内に吹雪となり一日停滞してさんざん目に会ってやっとふもとの人家にたどりついた。ぬれた服をぬいで風呂に入り出してもらった丹前を着て、いろりのそばで話に花がさいた実際にきつねに馬鹿された話、熊狩りの話これらは彼自身の経験であり、それだけに真にせまるものがある。自慢のどぶろくもごちそうになりすっかり良い気分ですてつかれた体をふとんに横たえる。このような本当に満ち足りた気持は人生に何度あるだろうか！

以上の如く未知の土地は我々がその気なら大いに歓迎してくれるだろう。金のかかった旅行も一つの方法だが土地との本当の接触という意味で劣るように思われる。特に教養部の諸君などは若さと暇があるのだから大いに青春を楽しんで、楽しい思い出をつくってもらいたいものである。

(4年 薬剤学)

或る男の体験

原 通

鉄格子付きの病室で自分の存在に気付いたのは、8月に入院して1ヶ月程経た9月頃で、毎日昼頃になると室の看護人に連れられて階下の床の上に寝、口の中にガーゼの棒を喰えて電気ショックを受けるのだった。外科手術で体をメスで裂れるのと違い、電気死刑の事が常に頭に浮んで、自分の罪のむくいと活りきらないとその精神的恐怖は仲々去るものではなかった。頭上にいる医師が始めのうちは、死刑執行人のように思われ両者の呼吸がピタッと合った瞬間、頭の両側に陽極、陰極の棒が押しあてられ、恐怖の波が頭から足の先迄走って頭を断ち切られたように自分の世界がなくなり気絶してしまふ。10V位の交流電流に過ぎないのに胸が火傷しないか、痴呆になるのではないかと恐れていた。やがて2、3時間経過して自分が床の上に寝ているのに気付くが、何の為にこんな所に寝ているのか、一体どこに寝ているかもわからない。自分の同室の人、医者、看護人、友達は何論自分というものさえ存在意識がない。自分の生い立ち、今迄何と行って来たか、厭な思い出も、楽しかった事もすべて忘れた。しばらくしてフラフラした足取りで室に戻るのだが、頭の中をエーテルで抽出され、残ったカスのように半ばスッキリ半ば麻痺したようでもあり時折痛んだ。室の連中の顔を見ても誰かわからず

えても視えざる。状態で、彼等もう済んだとか、俺はしなくてよいんだなどという複雑な笑顔で迎えてくれた。後は一日中ベッドの上で寝、視野が段々取り戻ってくれたのを感じ、過去の楽しかった事を空想し、将来の無限なる可能性について想いをはせていた。空想は限りがなく悪い方向に走ると一もう自分の死ぬ事は恐れなかった一街中が火事になったり、第三次大戦が起ったりするのを楽しんでいたりしていた。

若い連中が20人余り、外界から閉ざされていると本能が

純度の正確斯界随一を誇る

—犬印試薬—

大信化学株式会社

仙台市荒町19番地

電話 (8) 3 5 4 5

理想をこえ三度の食事が一番活気付く時であり、或る者は本を読み、トランプをやり、考え込んで、肉のかたまりのような生活をつづけていた。若い連中は性的妄想にふけり安く、猥談で腹の底から笑い合ったがその後で各々何故こんなところに入ようになったのか、一体どこが悪いのかを反省していた。幸いこの室は正常な活動能力が回復すればよい程度の者ばかりだった。

やがて頭の上のカプトのような感じがなくなった頃に、インシュリン療法を行ったがこれはこれはまさに地獄だった。朝六時にインシュリン液を上腕に筋注され（電気の時とちがいは段々恐怖が重っていったが）30分位吸収を良くする為にもんでいると発汗を覚えつよく水を欲するようになるが、飢餓感はまだ表われない。糖分、水をとるとコーマに入らないと言われたので、水を口に含んで吐き出す。床の上に横たわると次第に発汗がはげしくなり、体中の水分が蒸発したように思われて口喝の苦しきの余り牛のように暴れ廻り飢餓感もまじって、肉体的苦痛とちがう、言いつくせないような欠乏感で、手を足をヒモでグルグル巻にされても暴れた。自分より早くコーマに入った者は口より血泡を吹き出し、すごい筋肉ケイレンを発し、入りきらないものは泣き呼びながら隣の部屋からころがり込んできた。マグロのように手足をつかんで運ばれていくが、尚全身の力で暴れるので胸の上に腰を下して押えつけられていた。コーマになる迄フトンに汗でダラダラにして、水を一

滴でもなめたいと思った。終わった後の食事の事だけを考え、動かない手で胸をかきむしりながら、となりの男の暴れ方、コーマに入った男のケイレンなどを見ているのは悲惨であった。砂糖水の事だけを考えているようなその目、血液中にはやくブドー糖を入れてくれと。昏睡に入っているものは静かに感じられた。常に薬理実験されているような侮辱感を感じて、その苦痛の割に効果は少いと言ってよい。いつのまにかケイレンで暴れるらしく、体中アザだらけで打ち身が多く、友達の名を呼んだり何か呼んでいるらしかった。そのまま放置されると死ぬからブドー糖の静脈注射により段々意識が回復し、物の区別はつくが、思考力は砂糖水を飲んでしばらくして表われた。砂糖水はうまく普通では飲めないような濃縮液を、一合余りむさぼり飲んだ。室に戻って待望の朝食を11時頃食べ、続いて12時に糖分補給の為無理に食べた。朝菓子類を食べすぎると翌日血糖量が多すぎて苦しむので、悪循環に落ち入らない様我慢した。そんな毎日を過ごし壁に1回づつ付けていた線が50回になったとき、豚の様な生活に終りをつげた。

しかし外の空気と室の空気が違った成分からなっている様に感じられて、退院の許可を得る迄違った環境に住む心構えをしていた。外に出てみると街の様子も違っているようで、丁度ヒヨコがカラを破って外にとび出した時の様なものだったろう。今考えると一つの体験だったという感が深い。
(3年)

神経の両端から作用する



胃酸過多・胃炎 消化性潰瘍に

新発売！

1. 臭化プロバンテリンの効果

胃腸を支配する副交感神経系の病的な興奮(胃腸の運動昂進、痙攣、分泌過多をきたす)をおさえて正常にもどします。

2. イソミンの効果

主として中枢神経の異常な緊張をしずめ、胃腸病の大きな病因とされている精神的な負担をのぞきます。

3. ゲラルミン、酸化マグネシウムの効果

過剰の胃液、胃酸をのぞき、胃壁を保護します。

4. 4成分配合の効果

各成分は相乗的に相互の治癒効果を高め その作用を持続的にします

プロバンM錠

★健保適用

10錠 30錠 100錠 500錠

P

大阪市東区道修町

大日本製薬株式会社

薬学科に入って

長谷川 和 雄

我々一年生は我が国屈指の難関(?)東北大学医学部薬学科に36年度4月入学許可されたのであるが、はたしてどの位の人が(女子は別として)薬学科を第一志望にしたであろうか。私が聞いた限りにおいてはあまり見当らなかつた。しかし、だからといって、薬学科を軽視するつもりは毛頭ない。あしからず、むしろ「薬学はいいぜ」と大に宣伝したいくらいである。

私は小さい頃から兄の影響で将来は医者になるつもりであった。しかし結局は薬学科に来てしまった。薬学科志望の動機は、今年はどうしても合格しなかったの、「薬学科なら入れるだろう。」「化学はきらいではないし、模試の成績も良いほうだ。」「よし薬学科にしよう。」というわけで入試間際の一月に薬学科志望がきまったわけである。

薬学科に入って始めは、自分は「薬学に適しているのだろうか。」などと考え悩み、転科のことなどを真剣に考えた。しかし現在は、「薬学は人間の健康を保持し、人類を病気から守る手助けをする学問である。それを研究し、効力ある薬を作る我々は一種の救世主である(ちよっと大げさかな)。また我々は薬学科を卒業しサラリーマンとなり(大学院に残る人も多いだろうが)このりっぱな学問を研究しながら「飯が食える」のだから、こんな良い職業はちよっとない。」などと考え、薬学の研究(といっても薬学についてはまだ全然学んでないのだが)を自分の一生の仕事として再確認した次第である。

我々は薬学科生である以上、薬学士となる軌道に乗せられているのである(もちろん落第しない前提のもとに)。それ故、薬学に進むのだからといって、薬学に関係のあることばかりをあわてて学んだりするのは、好ましくないと私は思う。他人に迷惑をかけず、自分の品性に悪影響を与える心配がなく、勉学の妨げ(ある程度はやむを得ないと思う。固より程度の問題であるが)とならない範囲で、専門以外の種々の本を読んだり、スポーツをしたり、音楽を聞いたり、楽器をいじったり、時には映画を見たり、旅行をじたりして色々な経験をし豊富な一生を私はもちたい。これを実現させるには、なかなか困難な点が多いだろうが出来るだけ努力してみようと思っている。(1年)

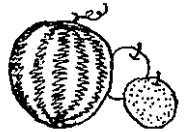
《短 文》 江 本 昭 子

どんな人の話をもすなおに聞くことができる人はどれだけいるだろうか?誰の話にも必ず得るべきことがあると知りながら。

他人の非に対して寛大になれず、自分の非に対しては正当らしき理由をつけて、他人に迷惑をかける。悪いと知りながら出来ないのは、我風人のかなしさなり

寮 生 活

相 田 侃 次



大学生となっても未だ大学生と感ぜないこの頃であるが、今迄送って来た寮の事について書いてみることにした。

現在入っている寮は東北大学の寮ではなく、故郷米沢有為でやっている興譲館寮である。ここには母校米沢興譲館高と他に長井南高の出身者が入っている。総勢25人で丁度よく大変まとまりがある。同じ地方の出身でしかも二つの学校からだけ入っているの親密感がある。大学生となつて大抵の人が覚えると思われるのがマージャンだろう。寮には娯楽用具としてマージャン、卓球、野球、囲碁、その他いろいろのものがあるので遊ぶには事欠かない。試験が近ずかなければ勉強しないのはこの寮も大抵同じだと思う。日中には授業があれば大部分学校へ行くが、夜ともなれば一応娯楽室となっている所では、マージャンの音が毎晩する。夏休み以前にはパイの音よりも突然出す人間の声が大きいで、近所から苦情が申し込まれた為、最近では少し静かになったような気がする。家から離れて長い間暮らすのは今年が初めてであるので、ホームシックにかかるようなセンチメンタルな感情がおこるかと思つたが、同郷の者ばかりであるので余りかからない。家へ帰りたくなつたら汽車に3時間も乗れば行けるので、汽車賃さえあればいつでも帰ることとしている。寮には文化係というものがある、色々な行事を行っている。春と秋のシーズンには、野球の試合が文科と理科に分かれて行なわれる。春には理科が勝つたが、試合開始時間が午前5時半である。これには未だ大学に入ったばかりで早起きの習慣が抜けきらない我々一年でさえ早いのに、常に昼頃迄寝ている先輩が起こすのであるから、その努力には我々後輩、敬服せざるを得ない位である。又対外試合もする。今迄春に角五郎丁の高校生チームとやって勝っているが、それからは角五郎丁の大学生チームや学生会館と例年やっているそうなので今年もやるだろうと思つている。他の行事としては春秋二回のピクニック、マージャン大会、コンパ等がある寮生活は結構楽しい。寮に入ると生活費は安くいいが勉強が余り出来ないとき々聞くが、そんな感じは少しもない。もつとも試験が近ずかないと、しないせいかもしれない。一部屋に二人であるが、もし下宿をやつて一部屋に二人いるなら結局下宿も寮も同じ事だと思ふ。我寮では大体試験の一月前から各自の意志によってであるが、マージャンだけはやらない。音が出なければやってもかまわないが、パイの音や人の声がうるさくて他の部屋の人に迷惑をかける為である。寮に入ったおかげで先輩の話を容易に聞くことができ。今まで得ることができなかった色々な事が判つてくので大変よい。(1年)

化学への傾倒

大久保 伶子

小学校のときは外交官、中学校のときは音楽家というのが漠然とした夢であった。それが高校一年の化学の最初の時間から、ガラッと変わってしまった。たいへん元気でズバズバものを言う女の先生で、気の弱い私は縮み上るような緊張感を覚えた。それと同時に、充実した授業をしてくれるだろうという期待も持てた。私の中学にはいなかったタイプの先生だという好奇心を以って、化学に対する注目を強めたのである。実験もかなり多くやった。あの実験室で独特の強いアクセントのある言葉に鞭打たれて、どうぞよい結果になりますようにと祈ったことを忘れられない。特に複雑な化学計算問題を解けたときの嬉しさは相当だった。2年生の化学のクラスよりも1年の化学のクラス（1クラスだけだったが）の方がテストの平均点がよかったの

も、この先生の影響で、クラスが一つの雰囲気をかもした結果だった。

高校2年になって、化学クラブに所属した。1年で化学をやったものが主に集まって、一グループをつくり、有機方面をやろうと決めた。ペーパークロマトグラフィーで食品中の色素分析をした。今考えると全く幼稚な研究内容だが、その時は夢中で、「水素結合」なんていう言葉もその時仕入れた。その実験に使った展開液や、有機溶媒のにおいがとても気に入って、嗅覚的に有機化学を好きになったのである。もし私が重症の鼻づまりだったら、今ごろもっとまじな学生になっていたかも知れないのに。

大学を受けるとき、両親と大衝突した。私は理学部化学科へ行きたいと主張するし、親はもっと実際的な技術的な方面へ行けとゆずらない。とうとう、薬学ならば両者の中間存在ということになって選んだ次第です。古い伝統の東北大学の中で、いつまでも若々しく新しい存在であればよいと思います。（1年）

SHORTMYSTERY

吉井 玄亮

1

殺し屋の権藤は、ある紡績会社の納品課長をしている秋山に、たんまり札束を握らせられて、社員の西岡を殺すように頼まれた。秋山は課長という地位を利用して、かなりあくどい事を行っているのだが、まだ誰にも気づかれていない様であった。ところが、仲間と秘密の相談をやっているところを西岡に見られてしまったのだ。

2

金にひかれた権藤は、その頼みを引き受けたのではあるが、秋山の言った条件が頭にこびりついて離れなかった。というのは、西岡をただ殺すのではなく、自殺に見せかけて殺せというのである。今まで同じような事を何回かやってきた彼ではあったが、こんな条件をもち出されたのは初めてであった。しかし、日頃、何か完全犯罪じみたことをやってやろうと考えて居た時だったので、この難題を引き受けてしまったのである。

3

その週の金曜日の夜、権藤は小さなトランクを持ち、例の殺し屋スタイルで西岡のアパートに現われた。人に見られないようにすばやく西岡の部屋に入るなりピストルをつきつけた。気まじめな一社員にすぎない西岡は驚いて声も出ぬ風だった。ちよとした瞬間が彼をとんでもない運命に追い込んでしまったのである。「いいか、俺の言う通りにやるんだぜ、変なまねをするとこれが物を言うからな」権藤はピストルをにぶく光らせながらトランクをテーブルの上に置いた。とそれはトランクではなくテープレコーダー

であったのだ。「おい、俺の言う通り言うんだぜ、『和子さん、俺は今日、大失敗をしてしまった。君と別れるのはつらいけど、もう生きてはいられないんだ。和子さん、さようなら、さようなら』とな」和子というのは、西岡の恋人で、同じ会社に務めている早川和子のことである。権藤はテープレコーダーを回すと、西岡に無理やりにそのセリフを言わせた。そして『さようなら』という言葉が終るか終らぬ内に、西岡の右耳の上に銃口をあてたピストルの引き金をひいた。もちろん、その銃声もテープに入れた。このアパートの近くには、鉄工所があって、その晩は、夜仕事で絶えず騒音がしていたので、銃声人が気づかれる心配はなかった。権藤は早川和子のことも、又この鉄工所が金曜日深夜仕事をやるということも、前もって調べておいたのである。西岡が倒れると、その手にピストルを握らせた。そして、電話に早川和子を呼び出すと、テープレコーダーの西岡の声を受話器を通して流してやった。それが終ると権藤はゆっくりと電話をきいて、あたりを見わたした。無論、全々手袋をはめての仕事だから、指紋を残すような、ヘマはなかった。何も手ぬかりがないことを確認すると、テープレコーダーをかかえて、部屋を出て行った。

4

権藤は秋山を尋ねると、自信ありげに仔細を報告した。

5

しかし、早川和子から急報を受けて、現場に駆けつけた捜査一課の上条警部は、すぐに、これは自殺ではなく他殺であることを見ぬいてしまった。

さて話しは、これで終りであるが、あの権藤の綿密な犯行にも、大きな手ぬかりがあったのである。それが何であるかは、若さと美貌にあふれる皆さんが考えて下さい。

川内近在

佐久間 慧子

川内はいい所である。自分は勉強のにおいのある所はどれも嫌いだ、川内は学校らしくなくていい。休講ともなればいくらでも逃げ出す所があるから更に好きである。

逃げ出す所の一つに亀岡神社がある。かなり長い石段がついているが、下りは小さな仙台がごみごみと目に入るだけだからつまらない。いいのは上りである。一段一段雑草でさびた石を見ながらのぼる。すみれが咲いていることがある。小さいけれども思わず足をとめるような力がある。石から咲いた力かも知れない。力があるからなよなよと見栄をはることもない。石の陰に自分だけで咲いている。秋には枯葉がかすっていることもある。石も枯れているし葉も枯れている。色にも影にも人間なんぞの介入出来るほんの隙間もありはしない。雨が降っている中をしよぼしよぼのぼる時の、あの単調な少しものわびしいうれしさは、少し昂ずるとにやにやして来て我ながら馬鹿に見える程であるが、人はほとんど決して来ないから、その馬鹿面のまま上までのぼる。のぼりきった所は広くなっていて、小さなお宮の前に恰好な石段がついているから、雨でなければ腰かけて長いことぼんやりする。自分が自然界のものを好む理由は頭を使うことを強要されないからだけなのであって詩が湧くでもなければ生々流転の真理を発見するわけでもない。化学や物理をしなくていい石や草が羨やましくて眺めるのである。ここはその為にあるような場所だから好きなのである。そこから一寸行くと広い道に出る。去年まではそれが開拓部落へ通じていて、菜の花あり麦畑あり、両側には藤の花がいっぱい咲いたものである。二時限か三時限のブランクの時は、昼食持ちで太白山行きの道を探したことも5・6回ある。結局わからずじまいだったけれども秋に開拓村を抜けた所に一面火がついた様な紅葉林を見た時は、何か大変な発見でもしたような気持ちになったものだった。しかし今では亀岡の裏一帯はすっかりけずりとられてゴルフ場になり、見るかげもない。

雨の日の植物園もいい。水を吸って道の両側から重く垂れた枝をかきわけながらその返りしづきをあびると、草木の生気がそっくりうつって来て、体がファイトの塊になった様な気がする。雨上りの時はそっと歩かなければならない。こんな時は誰も来ないから、鳥が沢山出て来るのである。驚く程近くまで寄って来るし、逃げても葉の裏に隠れた気でいるらしい。葉の裏からのぞいてみたり、隣の枝に移って見直してみたり、こっちがじっとしていると、もう一度近寄って来て首をかしげたり、小さいのは十姉妹位のから大きいのは鶯位のまで、実にたくさんいる。川内住宅の植物園寄りの草のしげみの中で、一度目近にきじを見た。羽が緑色に光って、目の隈が燃える様に赤かったのが

異常な程目に残っているのは、それが生きていたからかも知れない。動物園で見るあのおどおどした死にかけた鳥ではなく、自分で動ける自由さをもっていただけからかも知れない。後で人に話したら、獲って来ればよかったのに、と惜しそうな顔をした。言語道断である。(2年)

後期繰上げ授業に臨んで

安食 由比子

10日間の前期試験もようやく済んでほっと安心といった一週間ののちに後期繰上げ授業が金曜日が始まることとなった。我々2年にしてみれば初めての本部にての専門科目の勉強とあっては、なかなかの興味津々たる何ものかを夫々の胸にいだきつつ、教室へ入りました。そこは薄暗く寒々としてちょっと陰臭い部屋だった。木の影もなく朝から晩まで青空、時には曇と生活を共にしている川内の生活になじんで来た私達にとって、特にそれがピンときたのかも知れない。でもまあ、皆んなあまり外へ出ないで、ここにうずもっていたら、さぞ、顔の色が白くなることだろうと期待している。授業中にはバカにうるさい。電車の音、自動車、犬の鳴き声、騒音防止はどこへやら騒音大会である。でも校舎がどっしりして木や草がおしげって、緑の天国みたいです。私のもとめて来たものはこの楽園なのでした。授業は第二。環境が人を作るのだから。

やはり本部とあって教授連はがっかりしているようで最初の時間というのに頭とこしが痛くなる思い。でもこうやられると私も今本部で専門科目らしきものをやっているのだという気持が心のどこかにあって頼もしくなる。

先輩方には会えば頭のさがる思い。いつもネコ背の私のことだから無理もないのだが、とにかく、今のうちは就職とかその他の悩みもまだわからなくてあの楽園で思う存分楽しめるのだが、3・4年になって就職に悩んでいる自分の姿が時々魔のように頭中をおそいくるのである。

(2年)



橋本 勝子

学部の授業が始まったら、急に残り少ない『教養部時代』が惜しくなりだした。これまでの一年半があらゆる意味で『教養の時代』と呼ばれ得るだろうか。時間を握りしめたい様な気がする。(2年)

自分の言いたいことがいつでも、誰にも気がねすることなしに言えるとき、人はこれを言論の自由という。

勿論言いたいことが言える世の中の方が、言いたいことも言えない世の中より住み良いにきまっている。

しかし言いたいことが言えるだけで満足していいのだろうか。自分の言ったことに耳を傾けてくれる人がいなかったら、言ったことを認めてくれる人がいなかったら、或はそれに反対する人がいなかったら、自分の考えを口に出して言ったという自己満足以外何もあはしないのだ。言いたいことが言えるだけの言論の自由が認められている社会は、言論の自由が認められていない社会と同様に発展はあり得ない。

言いたことが言えることが大切なのでなく、言いたいことを聴いてくれる人が居る社会が大切なのである。

単に「言論の自由」という言葉だけをありがたがっていると、言いたいことも言えないような社会になってしまうことを忘れてはならない。

物事をその表面に現われた部分だけで判断することは危険である。一見悪に見える事も良であったり、これは絶対良だと思ったことが実は極悪であったりすることがある。左右を問わず、多数少数を問わず全ての暴力は悪である。暴力に対してこの暴力は良いがこの暴力は悪いといった良否の判断は許されない。しかしその暴力がいかなる思想の上に立ち、何を目的としているかを考えるとき、本質的な相違がそれぞれの暴力にあることはいえと思う。従って悪であるはずの暴力が場合によっては肯定されうることもある。その好例は、独裁政治で国民大衆が苦しめられているとき、国民が起す反政府革命であろう。

勿論暴力に訴えることなしに国民の生活が楽になる方法がとれるようなら、これにこしたことはない。しかし独裁政治がこれさえも許さないのであるなら、暴力もやむをえないだろう。これは詭弁だろうか。

家の子供は理屈ばかり言ってこまるから学校で道徳教育をしてほしいといってる親（特に母親）が多いのには驚かされる。こういう意見を持っている親は一体どんな生活をしているのだろうか。そして書物を通しての道徳教育が本物でないことを身をもって体験したはずなのに自分の子供に自分と同じ誤った道を歩ませようとするとは何としたことか。

私から言わせれば、本来道徳教育は家庭でなされるべきもので、子供の道徳的な物の考え方は母親の生活態度に多分に影響されるのであるから、子供の道徳教育を他人にまかせるなんて何と愚かな親なのであろうか。

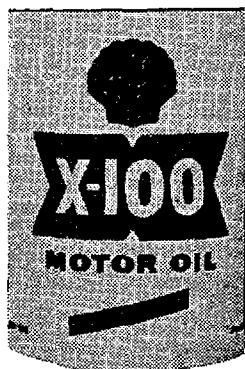
そういう親は、昔の書物を通しての道徳教育をうけてきた大人達が何をしたか、そして今何をしているかを冷静に思い起すべきであらう。

動物愛護デーという日がある。大変結構なことだと思う。生き物を愛せない人間なんて、ろくな人間でないと思う。しかし温情主義もほどほどにしないと、とんでもないことになりかねないこともあるのである。

野犬狩りなんて文明人のすることでない。動物虐待もはなはだしい。今すぐ廃止せよ。という意見がある。

犬と人間の生命の一体どちらが大切か（犬に劣る人間もないではないが常識的に考えて）冷静に考えれば明らかである。保護鳥と作物の関係も似ている。一時の過度の愛情が後になって悪い結果をもたらすことが多いものである。物事に対処する時にその事を理性で判断できる人が案外少ないものだ。

(1年)



シエルガソリンシエルの貝印灯油

料理と暖房用の理想燃料

ミンク石油ストーブ

マミーオート

仙台市東二番丁一二〇

株式
会社



三浦善作商店

電話(5)1253・(2)8959(スタンド)

時 間

大 高 忠 彦

これから述べる時間という言葉は哲学などで論じているような難しいものでない。

我々は次のような事を経験したことがあろう。例えば試験期間中に休日が存在しているためその日に次の日の課目を勉強すれば良いと思ってやらないでいて、その日になって自由な時間がたくさんあるような気がして（実際には24時間あるのだが、そのうちの少しの時間だけなのに錯覚を起しているのである。ついだるくなってだらだらと夜になってあわてて本気でやり始めても、時既に遅しということを経験した方が多いと思う。

私は痛切にこの事を身を持って感じている。高校時代に硬式野球部に所属していたので、シーズン中は試験中でも練習を行った。こんなことを述べるとそんなことはいくらもおっしゃる方がいるかもしれないが、本当なのである。かえってこの方が私にとって非常に有益であった。というのは練習に没頭する（没頭しなければ自然けがする率が大になる）ことにより頭の中が掃除されたようにすうとなり

家に帰ってその気分で時間が他の人より少いと思って自然他の事は何も考えずに、ただ勉強に全神経を集中出来るのである。いわゆる集中勉強法である。シーズンオフなどに試験が終わって直ぐ家に帰って勉強しようと思っても時間はたつぷりあるからと油断して、あれこれと考えたりする時間の方が多くなって、実質的にはシーズン中よりも効果が上がらないといった方がよい位である。

実際私が高校2年の時の成績は先生もびっくりしたのであるが、野球を一年懸命やっていた時とランニング中心に練習が移った時のと全く同一であったのである。

よく運動部に入ると勉強する時間がなく、大学に入れなからといって入部するように勧めても拒否されることがしばしばあった。又入部しても勉強する時間がないからといってやめていく人がいるが、一般にこんどは自分の時間がたくさんあるんだと思ってつい遊びぐせがつき、物にならなくなってしまうことが多い。実際の統計でも全々何にもやっていない人、いわゆるルンペンと運動部所属者との成績は総体的には差がないのである。一方は時間がたくさんあり他方は時間は非常に少いのである。

前者は時間というものに振り回されているのである。

川 内 分 校

桜 井 洋 二 郎

市街地から広瀬川の流れを見ながら橋を渡り、20分程歩けば町の騒音を完全にシャットアウトした静かな分校の空気につまれる。途中テニスコートを手右にして前方に目を向ければ広い敷地にポツンポツンと建っている白い建物が、雨ふりの後は特に緑の芝草に映えて異国的な感じをおこさせる。分校がこの地に移る前までは駐留軍がいただけあって構内の地面は地肌を見ることが出来ないほどにアスファルトの道路が走り、芝草が一面に敷きつめてある。数年前にはこの辺にたくさんの兵隊が銃を持って歩き廻り、幼な心に何んとか恐怖心を覚えさせ、近づき難い一郭だと思込ませたものだったが、年と共にこの一郭の管理者も変り、今では全く平和な学び舎となっている。この学び舎に通うようになってから、またたく間に半年が過ぎてしまったが、その間に見たこと聞いたこと感じた事を心に浮かぶにまかせて書いて見た。

入学した当初はクラス内に高校では見たこともなかったような赤や黄の明るい色のはいり込み、しばしば目をそこに固定してしまっ、耳の方がおろそかになってしまったこともあった。もちろん短期間だけであって、その後は何も感じなくなったが、川内に通うようになって下宿している人とは異なり、生活環境に変化はないし、高校時代の友達がたくさんいたので別に精神的変化も生じることもな

ったが、やはり解放された気持は、人並に感じたはずだった。そしてクラス会だコンパだと遊ぶのに多忙な身となっているうちに、諸々の試験が行なわれ、しばらくぶりに長時間机に向かうようになったが、気魂の相違からか苦痛を共なうようになってしまっ、我ながら情なくなっしまった。この頃から一躍注目を集めるようになった学生運動の動きが活発になり、抗議集会、デモへの参加を呼びかける声がスピーカーから流れ、何んとか雑然とした感じがして来た。講義に対しても緊張がとれて来て、退屈さ味気なさを感じるようになり、時々エスケープしてしまっ例の芝草に寝転び青空に浮かぶ白い雲を見ながら日光浴をすることもあった。又講義も大人数でやるので、先生との結びつきも週1回会う、通りすがりの人との関係のようになってしま、どの先生からも自分の名前を知ってもらえずに川内を離れてしまうのかと思うと、ちよつと残念な気がする。待望の夏休みをむかえ大いに遊ぼうと計画を立てた。が、それに伴うものを考慮して少し削減せざるを得なかつたが、それでも十分に今までになかつた程楽しい夏休みを過した。その間水泳の講習に出てカナヅチかからトクリに脱皮することに成功したのは夏休み最大の収穫と言えそうだ。

入学した当時は浪人したつもりで一先懸命に勉強しようとして決心したのだったが、先輩諸氏の「大学に入ったら大いに遊ぶ」の言に完全に誘惑されてしま、実行に移したのが悪く、今では少し反省しなくてはならない立場になつたが決して後悔はしないつもりだ。机の上では得られない良き体験を少しでも得たと思うから……。 (1年)

わがクラブ

大村敬子

私が女声合唱団に入ったのは別に深い理由があったわけではない。只少しばかり音楽が好きだったためと、他に入ってみようかと思うようなクラブがなかった為であった。それに入学式当日の女声団員の宣伝ぶりが非常に活発だった事にもある。ともかくも大学という新しい環境の中でのクラブ活動に非常な好奇心といくらかの不安をいだいて部室を訪れた。指揮者、委員長の方をはじめ、上級生の方々はみんな新入生を暖く迎えてくれた。私の不安は一遍に吹きとんでしまった。入団後初めての行事は男声合同のハイキングだった。1台のバスにぎっしり詰って蒲生海岸に出発である。松林の中では8人づつが1グループになって、はんごう炊飯、ソフトボール、ゲーム遊びと楽しく過した。春の海辺を歌声高らかに帰途についたが、男性はほんとうに楽々と歌っているのにひきかえ、女性の私達は息切れがしてとても楽しく歌うとまではいかなかった。男女の体質の違いだなあとつくづく感じた。男性合唱が、すごいボリューム、ぐっと胸に来るような低音で、いかにも堂々としていて迫力があり、大舟に乗ったような気持で聞いているのに比べて(少々ほめすぎたかもしれない)女性合唱は全く対象的で、それらの点を他面で例えば女性ならではの繊細さ等でカバーしなければならず、ずいぶん細かい神経が要求される。という男性合唱は神経を使わないように聞こえるかもしれないが、いやしくも芸術である音楽をやる以上は無神経ではいられないのであるから、それはあくまで女性と男声を比較してみたのである。というわけで、私も苦しいながらも精一杯歌って歩いた入団後は

じめてのハイキングもこのように楽しく終わった。

私達女声は週に2回火木が練習日になっている。発表会や演奏会が有る時はむろんのこと、それらをまじかに控えていない時もこの練習日には必ず出なければならない。私達は七声会演奏会を目指して練習に励んだ。新人生にとってはこれがじめてのステージになるわけである。大したことじゃないと思っていたが、やはり当日になるとなんとなく着かない気持だった。いよいよ幕が上ってライトがいっせいに向けられた。口のあたりがこぼってくる。どうして自分はこんな所に立っているのかしらと思うともう、やもたてもたまらず逃げ出したかった。ところが、1曲目のピアノ前奏がはじまると、不思議なことに気持が落ち着いてきた。そして1曲1曲と終えていくうちに、もうあのはじめの緊張は全くなくなってしまった。無事に歌いおえて観客の拍手を聞いたときには、ほんとうに胸が1杯になった。あの拍手には、色々の意味の拍手があったろう。「ああよくやった。うまかったぞ!」という意味もあったろうし「なんとまあへたなんだろう。これで大学生の合唱かい。いやいやお粗末なもんだ。でも拍手してやんないのも可哀想だからおなさげに、ハイパチパチ」という意味のもあったろう。しかしあの時の拍手はみんなはじめの意味のしかきこえなかった。

いくら音楽が好きだといっても、時にはつらいと思うときもある。そんな時はいつもあのはじめてのステージでの感激を思い出している。(1年)



催胆強肝剤...PTMC製剤

健保適用

- ☆ 各種肝胆のう胆道疾患に ☆
- ☆ これらの疾患に伴う胃腸障害に ☆
- ☆ 過コレステロール血症に ☆

ガロゲン錠 (顆粒)

ガロゲンは Curcuma Longa, L. (うこん) の有効成分に由来するパラトリールメチルカルビノールd-樟脳酸エステルシエタノールアミンを主成分とす



用量	錠剤	1回2錠	1日3回	維持量	1日2~4錠
	顆粒	1日1g	3回分服	"	1日0.3~0.6g
包装	錠剤	100錠・500錠・3,000錠		顆粒	25g 100g 500g

製造発売元 鳥居薬品株式会社 東京都中央区日本橋本町3-3

ボクも当然そう読んだらう。U.S.W.をウズヴと誰かが読んだ。最初何も面白くなかったが先生に und so weiter と読むのだといわれたらおかしくなった。

4月：入学式の時、学生証をわすれ下宿までとりに来た。おかげ様で記念講堂の最後列で学長の話聞いた。感激などあるはずがない。ついでに図書の出カードを落してしまい以来全々本を貸していない。最初がこうだから以後ろくなことあるはずがない。いつのまにかダメな男の1人になってしまった。

8月：鶴岡へ海水浴に行った。ボクの行く所常に雨ありである。ほとんど例外はない。この時、ごていねいにも暴風雨となってくれた。それでも尚我々は泳ぐ。実にヒソウであった。別に風邪は召さなかった。その後彼らのうちの1人と寒河江で共に語り共にのみ共に自転車で行く山の中のボクの家まで11時すぎに帰った。そんなことのある前、つまり7月下旬にアミコスの広告取りに日本橋の店々を廻り歩いた。要するにボクはいわゆる礼儀を知らないやつだということがわかった。どうせぼくが礼儀正しくふるまったらかえってコッケイだろうとも思った。それに並はずれに子供っぽいということにもいささか気づいたらしい。その上菓屋さんあまりお金出してくれなかったから決して面白い東京散歩ではなかったらう。ただ1つ兄貴がボクに食させた「ウナ丼」あれだけはうまかった。

9月：ボクはまだ本当の恋はしたことないらしい。だから「アバタもエクボ」などという境に達したことはない。この「アバタもエクボ」は恋人にだけ感じるのではないらしい。ソ連が核実験を再開したらさっそくフルシチョフの言葉をかりて言い出した。再開はやむをえない。アメリカの帝国主義に對抗する為には、涙をのんで再開するのである。それも生協ニュースに出したんだからウチの自治会のオエラ方もたよりにならない。つい2・3日前までは全力をあげて核実験再開と戦っていたのに。さぞかしアメリカがやらなかったんで気ぬけのしたことであらう。そもそもマルキシズムとソ連国のやり方とはちがうものだと思うんだが。それがマルキシズムを信ずるあまり、ソ連といやに親しいような口調をもっていうのはどうかと思う。僕の知っているかぎりでのソ連は宇宙開発に於いて世界最高を行き、オートパイ、テレビ等では日本の5,6年前の水準にある。ということぐらいで政治的なことなどあまり知らないらしいから大きなことは言えないのだけれうが、しかしマルキシズムとソ連とはまったくちがうということだけは確信が持てそうである。もしインテリとしてマルキシズムを信ずるなら、それこそソ連などはマルキシズムに少なからず反

しているとすべきであらう。等と考えたがまちがっているかもしれない。

前期の試験が終わってホットした。一応カンニングもやらずに全部すんだ。そんなわけで松島へハゼつりとしゃれ込んだ。試験休みのことである。後に聞くところによると海の底にいる魚も人を見てから引っかかって来るのだそうである。どうりで我々には全々つれなかった。しょうが無いから動物園へ行き、水族館をみて、仙台第一ビル近くの姿を現わしたのが6時ごろ。いかにつれなかったとて魚は見る目を持っていると思えば全々腹が立たない。つまり我々はダメな男達なのだ。

意外なことから男女共学の欠点を見つけた。つまり、ボクは高校時代に色々なよび名を持っていた。沖田、Got (up)、マサ、いい男、バカヤロ、etc。(もちろん下級生からは女からも男からも、沖田さんとか政憲さんとか、沖田君とかよばれたが) ついぞ同級生から沖田君とはいわれなかった。いや女からだけ沖田君とよばれた。高校生の間だから、同じ学校の中だからいいだろうがもし恋人などにむかってX君なんて言ったらどうなるだろうと思うとやっぱり共学もあまりいいとばかり言えなそうである。

10月：オレだつてたまには、というわけでスタンレーを聞きに行った。77才の今まで宣教師をやり、原爆が落ちてから6回も広島に立ったにしては日本語を話せないとはいけない人である。日本人はかつて占領国に於いてさえも現地語を使ったのに。それで彼の側に通訳がくつつく。彼—アメリカ人—はしゃべる。その後日本人が通訳する。米人は大きな手、というより長い腕をふって、日本人はひかえめな身ぶり。彼が大きな体から静かな声を出せば、日本人は小さな身体から大きな声をはり上げるのである。話していることは解からなかったが、2人の姿だけは良く視ていた。彼らは言う。自分をキリストにまかせよ。さすれば己は生れ変らん……。せつかく今まで作って来たボクの悪習慣が消えてしまつては実にもつたいない。人間の話だから当然いつかは終る。讚美歌を聞いて、Ich habe kein Geld と書いた紙を入れてやった集金袋に祈をささげる間考えて、日本人はヨーロッパ人種とはちがうということも考えに入れて「我が主はイエスならず」の句をみるに到つた。と同事に宣教には多くの外敵がいる。むしろ外敵の存在は必要だとも思った。

実にくだらないことばかり書き立てたが、ボクのような文才のない者に何か書かなければならぬ義務が落ちた時は当然こうなるのである。

酒と原稿

君達！原稿出さなかったらオゴラセルゾ！ あっいいよオレ酒のませせてやるよ。ボクはどうしたらいいのかまよつた。何しろ原稿はもらわねば、しかし酒も又いい。

(1年編集委員)

川内一週雑感

佐々木英夫

予備校で懇切丁寧に教えて下さったはずの先生も、宇宙船の飛び交わん時代に物理学の講義とは、手の施しようもなし、いつも変らぬのは先生の笑顔、せめて拙者にできるものは居眠りくらいのもの。大学に来てみれば、アー、ペー、ツェーの独語とは、浪人さま相手の進学相談どころか。落第相談にもつきあって下さいネ。学生を理解して下さるはつれづれなるがままに川内の大先生、冗談には飽きません。拙者も漢文をとりましたヨ。川内から風は吹き下ろさずとも、せめて洞(ほら)ぐらいは吹いて欲しいもの。机の上で夢ばかり覗き込んでおりますよ。文字をズラズラ書き並べて何やらつぶやくは数学の秀才大先生、わからぬのはこちら。アメリカ小町どころかかなかの好色者の川内業平、読んでよし、書いてよし、歌ってよしの国語学の先生。3・4格専門家にはカンニング通用せず、勉強

嫌いの拙者には一大事。教科書なし、たまに休講と洒落こむ学生思いの文化史の先生、体を大事にして下さいネ。大声をはり上げての講義なんでも知っているゾとばかりの人文地理、ノートとりに余念なしの拙者。主任教授の英語とあっては、疎かにサボれません。よろしくお願いします。足の爪を抜いてまでのボール蹴りとは、ただピツロイ運動場狭しとばかりの2才駒。黒板の写生もウッカリは信用出来ぬ微積分。いつも教科書と腕めツコ、何をいおうものかチンプンカンプン。所得倍増の近頃とあっては、サボるわけにもいかぬ経済、うけてみてわかるのは机を……しての居眠りの快感。なかなか経済的。試験は度々、時間厳守派の化学。ノート写しにおおわらわ、英語の登場を願おうとは、有機の新人登場やっぱり化学ですネ。面白いことでも話そうかと待ち侘びる拙者にはチンプンカンプンの心理学。今年も伝染病が大してはやらなくてよかったですネ。そんなに早く退場しチャイけませんよ。まだサボって居りませんからネ。今週最後、英語に弱虫の拙者には、サボりたくともサボれぬのが関の山、虎ツコ捜しに余念なし。(1年)

時を愛せ

船木清子

人生を愛するか。もし愛さば時を浪費するなかれ——。S・ジョンソンは言う。「短かき人生は時間の浪費によって、ますます短くなる。」と。

人生は、「時」は、時の流れに付随したものにすぎない。だから、その流れのままに流されていく者にとっては、人生は短くなる。出来るだけ流れをせき止める努力をせねばならない。ほんの手短かな例だが、大学に入学して1年半経過した。が、その間何をしたかと問われれば、私自身その解答にちよっと窮する。非常に残念なことであり惜ないことだ。高校時代は一応大学入試という精神のよりどころとなるものがあつた。それが、入学と同時にすっかりそのよりどころを失い、新たな目標を見つける努力を惜しんだのが原因なのだろう。目標のない人生は無意味だ。結局それが故に時間を浪費し、人生を短かいものにするのである。

寸陰を利用することは、いかなる種類の戦における勝利をも得る秘訣だ—ガフィールド—の言葉どおり人生を勝利に導くものは、時をうまく利用することであろう。

かつて私は1日を時計にあやつられてくらしがあった。何時何分までになにをして、何分のパスでどこそこへいき、何時までにあれをして——とボンヤリする暇もなく動きまわった。夜、室に落ちついた時には身体はすっかり疲れきっていた。が何かしら気持は晴れやかだった。はたして一生をいつもこのように時計をにらんですごすのがよ

いかどうか、寸陰を利用していることになるかどうかは疑問であるが、悪いことではないと思う。そんな時には、ボンヤリしている時間もおおいに意味をもってくるからである。とにかく何をしてすごしたのかわからないということは最も無駄なことである。目標—といって何も偉大なことでなくてよい。益になることなら—を定め、それに達するまでにどんな時間を費しても、あるいは廻り道をしてでも(かえって廻り道をするほうが人生を豊かにするかもしれない)たえず寸陰を惜しむことを頭において、その目標達成に努めることが大切だ。『時を得る人は万物を得る—ジスレリー—』 (2年)

東北の代表紙

河北新報

仙台市東二番丁一四一
電話代表(2)六一二一番

このごろ考える事

金山民子

夏休みにトルストイの「戦争と平和」を読んだ。以前「幼年時代」「少年時代」「青年時代」を読んで感ずる所あり、読みたいと思っていたものだった。スケールの大きさや彼の余りにも偶然を強調する特殊な歴史観には目を見はった。太陽の如きナターシャの情熱や、陰険なリアリストのアンドレイ、何事にも why を持って自己を見つめるアイデアリストのピュールには共感したり驚いたり、自己を見い出したりした。しかし私の最もすばらしいと思ったのは、ナターシャの情熱でも何んでもなく、彼等すべての心底までも浸透して、何か起ったからと言って決して変ることのない、否起った時にこそ示される深い神に対する敬虔さであった。我々が地球が廻っていることを信ずる如く神を信じて疑わない。作品中のすべての人物が、善人であろうと悪人であろうと又主人公から1兵士に致るまで、死際に、安らかさを求めて祈ることのできる魂のよりどころとも言うべき（私にとっては魅力的、神秘的である）「何か」を持っている。神を肯定することが出来ないにもかかわらず、あらゆる慣習的な諸宗教行事に参加して、なんとも思わない自分が今さら情なく、あわれに思われる。信じて疑うことのない「何か」を持っている人は幸福である。（しかし、こういう事に全然無関心である人も幸福であり得るかもしれない）

私は安保に反対した。デモに参加した。授業放棄さえもした。だが今年はどうしたというのだろうか。政暴法反対の声を聞いてもそれについて深く考えようとしない。実際のところ賛成か反対か、はつきりした意見さえも持っていない。政暴法に反対して、誰から何を勝ちとろうというの

か。（こんな事を言うと誰からモウカツノなどと言われそうである。）労働者の学生の自由を？自由を？自由、日本歴史においてはそれほど激しくなかったが、近代ヨーロッパでは政治的、経済的、精神的な抑圧から脱去しようと、「自由」を獲得しようと恐ろしい戦いがくりかえされた。そして逆転をかさねながらも「自由」は勝利を重ねてきた。この戦いの中で多くの人が死んだが彼等は抑圧に抵抗する戦いに命をささげることが自由なしに生きるよりもましだと信じていたにちがいない。今でもそう信じている人があるかもしれない。しかし単に外的な圧迫のないことが自由なのだろうか。

わからない。私の心の中は得体の知れぬ「自由」なるものを叫びすぎ空虚になり、孤独になり、かえって何かによりかかり、服従したいという相反したような混乱したわけのわからぬ状態である。

政暴法にはこれほど冷淡である私が、世界危機をまきおこしたベルリン問題に関しては一言一句ももらさず、新聞を読み、テレビを見、東西両首脳の見解を比較した。そしてあたかも世界戦争がせまってきたかのように恐怖を感じた。自分自身のこういう矛盾した態度を私は説明することができない。結局は自分が社会現象を正しく判断しそれに対処して行く能力のない、言わば無能力者（一般的意味での）にすぎないのである。それにもかかわらず私は社会から認められたいと思っている。無能力なる私が社会から認められる為にはどうしたらいいのだろうか？認められるということ、その為には社会の常識とか世論とかいうものからはずれてはならない。自己の独創的な思考力を失って、自我を抑制して世間のインテリの大部分が口にすることをあたかも自分が考えているかのように言わなければならない。学問、真理探求、矛盾している。一体これから自分はどうなるのだろうか。全く私は貝になりたい。（2年）

今までの事をふり返って

千葉卓男

今、大学に入ってからのことをふり返ってみると、ああ勉強したなアなんていう気なんか全々起らず、遊び暮してしまったなアという気の方が先に起って来る。とにかくどこかネジがゆるんでしまったような感じである。高校の厳格な状態から大学という自由な立場におかれた為でもあろうが、とにかく僕の高校時代は言葉で言い表わされない程厳しく教育されてきたが、今となってはその厳しさの中に戻って、今のだらけた自分の心を引き締めたいくらいである。しかし、こんなにだらけてしまったのは、休みの多過ぎるせいかもしれない。しかしこのままだらだらしてもいられないので、自分の心を引き締めようとするけれども、

中学、高校時代と環境がすっかり異っているので、なかなか困難なことである。それに、注意してくれる人が誰もいなくなった。高校の頃は、ちょっとでも成績が下がると担任の先生から説教され、他の先生からも注意をされたから、やらなくちやいかんという気持を起さないわけにはいかなかった。だからと言って、誰からか注意してもらうのを待っているわけにもいかないのだから、自分からその意欲を燃やさなければならない。とにかく僕にとってこの事は多大な努力がいるようである。まだ今の自分には大学生なんだという気は少しも湧いてこない。だいたい授業科目からして、高校とさほど変わっていないからそんな気もするんだろう。「教養部という所はつまらないところだ。」なんて大学に入る前よくうわさで聞いている通り、全く面白くない所だどつくづく考えさせられる。だから「後期こそは」と頑張ってみたところで、また遊び暮らすのがせきのやまだと思われて仕方がない。（1年）

きさかた 象潟を訪ねて



安達素子

夏休みも残り少なくなったある日、友達と象潟へ行った。

“象潟や雨に西施がねむの花”
松尾芭蕉の「奥の細道」の中に
美しい雰囲気をもったこの句と

共に出て来る旧蹟である。秋田市からは汽車で二時間くらい先の所である。

昔は88潟99島が風情ある景色を呈していて、裏日本の松島とも言われていたのだそうだが、今は海岸が隆起した為それも見られない。その島々は大小の岡となり、まわりは広々とした田んぼになっている。それでも6月の梅雨時に、田が水にすっかり浸された時には、大小の岡が島のように浮き出て、丁度昔の88潟99島の面影を忍ばせるという。又、象潟には、さまざまのいわれや伝説を有した干満珠寺という古い寺があり、近くの山には那曾の白滝と呼ばれる滝も流れていて、ちょっとした観光地である。海水浴場としても有名で、海岸の近くにあるホテルでは夏の間は松林の中にパラソルを張って、野外食堂も経営しているという。これが決定的魅力だったという訳でもなかったが、秋田に住んでいる以上、一度行ってみようと思っ出て出かけた。

—那曾の白滝—象潟駅からバスで30分余り、だらだらと山道を登る。降りると、どこからかザーザー水の落ちる音がする。めざす滝の音らしいのだが、どこにあるかわからない。うっそうと大きな杉の木がかたまっている中にあまり長くない石段があり、その上に大分古いお宮が見える。夏の陽も大木の茂りにさえぎられて、あたりは涼しい風がそよいでいる。何とはなしにその石段を登ってみると、そこからは木の合間を通して滝の白いしぶきが見えている。そしてお宮のかけから後の方へ滝つぼへ降りる石段が続いていた。その段々は不規則な形の岩で作られており、ガタガタ不安定で、杉の茂りの為日光も届かず苔がむしていた。滑って何度か転びそうになりながら、曲って続いている段々を一步一步滝つぼへとおりて行く。

まわりをすっかり濃淡の緑で囲まれた滝つぼの中、豊富な水が凄まじい白しぶきをあげて目の前におちて来る。滝の轟はすべての他の音をかき消してしまい、それ故にかえって俗を忘れ自然を身近に感じさせてくれる。さまざまの木々にとりかこまれた穴の中にすっぽりと身をかくして、安心しきって天の懐に抱かれているような気がし、もう何も考えなくなかった。ゴロゴロと重なり合っている大きな岩の、安定した一つに腰をおろしてまわりを眺めた。静か

な、たたずまいの木と岩と、その中で唯一つの動的存在である滝が良く調和している。創造主が心から楽しみ、苦心して創り出したが如く、水と緑と岩との組合せの妙味が、実に巧みに展開されている。

気がついたら、細かい滝の霧で体がしっとりと濡れていた。

ここでは夏の暑さなど思い出すのも難しかった。

—縁結びの神—この象潟の風景を一瞥的に眺められる所に干満珠寺がある。この寺の庭には、秋田では珍しい存在であるバナナの木が植えられている。附近を流れる暖流のせいらしいということだが、よく茂っていた。寺の案内人は、〇〇地藏、〇〇碑、〇〇木などと、曰く因縁を時には和歌や昔物語を混ぜながら、歌うような調子で境内を案内して行く。私もその広々として良く手入れのゆきとどいた庭を眺めながら、他の観光客と一緒にゆっくりとついて行った。境内の一隅の崖のかけに出た。そこには小さなほこらがあり、案内人はそれを縁結びの神だと説明した。一瞬、観光客の間になごやかな空気が流れる。ほこらのそばには、手頃な高さの木が大きく枝を延しており、なるほどそれにはまるで花でも咲いているかの様に、白いこよりが沢山結ばれている。あんまり沢山なので感心しながら眺めていると、観光客の中の1人のおばあさんが、「この神様は大層ゴリヤクがあるから、あなたも是非こよりを結びなさい。良縁に恵まれますよ。」と、ここにこ勧めする。言われてしないのも悪くて、それじゃ私もと思い、こよりを作っていると、そのおばあさん、「結ぶ時には左手で。」などと大変御親切にいろいろ心配してくれる。そして適当な枝も見つけて、結ぼうとしていたら、1人の愉快そうなおじさんが「やめなさい、やめなさい。この神様は大変偉大な縁結びの能力を持っています。靈験あらたかで、一度結ばれるとそれがどんなにいやな相手でもガッチリ組んで離れなくなってしまうんだよ。」と冗談を言う。これにはびっくりした。冗談とは思ってもそれでは大変だ。ここでこよりを結んだおかげで、何かの拍子で一緒になりたいやな人と一生ガッチリ組ませられるなんて大いに困る。この神様は滅茶苦茶に組合せる事にしか能がないのかしら。最後まで責任を持ってくれなくては有難迷惑……。

それにしてもこの木に結ばれているこよりの数は大変な数だ。この靈験あらたかな神様に願をかけてこよりをひねった方達はそれぞれ良い人と結ばれているのかしら？などと見た事もない人の身の上が心配になって来た。

願くは世のすべての人が幸福な生活をしていますようにせめてここにこよりを結んだ人達だけでも……。

(1年)



涼をもとめて

江本 昭子

ブームにのって北海道旅行を企てた。いやブームにのってだけでなく、たまたま私達の大学2年とブームがぶつかったのだ。とにかく2週間余りの北海道旅行を授業もさぼって計画した。しっかり者ぞろいのメンバー、万事スムーズに、計画以上の北海道旅行も終わった。暑さに再び浸され、一時、北海道の涼しさを思い出そう。青函連絡船に乗り込み、舟にのったことのない田舎者のように、船底から甲板へ這い出すことによって内地（青森から4時間もすれば、この言葉が私達に用いられた。）を離れ始めた。遠くかすんだ物影をみては、小泉八雲の教科書を懸命に理解しようとする。船底の蒸されるような空気から開放され函館につく。骨董品のような明治時代の建物にまず感心する。函館山に登り、世界三大夜景とはナポリと香港とこここのこととの案内に世にも得をしたような感じをもつ。ロープウェイに乗っては童心に返り、いかにすれば寝心地が良いかと悪戦苦闘の一夜を過せば札幌。遊覧バスは夢の中、目をさませば終着点、もとのテレビ塔の下にいる。しかたがないから阿寒へ、羊の顔でも見ようと思えば“悪天候のため羊は放しません”。バスの中からうらめしく柵を見るばかり。翌朝、朝早くから乙女らは成吉思汗鍋(ジンギスカンなべ)とアイスクリームを求め、緑の札幌中をぶらぶらと……時計台のそばを五六回。忘れようにも忘れられない。思い出すのは時計台。仙台の次に住むべき所は札幌と別れを惜んで近文に。初めて接するアイヌ部落、皆物めずらしく面白く、ピリカメノコの字をブローチに彫らせて、良いおみやげなりと大喜び。そろそろ北海道特有の風景に接し始める。一日バスにのり、溪谷美と原始林と遠く白雪いただく山々に感嘆しつづける夜はホテルの意義を達しましように出来もしない卓球に汗を流す。翌日は網走入り。見ず知らずのおじさんに、獲りたての毛がにを思う存分ごちそうになったのは今だになつかしい。毛がになつかしいのではなく、見知らぬ他人の暖い歓迎ぶりに。旅をして歩くと

実に親初な人々に出会う。お蔭で食料はいつも豊富で、自動車にただでのれる。しかしこんなに親初な人にばかりに出会うと、困ることがある。私達は旅やつれをし、やせて帰らなくてはならないのである。とにかくオホーツク海の荒波をみて、「伊豆の海や小島の磯に寄する波われて砕けて裂けて散るかも」の迷歌も出来たし、水族館のとつかりと遊ぶことも出来た。オホーツク海の能取(ノットロ)湖と網走湖を眼下に見下ろせる夕暮れの天都山に登ることも出来た。この世に思い残すこともないが、死ぬ必要もないだろう。おとなしく宿に帰った。翌日からは北浜の花畑で朝露の消えぬ間に朝寝をしたのを除けば、くる日もくる日も湖ばかり。松島湾でのポート訓練を思い出しさかんに漕いだがあとをふり返えればいつもデグザクコース。ポートよりデモの影響の方が強かったらしい。岸さんがうらめしくなる。そのころ新聞をのぞき見れば、知らぬ間に池田内閣も変わったそう。いまさら岸さんをうらんでもしかたがない。せいぜい自然の美しさに浸ろう。でも自然は美しすぎて、私の筆には不釣合である。湖一つを取り上げても、いろいろの趣がある。濃紺から緑茶色にまたがる色合と、大小、○や△や□や、中島があったりなかったり、中島の数が違ったり、ピリカメノコの悲しい伝説をもつマリモから夫婦喧嘩の中裁をした湖まで、色、形、伝説と組み合わせれば、見物した6つの湖も216の様相を示すことになる。それに見る人の気持や天候を考慮すれば、正に千差万別である。しかし共通点も多い故しまいには水を見ても、すこしも感動しない。やっぱり陸に棲む動物なのか！しかし躍動する水は例外、襟裳岬の白波には、そばで催促してくれなくてもほめてやる。又黄金道路の片側、(両側と言いたいところだが、一方は岩がそそり立っていた。)に何 kmにもわたり、こぶが長々と褐色の身を横たえている。そのうち1本でいいから手もとにくれば、良いみやげになるのに……まったく残念。

そろそろ記憶もぼやけ出している。おぼろげにもうもうと熾煙立ちのぼる地獄谷や、饅頭から湯気の出ているような昭和西山を思い出す。多分ホームシックと疲れにのびていたころだろう。この文も書きかけにしていたら秋風が吹き出した。北海道の涼しさを思い出す必要もなくなった。

試薬は和光純薬/

ウロコ印



ノマークを

特約店

小泉薬品株式会社

仙台市長町北町 TEL(3)9131

小泉薬局 支店 大町小泉薬局

仙台市長町北町
TEL(3)9131

仙台市大町五丁目
TEL(2)2171

医 薬 品
衛 生 材 料
度 量 衡

フ タ ミ 薬 局

連 坊 1 2 7
TEL(3) 代 4195

合宿雑感

福見 宏

「イヤー会津磐梯山は……」という歌声が調和されて聞える。いや自分も歌っているのだっけ。調和されていると言うのは歌っている本人が言うのだからほぼ間違いないだろう。3時間以上の汽車の旅にも全く疲れを見せず、乗り換えたバスの中で合唱しているのだ。これは混声合唱による合宿である。読んでいる方は小生が座っているかと考えるでしょうが残念。立っていたのです。なぜならレディがいりしたからです。紳士である以上あたりまえでしょうが、新しく買った靴をはいていたおかげで靴ずれがいたく少しつらかったですよ。我々の宿泊地は松林に囲まれ湖を見下せる高台にあり、丁度この日は天気が良かったので、湖の青さと空の青さが実に美しい。

室に着くとさっそく活動し始めた。活動とは水泳へ行く準備なのだ。小生は水泳では絶対に溺れないという程度の自信を持ち合わせていたので、カップ連中と出かけた。道を下り湖畔に出ると、どこかの女の人の赤いガウンが眼に写ったが、そんなものには眼もくれない積もりで水に飛び込む。いや実に冷たい。しかし快適である。それは東京湾のような、磯の匂いをはるかかなたにおき腐敗までしていることがなければ、うにもくらげもない。当たり前だ。湖だもの。あちらこちら泳ぎ廻っている内に、どうにも寒くてやりきれなくなったので、上がったらなおさら寒い。着換えていると「ボートに乗りたいのだけれど漕いで」などと農学部2年の女性から言われたが、何も断れる理由がなかったので引き受けた。彼女はボートを引き寄せると、さっそくと最後部に座ってしまった。彼女が金を払ってくれるものと思っていたのだが、こうなったら仕方がない。やがてボートをこぎ始めたがどうも合点がゆがない。彼女から言い始めていて、しかも年長者なのに何故俺がボート代を払わねばならないかと。おっと危い！横からボートがぶつかってくる。そうそう紳士だっけ。しかし話している内にはいつしかその様な事は頭中から消えうせてしまった。

帰ってみると歌声が聞こえる。時計を見ると5時を過ぎていること30分。たしか練習は5時から始まるのだった。モウカッとどなられるかとびくびくし、すまなそうな顔付をして、後について口を動かし始める。

朝5時に起こされ、睡たい眼をこすり、いやいや起き上がると、今日炊事当番だと言われた。そう言えば昨晚言われたような記憶もかすかにある。炊事場へ行くと女の人達はもうとっくに起き、色々やっている様であった。申し訳ない。やがて手拭を頭にかぶり、犬の模様のついたエプロンを貸る。じやがいの皮むきもやらされ、丁度女中さん（いや家の方では必ずお手伝さんと言った）の召使い

のように使われながらも、一生懸命やったかいがあって、ようやく定刻に間に合う。このとき母の毎日の仕事も楽でないなという、反省的な気持が浮んできたのは、やはり下宿生活をして家族のもとを離れて生活しているからだろうか。

色々生活を送っている内に最後の晩になった。井型を組んだフマイアストームを囲み、歌い、だべり、さては仮装をやることになり、小生のグループはフラダンスをやるかと決め腰の振り方の練習を10分ぐらいしたがどうもうまくいかない。いかにも狂気じみた様ではあったが割に評があったらしい。火を囲んでいる時に火の本質なるものを知らされた。火は燃えている。どんどん音をたて燃える。だがやがて消えていく。ただこれだけの事であるが、その内に何かを象徴しているような気がしてきた。詩にも表わせ得るような――

我々皆、その火の消えつきぬ内に、ローソクにつけ、一列になり湖へと下っていく。暗闇の中を点々と灯されている火は非常に綺麗である。湖畔へ下り合宿生活の成功を振り返りながら、そのローソクを砂の上に立て、しばらくの間、沈黙の内で見入っているのだった。道を通る自動車も我々の気持が通じたのか、あるいは何事かと驚ろいたか、どの車も通るごとに停止していった。秋の虫が寂しそうに鳴いている。

「人生の歩み」

吉沢 香子

時は刻々と流れゆく。
意気地無し of 者よ！
一体あなたは何をしているの？
時の流れに任せているだけ？
ぼんやりしているだけ？

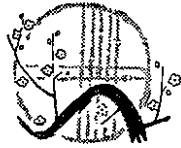
それではつまらないわ。
あなたの存在が無価値だ。
幸か一、不幸か――
人間として生まれたあなたなのに。

人間として生まれたことに
誇りと自分を持って歩むべきだ。
そこから明日が生まれ
未来が開かれるのに……
迷いが出たら涼みきった青空を見よ。
そして心を大きく持つのだ。
新しい力が喜び湧いてくる

そうしたら、もう一度考えるのだ。
あなたの価値を一。
目的を一。
人生を一。

うぐいす

真田 敬子



餌をやるうとして、鳥かごの戸を開いたとたん、うぐいすはもう青空の自由な光の中に飛び去っていた。父が大切にしていたものだけに、私はどきどきとした。時々、かごの中でちよんちよんととまり木を行ったり来たりしている無心なうぐいすを見て、ひどくかわいそうになり、放してやろうかと思った事もあったのだが、あの突然パツと逃げられた時の私の気持は、全くみじめなものだった。当時、父は病気でねており、それが又、私のうぐいすについての古い思い出とつながりがあるようで、私はひどく不安をおぼえた。“父はなおらないのではないか”という考えが瞬間的にひらめいたからである。

家であっていたうぐいすがさえずり始めるのはいつも12月下旬のころだが、始めは少し練習不足のせいか流調な、もの悲しい響きがなかなか出ない。しかしその時折しくじっては、又くり返して鳴き出す様子が本当にかわいい。何時もそんな鳴き方をするうぐいすを見ていると、おじが逝った日が寒々と浮かび、何か非常ななつかしさを感じるのである。仙台の原の町の草深い所に、おじは居をかまえていた。(もう大分前の事なので、多分、今はあの野原も宅地になってしまったかも知れない。) 私は小さい時からおじにかわいがられたので、きとくの電報と共に父と上仙した。雪が降るうすら寒い朝に、おじは私達と話をすることもなく、意識不明のまま逝ってしまった。葬式その他の準備で家の中は騒々しく、私もあちこちわからないながらも、使われて、走りまわっていたのだが、ふと縁側のかたすみに、小さな鳥かごが置かれているのに気が付いた。近づいて行って見た。きびしい顔立の小鳥だった。私があまりそばへ行きすぎたためか、小鳥は恐怖感をひどくせかせかと鳥かごの中ではばたく事で十分に現わしつくしていた。

私は気の毒になったので立ち去ろうと思って後をふりむくとおぼが、沈んだ様子で歩いて来るのが見えたので、どうしたものか、とまどいつつ鳥かごに目を向けた。おぼは鳥かごのそばに来てしゃがんだ。「お父さんが死んであんたを大事にする人もいないから放そうね」とうぐいすに話しかけて鳥かごの戸を開いたが、うぐいすはおびえたような様子でじっとして動かなかった。私は原っぱに行って離して来ると言って、鳥かごをかかえ、下駄をつっかけ、外に飛び出した。積もった雪がきらきら光って目がひどく痛かった。「おじさんが死んであんたを大事にする人もいなくなったから放そうね。」私も同じ言葉をくり返し戸をあけてやった。今度はひどくあわてたように、バタバタと羽音をたてて、低く飛んで行った。雪が止んで、ぼんやりと赤い太陽が光っていた。白い原っぱがひどく空しく広がって

た。私は白い息をはきながらゆっくりと又家にむかって歩き始めた。その時「ケキヨキヨ、ホーホケキヨ」と、うぐいすが後の方で鳴き出したので、私はあわてて後をふりかえった。めだつ程の木はなく、ぼうぼうと枯れ葉が、雪をかむっているの、鳥をみつめる事は出来なかったがさえずりは止まないでしばらく続いた。私はだまって立って、声の方向をさぐるうとして耳をそばだてたが、四方から音が響いて来るような気がしてならなかった。哀悼歌かも知れない。私は又歩き出した。うぐいすの声は次第に遠のいて行ったが、断えず単調な鳴き声はひびいた。時々ホーホケキヨという大事な1小節が途中で切れて、ケキヨケキヨとつまづいたりしたが、全体から見るときれいにすんだ歌であった。まだ12月だったんだもの練習不足だったに違いない。その時は夢中だったので、深く歌を鑑賞出来なかったが、山に出かけて汗をふき取るためとか木影に涼を求めて立ちどまった時等、こだまして、弱くなったり強くなったりして響いてくるうぐいすの歌は、古典的な重々しさを持っているように思う。かっこうが、オルゴール的な軽快さでさえずれば、うぐいすは日本の古いお琴でピンピンとはね返してよすような気がする。

—うぐいすがにげて2週間ばかりして父は全快した。私は、父が快方に向かう迄の数日間、うぐいすがすい込まれていった青空をどんなに不安な気持ちでながめた事か。が今では、うぐいすが奪われた自由をとりもどした返礼に父に健康を置いて行ったのかも知れないと、ひどく子供じみた満足感をもって青空を心いくまで眺めているのである。(2年)

ある夕方

小山 秀 機

実験が終った。川内にも夜のとばりが降りた。薬学科2年の仲のいい4人がLビヤホールのテーブルに向っている。彼らは時々こうしてビヤホールに集まる。下らぬ雑談に花が吹く。この時こそ彼らの顔は生々と輝く。

A君は大の酒豪である。他の3人が半分もまだ飲まないうちに2杯目を注文する。

「俺はこう思うよ。もしこの世に酒がなければ人生はつまらぬものになるだろうな。喜びにも酒、悲しみにも酒だよ。特に悲しみの場合にはね。」と快気焰をあげる。

B君はほとんど酒を飲まない。それでも付き合いのために1番小さいジョツキを注文してもてあまし気味である。

「酒なんて全然うまいとは思わないね。菓子を食べる方がましだよ。勿論これによって人間関係がうまくいくという利点は認めないわけにはゆかないが、それがなければ今頃こんなことしてないよ。それに酒でどんなに不幸になる人が多いか計り知れないからね。」

「もしこの世に酒がなくなれば、やっぱり人生は淋しいものとなるんじゃないかな。酒を飲むことにも長所もあれば短所もあるよ。だがその長所と短所を比較した時、基準を全体的な人間生活に置くとすれば、当然長所の方が大きくなるのではないかな。この点で僕は酒の存在も酒を飲むことも認めるよ。後は程度問題だね。そこが酒の魔力というものだよ。」C君は理屈っぽくまくしたてる。

「酒の話なんてどうだっていいよ。そんな問題は、20才前後の僕らに議論する資格はないね。まあ10年もたってクラス会でもやれば、大いに議論すればいいよ。」このD君の言葉に3人は笑い出した。「そういえば僕はまだ未青年者だよ。いやすまん」A君はてれくさそうに顔を上げた。

まわりはいっぱいの人で、酒場らしい雰囲気が出る映画音楽と解け合ってすべての人々の心を浮きたたせた。1日の仕事から解放された人々の憩いのひと時であった。男の一ぱん愉快な時であった。

「この曲は余り好きじゃあないけど、“太陽がいっぱい”の主題歌はいいよ。映画は大したことはないけど。」

「映画の話しただけど、この前の“風と共に去りぬ”はどう思う。あのスケールの大きさ、素晴らしい色彩、それにも増して美しいオハラ……。あのような女性は僕の理想だよ。強烈な情熱、力強い生き方、日本の女性にもあのような人がいたらなあ。もっとも自分がその相手にしては、不相応すぎるかもしれない」A君は体を乗り出す。

「僕はそう思わんよ。確かにスケールの大きさや色彩の素晴しさなどは、この映画の出来た時代を考えると感嘆のほかはないが…、ああゆう女性はいやだね。勿論情熱の強い人はいいが、日本的な女性の方がもっといいよ。あの映画の主題にしても南北戦争時代に生きた1人の女性オハラの愛の遍歴にすぎないからね。僕はそれより人間のヒューマニズムを歌い上げた“ラインの仮橋”の方が優れていると思うよ。なぜって1人の女性の生活記録よりも、人類全体に通じるヒューマニズムの方がより高い次元にあると思うんだ。」

「僕はもっと大きくみて“風と共に去りぬ”も高いヒューマニズムを歌い上げていると思うよ。それはメラニーによって、一番体現されていると思うんだ。丁度“ラインの仮橋”の名前は忘れたけど、あのパン屋に体現されたヒューマニズムと同様にね。それはオハラは僕に余り理解出来ないよ。そういう女性に出合ったこともないし、典型的な日本女性とはかなりかけ離れているのではないかな。自分に理解でき、一番引きつけられたのはその強い生き方なんだ」

「僕もそうだ『正にその力強い生命かな』だよ僕は自分が消極的な人間だからそんな生き方に非常に魅力を感じるね。だからもし僕が女性を選ぶとすれば自分の性格と違う女性を選ぶよ。人によっては似た性格の人がいいと言うけれど、それにも理由があるのだろう。人が何かを選ぶ場合、自分の性格などと比べてみて自分に合うものを求める

人と、自分のそれと逆のものを求めていこうとする人があると思う。僕はその後者なのだ。」

「その性格のことだけど僕のクラスはファイトがないね。女性が多すぎるのが第一原因だが、それはしかたがないよ。それ以外にクラスの1人1人をとってみても消極的な人間ばかりだろう。他のクラスが全くうらやましいよ。」

「いや他のクラスだってそんなに変りはないよ。東北大生全部がそうに見えるし大きくいえば、青年すべてがそうじゃあないか。実際何かやろうとしてもすぐ結果を考える。結果を考えてくよくよし尻ごみする。これでは青年という名が泣くよ。僕は結果にそんなに重きを置かない。結果にいたるその過程が大切だと思うよ。そのファイトが大切だと思うよ。何かをがむしやらにやっつてその結果にくよくよする必要はないよ。丁度若い力士ががむしやらに相手の胸にぶつかって最後に打ちやられたとしても、何んらかの得るところがあるようにね。僕達が社会を動かすようになった時、何んらかの助けになると思うよ。こんなことはお前の仮説だといわれたらそれまでかもしれないがね。」

「クラスのことを考えるとやっぱりファイトがたりないね。君のいうことは十分わかるよ。まあ、そんなに堅苦しく考える必要はないがね。この点では僕達にも大いに責任があるわけだ。薬学科4期生として何かをやらなければ気がすまないね。僕が仙台に来たのは、この新しい建設の1人たることに魅力を感じたからと言ってもいいよ。

“どおせやるならでっかいことなされ”だよ。そのためにはクラスがまとまり、全体でこういう目標に向かって進んでいくことこそ僕達の使命ではないかと思うよ。」

「確かにクラスで何かをすれば、出来るだけ多数都合をつけて出席してもらいたいね。そして薬友会にも大いに文句を言うべきだよ。その中からいい考えが出てくるから。」

「では薬学科4期生を祝して乾杯といきたいとこだが、空っぽだよ。この辺で引き上げようか。あんまり長すぎるからなあ。」彼らは通りに出た。ネオンの光が眼に飛びこんだ。その下を忙がしそうに人々が通り過ぎる。彼らは四方に散っていく。
(2年)

成瀬科学器械株式会社

本社 仙台市国分町125
工場 電話仙台3—3246・8482
東京 東京都千代田区西神田1の11
営業所 川合ビル 電話(301)3326

1961年度薬友会中間報告

委員長 庄 司 堅 次 郎

4月22日 第1回薬友会委員会開催

議題

役員選出

新入生歓迎会主催について

あみこす委員の選出

4月29日 新入生歓迎会

於三神峯 約120名参加

5月13日 第2回委員会

議題

あみこす編集について

5月27日 第3回委員会

議題

今年度の事業計画

薬友会に関するアンケートの見当

川内会員に金5,000円を活動費として支出

5月28日 対東北薬科大学親睦野球大会主催

後懇談会をやる

6月24日 第4回委員会

議題

三徳化学工場見学について

7月1日 三徳化学工場見学主催

約50名参加 川内会員多し

7月7日 京田守弘会員の葬儀主催

9月9日 第5回委員会

この会より職員、卒業生を加えた拡大委員会とする。

議題

規約改正について

教室対抗野球について

9月中旬 教室対抗野球戦主催

生薬・薬作連合チーム優勝

9月26—28日 故京田守弘会員の遺作品展示会を後援

10月14日 第6回委員会

議題

規約改正案通過

京田氏遺族よりの贈金について

10月28日 第7回委員会

議題

臨時総会開催について

4人委員会を作り京田さんからの贈金を図書購入のため具体化をはかる

11月4—7日 dance 講習会 主催

11月10日 臨時総会開き規約改正を行う

11月17・18日 卓球部全国大会初出場を後援

以上が現在までの本年度の記録である。

新入生歓迎会は当の新入生が少い歓迎会となってしまった。“新入生が歓迎された憶えはない。上級生がダシに使ったのではないか”という悪評判もあった前年度の経験を反省し、いかに新入生を扱うかを考えた末1人1人に挨拶をしてもらうことにした。

結果は“薬学科が1家族の様になごやかに1日を共にしたことはすばらしいことであった”ということであった。

4教室を含めて職員、大学院、学生と約120名の会員が晴天の校の下でフォークダンス、ソフトボール、混声合唱とまずは順調なスタートを切った。3年生のダンス指導、4年大学院生の歌詞指導もよかった。

対東北薬科大学との親善野球大会は薬大グラウンドで行った。始めてのことだし又急な話しでもあったので両学の4年生中心でやることになった。

試合後同大合宿所で懇談会をやりこの様な対抗戦を野球や男子のみにかぎらず総合的、定期的に関ることなどを話しあった。非常に愉快な1日で親善の役割を演じえたと思う。4年の小笠原君が骨折ってくれた。両軍黄色い声の応援も花やかであった。学会以外にこういった対外的な活動を大いにやりたいものだと思う。

4年の間では三徳化学よりもキリンビール工場の声が多かったが、先輩の佐藤実氏がおられるので氏を通して会社に見学を申し込んだ。3週間も前から計画していたのだが相肉学会とダブったので行きたい人も参加できなかったのは残念な事であった。

約50名が熱心に電解法 H_2O_2 の製法を見学した。来年は是非ビール会社に行かれたら良いと思うしハイキングをかねて石巻のパルプ工場も良いと思う。

故京田さんの葬儀は北山の仙台火葬場で薬友会葬で行った。この大事件はいろんな点で薬友会の矛盾が出たと思う。薬友会はあまりに未熟で実力がなかったことが原因。とにかく先生方の頭にある東大の薬友会とは雲泥の差があった。

しかし今後の薬友会にとってこのことは薬になった。というのはこの機会に、もっとスッキリした動きやすい規約を改正することになったからだ。奥井学生補導係、岡野会長両先生に相談して内山、合屋先生を職員代表にしていたが、大学院から中野さんから2名を加えて従来の学生16名による委員会を20名とし規約改正、京田さん御遺族からの寄附金の審議を続けた。

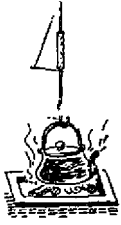
薬友会は今後増々発展するだろうが、前途にはいろいろな問題がある。その1つは良陵会との関係である。医薬協調が叫ばれている時薬友会が独自の立場で大きくなることは考えものである。医学部薬学科である以上医学科とは今後も親密であってほしいものだと思う。

内部においてもまだまだ未解決なことがあるだろうが会員が1人1人良識とあたたかい手で育てるならばいかなる問題もよりよく解決できることだと確信する。

本年度は精一杯やっても、これしか出来なかった来年度を期待する。

昭和 36 年度職員学生名簿

60 ページ～64 ページ



編集後記

○4月から11月までの、我々のささやかな努力がようやく「あみこす 第5号」として実りました。小生も学部の原稿集めに四苦八苦頭を下げることは人一倍よく憶えました。それでもよく“あみこす”を生みっぱなしにせず一生懸命協力してくれた皆さんに心から御礼上げたい。教養部編集委員諸君の努力に、第1期生の先輩諸君に、特に三野、高石両先輩の暖い御協力に、薬友会委員の方に心からの感謝を表したい。いつの日か“あみこす”が薬学科全体のそして先輩、後輩を結ぶ、一本の太い絆となることを夢んでいます。

(佐藤進)

4年編集委員 及川 節夫
山本 紀一
佐藤 進
小池 克郎

○「教養部をいかに過すか」のアンケートを、何度も請求されながらようやくまとめ終ったと思ったら、各種実習のレポート書き、植物の標本作り、更には試験も近いとあって身体がもう一つ位欲しい様な毎日の忙しさだ。今になってみると、のんびり過ぎた教養部時代がなつかしい。と同時に、この忙しさをもう少し教養部に配分してもよいのではないかという気もするがどうだろう。

(目黒)

3年編集委員 八木 治彦
嶺 岸 謙一郎
山形 修
飯塚 義夫

○「あみこす」第5号もいよいよ発刊の運びとなりました。学生実験室での編集会議で兎や20日鼠の悪臭に悩まされたり、アンケートの回収率の悪さを嘆いたりしましたが、様

々な仕事を通しての経験は有意義で楽しいものでした。教養部においては到底知ることのできない事等を先輩の方々のお話から知り、考えさせられもしました。初め考えていたことの半分もできず、つくづく編集のむずかしさを知りました。私達の非力さから多忙な3・4年生の方々に余計な負担をかけてしまいました事をお詫び致します。

(2年一同)

2年編集委員 熱海 駿 雄
栗原 純 夫
兼松 明 子
矢戸 凱 子
細野 宏 子
武田 宣 子

○とうとう大学に入って初めての夏休みの大半を広告取りで過してしまっただ。日本橋本町の地図を書ける程に歩き廻り先輩としての意見を聞かせられたり、時には暑い中を来たのだからと麦茶を出してくれるとき、暑さも疲れも消える親切さを感じる。がしかしこれも会社の宣伝の為かな?

(沖田・福見・西)

1年編集委員 沖田 憲 政
福見 宏
西 俊 枝
大久保 礼 子

○最後に終始御協力下さいました諸先生方、並びに諸会社及び皆様方に深く感謝致しますと共に、「あみこす」の今後の発展を祈ります。

表紙 小池 克郎
奈良 武志

高橋長盛堂薬局

仙台市肴町五十一番地
電話 (2) 4548番

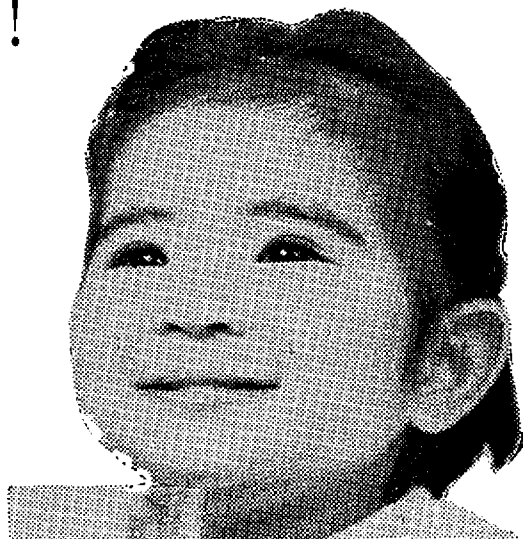
1961年12月20日 印刷

1961年12月22日 発行

あみこす 5号

発行者 東北大学薬友会委員長
庄司 堅次郎
編集責任者 佐藤 進
印刷所 K.K. 針生印刷製本所
仙台市花京院通39
電話(2)3388(2)6644

ジュースのような
おいしい
総合ビタミン！



三共株式会社

新発売！

ミネビタールドリンク

●オレンジ／グレープ／ストロベリー／各四五瓦 九五瓦

●9つのビタミンが入っています。米國スチュアート社の独創的なアイデアと技術をとり入れてつくったものです。9種ビタミンを効力がおおちないように配合……総合ビタミン剤をインスタントジュース型にしたものは、日本でこれがはじめてです。

●フレッシュジュースにそっくり。水にかせば、たちまちフレッシュジュースの味と香りのおいしい総合ビタミン剤ができ上り……お子さまも喜んでのみ、発育に必要なビタミンがたっぷりとれます。スポーツ・ハイキングはげしいお仕事のあとにも

CORTISONE

PREDNISOLONE

DEXAMETHASONE

メタゾロン

ここまで進んだ
抗炎症ステロイド

- プレドニンにより、糖質代謝作用と電解質代謝作用が分離され
- メタゾロンにより、さらに糖質代謝作用と抗炎症作用との分離が可能となった

単位当り薬価

0.5mg錠 1錠 81円30銭
0.75mg錠 1錠 121円90銭

1. 抗炎症作用は、メチルプレドニゾン、トリアムシノロンの5倍以上強力
2. ナトリウム、水の貯留はみられない
3. 糖尿病に対する影響が少なく、消化器潰瘍の発生は極めて稀である。

包装：0.5mg錠および0.75mg錠
各 10錠, 30錠, 100錠
1000倍散 (0.1%) 25g, 100g

大阪市道修町 塩野義製薬株式会社



第一製薬
東京・日本橋

健保新採用

スルファジメトキシン(薬価基準統一名称)

持続性サルファ剤の
一日一回療法

アプシード

- 有効血中濃度は24時間持続します。
- 組織への滲透性が優れています。
- 尿路血石や血尿、胃腸障害、発疹などの副作用は殆んどありません。

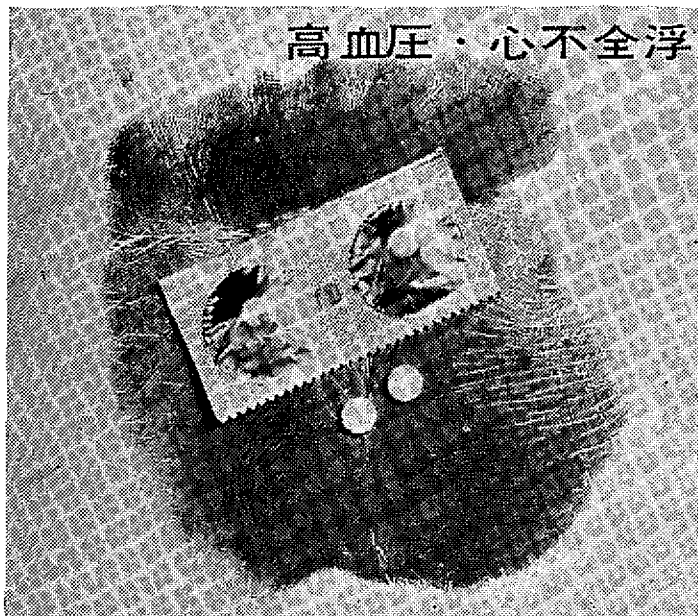
薬価基準

末	1g	単位当り薬価	27円10
シロップ	1cc	〃	5円40
注	10% 5cc 1A	〃	33円
〃	10% 10cc 1A	〃	61円
B注	10% 2cc 1A	〃	17円

包装 末 25g 100g 500錠 (0.25g) 10錠 100錠 シロップ 500cc
注 (10%) 5cc×10A 5cc×50A 10cc×10A 10cc×50A
B注(10%) (皮下：筋注用) 2cc×10A 2cc×50A

又 献 進 呈

高血圧・心不全浮腫・妊娠中毒症



ベハイド

ベハイド〈ベンチルハイドロクロロサイアザイド〉は弊社の研究により創製された純国産品です。

- 少量(1日、1~4錠)の経口投与で、利尿・降圧両効果が著明でしかも体内の電解質バランスを乱さない。
- 耐薬性、副作用(低カリウム血症)は極めて少なく長期治療にも節遮断剤との併用療法に基礎剤として安全で経済的です。

ドクターの杏林



杏林薬品株式会社
東京都中央区日本橋本町4-6

ウロコ印
武田薬品

疲労回復

コンディションの調整
スタミナの増強に

アリナミンは今までのB₁剤では望めない優れた特長をもっています。
例えばのむだけ殆ど全部吸収され長く体内にとどまって強力に作用します。
最近、スポーツマンの常備薬として皆様に広くご愛用を頂いております。
疲れたときは勿論、常用すればコンディションの調整やスタミナ増強にも役立ちます。

腰痛・筋肉痛・便秘・食欲不振にも

★新型ビタミンB₁剤

アリナミン

糖衣錠

三〇錠(三〇〇円) 一〇〇錠(五〇〇円) 三〇〇錠(一、五〇〇円)



武田薬品工業株式会社
大阪市道修町 (東京・札幌・福岡)

☆国内新発売☆

吸収早く 優れた持続性を示す

☆新持続性サルファ剤☆

ストファジン

包装 25g 100g 500g
薬価基準 1g当り 31円60銭

1. 純国産の新サルファ剤
2. 抗菌力は従来のサルファ剤同様強力で結核菌に対しても優れた抗菌力を示す
3. 従来の持続性サルファ剤に比し更に満足な血中濃度と持続性が期待できる

大阪市東区道修町 田辺製薬株式会社 支店 東京・福岡・札幌

アルコ印
田辺製薬